

元総社蒼海遺跡群

元総社小見IV遺跡

平成15年度一般県道足門前橋線バイパス（西毛広域幹線道路国分寺工区）
緊急地方道路整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2003

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

元總社小見IV遺跡

元總社小見IV遺跡

平成15年度一般県道足門前橋線バイパス（西毛広域幹線道路国分寺工区）

緊急地方道路整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2003

前橋市埋蔵文化財発掘調査団



元總社小見IV遺跡 調査区南側全景（北から）



元總社小見IV遺跡出土遺物



元總社小見IV遺跡調査区中央全景（南から）



元總社小見IV遺跡出土瓦

序

前橋市は、雄大な裾野を広げる赤城山を背景に、坂東太郎として名高い利根川や詩情豊かな広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情にあふれた美しい県都です。

前橋市域の赤城山南麓と前橋台地上には、旧石器時代から近世・近代に至るまで、人々の生活の痕跡を示す遺跡・遺物が数多く存在します。特に古墳においては、かつて市域には800余基の存在が伝えられています。その中には大室4古墳をはじめ国指定史跡となっている古墳も9基含まれ、東国古墳文化の中心として位置づけられてきました。また、続く律令政治の時代に入ると、山王庵寺、上野国分僧寺、上野国分尼寺、上野国府の存在が示すとおり政治、宗教、経済の中心地として花開き一大文化圏が形成されました。さらに中世においては、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鍋をけずった地として知られ、近世においては、諸代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東4名城の一つに数えられる前橋城が築かれました。まさに、前橋市はこれまで連綿と続いた歴史を物語る様々な文化財で溢れています。

今年度発掘調査を行いました元總社小見IV遺跡は、前橋市の西部、国分僧寺と国分尼寺の中間点に位置します。主に竪穴住居跡が検出され、律令期以前、律令期、律令期以後の国分僧寺・国分尼寺周辺の集落の変遷を考える上で貴重な資料を得ることができました。

発掘調査にあたり、ご理解とご協力を賜りました市関係部局、地元関係者の方々、厳しい気候の中調査に従事されました皆様に感謝とお礼を申し上げます。本報告書が市史充実の一助となることを祈念して序といたします。

平成16年3月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

団長 阿部 明雄

例　　言

- 本報告書は、平成15年度一般県道足門前横線バイパス（西毛広域幹線道路 四分寺工区）緊急地方道路整備事業に伴う元總社小見IV遺跡埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 調査主体は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団である。
- 発掘調査の要項は次のとおりである。

調　　査　　場　　所　群馬県前橋市元總社町地内
発　　掘　　調　　査　　期　　間　平成15年6月18日～平成15年8月1日
整　　理　　・　報　　告　　書　　作　　成　　期　　間　平成15年8月4日～平成16年3月12日
発　　掘　　・　整　　理　　担　　当　　者　高橋・彦・高坂麻子（発掘調査係員）
- 本書の原稿執筆・編集は高橋・高坂が行った。
- 瓦について松田猛氏（群馬都倉村立川浦小学校教頭）にご教示をいただいた。
- 発掘調査・整理作業にかかわった方々は次のとおりである。

石原義夫・岩木　操・大澤俊夫・大崎洋平・岸フクエ・斎藤亀寿・白石　晃・須田博治・角田　愬
渡木秋子・中澤光江・平林しのぶ・湯浅たま江・湯浅道子・阿部シゲ子・神澤とし江・橋本　茂
- 発掘調査で出土した遺物は、当発掘調査団より前橋市教育委員会に保管を依頼し、前橋市教育委員会文化財保護課で保管されている。

凡　　例

- 挿図中に使用した北は、座標北である。
- 挿図に建設省国土地理院発行の1/200,000地形図（宇都宮、長野）、1/25,000地形図（前橋）、1/2,500前橋市現形図を使用した。
- 遺跡の略称は、元總社小見IV遺跡：15A107である。
- 本遺構及び造構施設の略称は、次のとおりである。

J…創文時代の堅穴住居跡　　H…古墳・奈良・平安時代の堅穴住居跡　　W…溝跡
D…土坑　　O…落込み　　P…ピット・貯蔵穴（住居内Pを貯蔵穴とした）
- 遺構・遺物の実測図の縮尺は、次のとおりである。

遺構　住居跡・溝跡・土坑・落ち込み・ピット…1/60　　縦断面図…1/30　　全体図…1/200
遺物　土器・鉄製品…1/3、1/4　　石器・石製品…1/3、1/4　　瓦…1/5　　錢貨…1/1
- 計測値については、（　）は現存値、〔　〕は復元値を表す。
- セクション注記の記号は、締まり・粘性の順で示す。

◎は非常に締まり・粘性あり、○は締まり・粘性あり、△は締まり・粘性ややあり、×は締まり・粘性なしを表す。
- スクリーチーンの使用は、次のとおりである。

遺構平面図　燒　土…■■■■　灰…■■■■
遺構断面図　構　策　面…■■■■
遺物実測図　須恵器断面…■■■■　炭化物（煤付着など）…■■■■　黒色處理…■■■■
灰釉陶器断面…■■■■　灰釉陶器内面…■■■■
- 火山降下物の略称と年代は次のとおりである。

As-B（浅間B輕石：供給火山・浅間山、1108年）
Hr-FP（榛名ニッ岳伊香保テフラ：供給火山・榛名山、6世紀中葉）
Hr-FA（榛名ニッ岳浅川テフラ：供給火山・榛名山、6世紀初頭）
As-C（浅間C輕石：供給火山・浅間山、4世紀前半～中葉）

目 次

序	i
I 調査に至る経緯	1
II 遺跡の位置と環境		
1 遺跡の立地	1
2 歴史的環境	1
III 調査の経過		
1 調査方針	7
2 調査経過	7
IV 基本層序	8
V 遺構と遺物		
1 壊穴住居跡	9
2 溝跡	19
3 落ち込み	19
4 土坑・柱穴	19
5 グリッド等出土遺物	19
VI 考察	37

図 版

- 口絵 1 調査区南側全景（北から）
2 元總社小見IV遺跡出土遺物

- 3 調査区中央全景（南から）
4 元總社小見IV遺跡出土瓦

- P.L. 1 調査区中央部全景、J-1～3号住居跡、
H-2号住居跡
2 H-3～5・7号住居跡全景
3 H-6・8・9号住居跡全景
4 H-10・11号住居跡全景
5 H-12～16号住居跡全景
6 II-17～22号住居跡全景
7 H-22～26号住居跡全景
8 H-27～31号住居跡全景、W-2号溝跡全景
9 J-1～3号住居跡出土の土器
10 遺構外、H-2～6号住居跡出土の土器
11 H-3・6・8・9号住居跡出土上の土器
12 H-9・10号住居跡出土上の土器
13 H-10～12号住居跡出土の土器

- 14 H-12～15号住居跡出土の土器
15 H-15・17・20～22号住居跡出土の土器
16 H-17・22～28・31号住居跡出土上の土器
17 H-29・31号住居跡、グリッド出土の土器、
H-4・8号住居跡出土の土器
18 H-8～10号住居跡出土の瓦
19 H-10号住居跡出土の瓦
20 H-10号住居跡出土の瓦
21 H-10・11号住居跡出土の瓦
22 H-10・11～13・24号住居跡出土の瓦
23 H-22～25・28号住居跡、遺構外出土の瓦
24 J-1・3、H-10～12・14・17・20～22号
住居跡、グリッド出土の鉄器、古銭、石器

挿 図

- Fig. 1 元總社蒼海遺跡群位置図
2 周辺遺跡図
3 元總社蒼海遺跡群位置図とグリッド設定図
4 調査経過図
5 基本層序
6 時期別の堅穴住居配置図
7 文字瓦・記号瓦・瓦当文様
8 元總社小見IV遺跡全体図
9 J-1・2号住居跡
10 J-3・H-1・2号住居跡
11 H-3～5号住居跡
12 II-6～8号住居跡
13 H-9・10号住居跡
14 H-10・11号住居跡

- 15 H-12～14号住居跡
16 H-15～17号住居跡
17 H-18～21号住居跡
18 H-22～24号住居跡
19 H-25～27号住居跡
20 H-28～31号住居跡
21 W-1・2号溝跡、O-1号落ち込み、
D-1号土坑、P-1・2号ピット
22 J-1～3号住居跡出土繩文土器
23 遺構出土繩文土器、H-2～3号住居跡出
土上土器
24 H-3～8号住居跡出土土器
25 H-8・9号住居跡出土土器、II-8号住居
跡出土上土器

26	H-10号住居跡出土土器	42	瓦43~50
27	H-10・11号住居跡出土土器	43	瓦51~61
28	H-11・12号住居跡出土土器	44	瓦62~70
29	H-12・13号住居跡出土土器	45	瓦71・72・74・75
30	H-13~15号住居跡出土土器	46	瓦73・76~78
31	H-15・17号住居跡出土土器	47	瓦79~84
32	H-19~23号住居跡出土土器	48	瓦85~94
33	H-23~26号住居跡出土土器、 H-24号住居跡出土上鍵	49	瓦95~102
34	H-26~29・31号住居跡、D-1号 土坑出土土器、グリッド出土土鍵	50	瓦103~113
35	瓦1~7	51	瓦114~123
36	瓦8~15	52	瓦124~132
37	瓦16~23	53	瓦133~139・141
38	瓦24~31	54	瓦140・142~148
39	瓦32~35	55	瓦149~155
40	瓦36~38	56	瓦156~162
41	瓦39~42	57	鉄製品、古銭、石器
		58	石器

表

- Tab. 1 元総社苔海遺跡群 周辺遺跡概要一覧表
- 2 住居跡一覧表
 - 3 電跡一覧表
 - 4 溝跡計測表
 - 5 土坑・ピット・落ち込み計測表
 - 6 出土遺物観察表（縄文）
 - 7 出土遺物観察表（奈良・平安）

- 8 瓦観察表
- 9 鉄器・鉄製品観察表
- 10 石器・石製品観察表
- 11 瓦叩き具の種類別出土瓦片
- 12 瓦の種類と胎土
- 13 文字・記号瓦



1 : 200,000

0 5 10 15 20 千メートル

Fig.1 元絶社蒼海遺跡群位置図

I 調査に至る経緯

平成15年2月18日付けで、群馬県高崎市木事務所より県道足門前横線バイパス（西毛幹線道路国分寺工区）緊急地方道路整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出された。前橋市教育委員会ではこれを受け、内部組織である前橋市埋蔵文化財発掘調査団 団長 阿部明雄に対し、調査実施を通知し、調査団はこれを受諾した。

平成15年5月29日、調査依頼者である群馬県高崎市木事務所と前橋市埋蔵文化財発掘調査団 团長 阿部明雄との間で、本発掘調査の委託契約を締結し、6月18日に現地での発掘調査を開始するに至った。

なお、遺跡名称「元總社小見IV遺跡」の「小見」は旧地籍の小字名を採用し、ローマ数字の「IV」は過年度に調査を実施した遺跡と区別するために付したものである。

II 遺跡の位置と環境

1 遺跡の立地

前橋市は、利根川が赤城・榛名の両火山の裾合を経て関東平野を望むところに位置し、地形・地質の特徴から、北東部の赤城火山斜面、南西部の前橋台地（洪積台地）利根川右岸、南部から南西部にかけての前橋台地の利根川左岸、東部の広瀬川低地帯（洪積低地）の4つの地域に分けられる。

本遺跡の立地する前橋台地は、約24,000年前の浅間山爆発によって引き起こされた火山泥流堆積物とそれを被覆するローム層（水成）から成り立っている。台地の東部は広瀬川低地帯と直線的な崖で画されていて、台地の中央には現利根川が貫流している。現在の利根川の流路は中世以降のもので、旧利根川は現在の広瀬川流域と推定される。台地の西部には榛名山麓の和馬ヶ原扇状地が広がり、榛名山を源とする中小河川が利根川に向かつて流下し、台地面を刻んで細長い微高地を作り上げている。總社・元總社付近の染谷川や牛池川は、微高地との比高3m～5mを測り、段丘崖上は高燥な台地で、桑畑を主とした畠地として利用されてきた。

本遺跡は、前橋市街地から利根川を隔て、西へ約4kmの地点、前橋市元總社町地内に所在している。関越自動車道の側道脇に位置しており、交通量の多い場所である。遺跡地の南側には国道17号・主要地方道前橋・群馬・高崎線が東西に走り、東側には市道大友・石倉線が南北に走り、これらの幹線道路を中心にオフィスビルや大規模小売店が進出している。

2 歴史的環境

本遺跡地周辺には、古墳時代後期から終末までの上野地域と中央政権との関連をうかがわせる總社古墳群と山王庵寺、古代の中心地であった上野国府、さらに、中世には長尾氏により国府の驅割りを利用し築かれたとされる蒼海城があり、歴史的環境に優れている。周辺の埋蔵文化財発掘調査によって、これまで連續と続いてきた歴史を物語る多くの新しい知見が集積されている。

绳文時代の遺跡としては、前期・中期の集落跡が検出された産業道路東・西遺跡や上野国分寺・尼寺中間地域が筆頭に挙げられ、縄文文化を考える上で重要な資料といえる。

弥生時代の調査例は少ない。当時の慣作の様子を示す水田・集落跡等が検出された日高遺跡、後期住居跡が検出された上野国分僧寺・尼寺中間地域や桜ヶ丘遺跡、下東戸遺跡等に散見するだけである。

古墳時代の遺跡としては、まず本遺跡のうちに北に広がる総社古墳群が挙げられる。総社古墳群を代表するものには、前方後円墳である遠見山古墳、川原石を用いた積石塚である王山古墳、前方部と後円部にそれぞれ石室をもつ二段に築造された前方後円墳の総社二子山古墳、横穴式石室をもつ方墳の愛宕山古墳、県内終末期と考えられ仏教文化の影響を強く受けた方墳の宝塔山古墳・蛇穴山古墳がある。また、宝塔山古墳の南西500mには白鳳期の建立と考えられる山王庵跡（放光寺）がある。さらにこの寺の塔心礎や石製鶴尾、根巻石等の石造物群は、宝塔山古墳の石棺や蛇穴山古墳の石室と同系統の石造技術を駆使して加工されている。これらのことから、この寺は上野地域を治めていた「上毛野氏」の氏寺であり、この古墳群には「上毛野氏」一族が葬られているとも考えられている。これらから、この地が「車評」の中心地として、仏教文化が古墳文化と併存しながら機能していた様子が窺える。

奈良・平安時代に至ると、上野国府、国分僧寺、国分尼寺の建設と相まって、本地域は古代の政治的・経済的・文化的中心地としての様相を呈してくる。律令期における国司の政治活動の拠点で地方を統治する機能をもつ国府は、元總社地区に置かれたとされる。

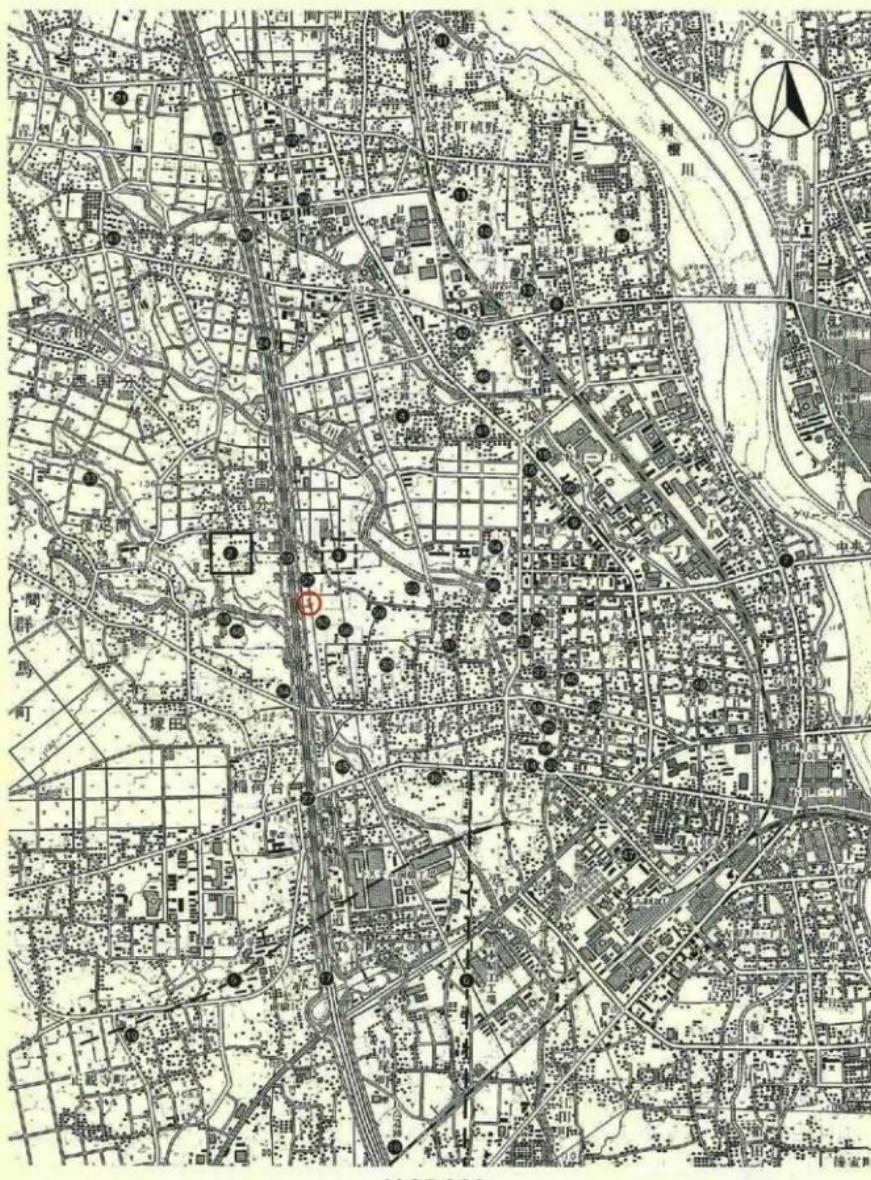
国府に関連する遺跡には、県下最大級の掘立柱建物跡が検出された元總社小学校校庭遺跡や、「國厨」・「曹司」・「國」・「邑厨」等と書かれた墨書き上器や人形が出土した元總社寺山遺跡、律令期の掘立柱建物跡と考えられる柱穴が検出された元總社宅地遺跡がある。また、国府城の推定を可能にした大規模な東西方向の溝跡が検出された開渠槽遺跡と南北方向の溝跡が検出された元總社明神遺跡の調査成果により、国府城の東外郭線が想定されるに至った。さらに、元總社小見内Ⅲ遺跡からは、国分尼寺の東南隅から国府に向かうと思われる溝跡が検出されており、昨年度調査が行われた元總社小見内Ⅳ遺跡からもこの溝の延長と思われる溝跡が検出されている。また、元總社小見内Ⅲ遺跡からは官人の用いたと考えられる円筒瓦、巡方（腰帶具）も出土し、国府について考えるうえで貴重な資料となっている。

国分僧寺は大正15年に国指定史跡となり、昭和40年代からは部分的ながら調査が進められるようになった。本格的な発掘調査は昭和55年12月から始まり、主要伽藍の礎石、築垣、堀等が確認されている。さらに国分尼寺の調査では、昭和44・45年に推定中軸線上のトレンチ調査が行われ伽藍配図が推定できるようになった。さらに平成12年に前橋市埋蔵文化財発掘調査隊で南辺の寺域確認調査を行い、東南隅と西南隅の築垣、それと平行する溝跡や道路状遺構が確認された。国分僧寺・尼寺周辺では、開越自動車道建設に伴う発掘調査が行われ、上野国分僧寺・尼寺中間地域では、当時の大規模な集落跡や掘立柱建物跡群が検出されている。

また、群馬町の調査等により、本遺跡から約1km南の地点にN-64°-E方向の東山道（国府ルート）があることが推定される。また、日高道は、日高遺跡で検出された幅約4.5mの道路状遺構を国府方面へ延長したものである。これらは、当時の交通網を物語る重要な遺構である。

中世に至り、永享元年（1429）、上野国守護代の長尾氏によって古代国府跡に築かれた蒼海城は城郭としての機能を有し県内でも最古級に位置づけられる。しかも、県下最初の城下町を形成したと考えられている。蒼海城の縄張りは国府と関係が深く、現在の本地域の主要道路はこの縄張りに沿って作られていると推測される。

このように歴史的に重要な役割を果たしてきた總社・元總社地区であるが、その中でも上野国府が所在したと推定される元總社地区は注目される地域の一つである。元總社蒼海上地区画整理事業に伴い、平成11年より継続的に本地域の発掘調査が行われていく。これにより、手つかず状態であった本地域の全容が明らかになっていくであろう。今後、この調査の進捗によって、上野国府や蒼海城が解明されていくことを期待する。



1:25,000

5000 1000 500 100 500

Fig.2 周辺道路図

Tab. 1 元總社苔海道路群周辺道路概要一覧表

※年代の（ ）は調査開始年度

番号	道 路 名	調査年度	時 代：主 な 遺 構・出 土 遺 物
1	元總社小見IV道路	2003	本道跡
2	上野国分寺跡（宗教委）	1980 ↓ 1988	奈 良：金堂基壇・塔基壇
3	上野国分尼寺跡	1989	奈 良：西南隅・東南隅基壇
4	山上庵寺跡	1974	古 墓：塔心礎、横巻石
5	曳山道（推定）		
6	日高道（推定）		
7	千山古道	1972	古 墓：前方後円墳（6C中）
8	鶴穴川古墳	1975	古 墓：方墳（8C初）
9	稻荷山古墳	1988	古 墓：円墳（6C後半）
10	愛宕山古墳	1998	古 墓：円墳（7C初）
11	總社二子山古墳	未調査	古 墓：前方後円墳（6C末～7C初）
12	遠見山古道	未調査	古 墓：前方後円墳（5C後半）
13	宝塔山古墳	未調査	古 墓：方墳（7C末）
14	元總社小学校校庭道路	1962	平 安：掘立柱建物跡、柱穴群、周溝跡
15	產業道路東北道路	1966	繩 文：住居跡
16	產業道路西側道路		繩 文：住居跡
17	中尾通路（事業団）	1976	繩 平安：住居跡
18	日高通路（事業団）	1977	弥 生：水田跡、方形周溝墓、住居跡、木型農耕具 平 安：条里制水田跡
19	正觀寺遺跡I～IV（高崎市）	1979 ↓ 1981	弥 生：住居跡 古 墓：住居跡 魏・平安：住居跡 中 世：溝跡
20	上野国分僧寺・尼寺中間地域 (事業団)	1980 ↓ 1983	繩 义：住居跡、配石遺構 弥 生：住居跡、方形周溝墓 古 墓：住居跡 魏・平安：住居跡、掘立柱建物跡 中 世：住居跡、溝跡
21	清里南部遺跡群 清里南部遺跡群Ⅲ	1980	繩 文：ピット 平 安：住居跡、溝跡
22	中島通路	1980	繩 平安：住居跡
23	下東西通路（事業団）	1980 ↓ 1984	繩 文：屋外埋藏 弥 生：住居跡 古 墓：住居跡 魏・平安：住居跡、掘立柱建物跡、樹列 中 世：住居跡、溝跡
24	国分境遺跡（事業団）	1990	古 墓：住居跡 魏・平安：住居跡
24	国分境II遺跡	1991	古 墓：住居跡 奈良・平安：住居跡
24	国分境III遺跡（群馬町）	1991	古 墓：住居跡 奈良・平安：住居跡、墓跡 中 世：土坑墓
25	元總社明神道跡 I～XⅢ	1982 ↓ 1996	古 墓：住居跡、水田跡、堀跡 平 安：住居跡、溝跡、大形人形 中 世：住居跡、溝跡、天目茶碗
26	北原道路（群馬町）	1982	繩 文：土坑、靠石道構 古 墓：水出跡 平 安：住居跡、掘立柱建物跡
27	鳥羽遺跡（事業団）	1978 ↓ 1983	古 墓：住居跡、鐵冶場跡 奈良・平安：住居跡、掘立柱建物跡（神威跡）
28	南京橋遺跡	1983	奈良・平安：溝跡（上幅6.5～7 m、下幅3.24 m、深さ2 m）
29	楠木道跡	1983	奈良・平安：住居跡、溝跡
29	楠木II道跡	1988	奈良・平安：住居跡、溝跡
30	草作遺跡	1984	古 墓：住居跡 平 安：住居跡 中 世：井戸跡（苔海域に伴う）
31	桜ヶ丘道跡		
31	總社桜ヶ丘遺跡	1985	弥 生：住居跡
31	總社桜ヶ丘II遺跡	1987	平 安：住居跡
32	闇泉橋南遺跡	1985	古 墓：住居跡（鬼高塚） 奈良・平安：溝跡
33	後醍醐通路I～III（群馬町）	1985 ↓ 1987	古 墓：住居跡 奈良・平安：住居跡 中 世：道路状遺構
34	塚田村東遺跡（群馬町）	1985	平 安：住居跡
35	寺山遺跡	1986	平 安：溝跡、不製品

遺跡名	調査年度	時代・主な遺構・出土遺物	
		時代	主な遺構・出土遺物
36 天神遺跡	1996	奈良・平安：住居跡	
天神II遺跡	1998		
屋敷遺跡	1998	古墳：住居跡	
37 屋敷II遺跡	1995	平安：住居跡 中世：堀跡、石敷遺構	
38 大友屋敷II・III遺跡	1997	古墳：住居跡 平安：住居跡、溝跡、地下式土坑	
39 頸越遺跡	1997	頸・平安：住居跡、溝跡	
40 頸越II遺跡	1998	平安：住居跡	
41 昌栄寺西向遺跡・II遺跡	1998	縄・段・平安：住居跡	
		古墳：住居跡、溝跡	
42 村東遺跡	1998	奈良・平安：住居跡 中世：堀跡	
43 熊野谷遺跡	1998	绳文：住居跡 平安：住居跡、溝跡	
熊野谷II・III遺跡	1999	平安：住居跡	
44 元総社・寺田遺跡I～III (事業団)	1998 1999	古墳：木田跡、溝跡 奈良・平安：住居跡、溝跡、人形、唐串、墨書き土器	
45 弥勒遺跡	1999	古墳：住居跡	
弥勒II遺跡	1995	平安：住居跡	
46 大屋敷遺跡 I～VI	1992 2000	縄文：土坑 古墳：住居跡 奈良・平安：住居跡 中世：掘立柱建物跡、地下式土坑、溝跡	
47 元総社稻葉遺跡	1993	縄文：土坑 平安：住居跡、瓦塔	
48 上野国分寺多道遺跡	1996	古墳：住居跡 平安：住居跡	
49 大友毛地蔵遺跡	1998	平安：水田跡	
50 総社闍泉明神北II遺跡	1999	古墳：島跡、水田跡、溝 中世：堀跡	
總社闍泉明神北II遺跡	2001	古墳：住居跡、溝跡 平安：住居跡、溝跡	
51 元総社宅地遺跡 I～23番地	2000	古墳：住居跡 平安：住居跡、掘立柱建物跡、鍛冶場跡、溝跡、道路状遺構 中世：溝跡 近世：住居跡、(五輪塔の一部、塊頭)	
52 元総社小見遺跡	2000	縄文：住居跡 古墳：住居跡 奈良・平安：住居跡、掘立柱建物跡、溝跡、道路状遺構	
53 元総社西川遺跡 (事業団)	2000	古墳：住居跡、墓跡 奈良・平安：住居跡、溝跡	
54 総社甲船荷塚大道西遺跡	2001	奈良・平安：住居跡、溝跡 中世：墓跡 近世：溝跡	
總社甲船荷塚大道西II遺跡	2001	古墳：住居跡、 奈良・平安：住居跡、溝跡 近世：溝跡	
55 元総社小見内II遺跡	2001	古墳：住居跡、溝跡 奈良・平安：住居跡、掘立柱建物跡、溝跡 中世：掘立柱建物跡、溝跡	
56 総社甲船荷塚大道西III遺跡	2002	古墳：住居跡 奈良・平安：住居跡、墓跡、溝跡、溝跡	
總社闍泉明神北III遺跡	2002	縄文：住居跡 古墳：住居跡 奈良・平安：住居跡	
57 元総社小見II遺跡	2002	縄文：住居跡 古墳：住居跡 奈良・平安：住居跡、掘立柱建物跡 中世：溝跡、道路状遺構	
58 元総社小見III遺跡	2002	縄文：住居跡 古墳：住居跡、 奈良・平安：住居跡、溝跡 中世：溝跡、道路状遺構	
元総社草作V遺跡	2002	古墳：住居跡 奈良・平安：住居跡 中世：溝跡	
59 元総社小見内IV遺跡	2002	古墳：住居跡 奈良・平安：住居跡、掘立柱建物跡、溝跡 中世：上坑型、掘立柱建物跡、溝跡	
60 福荷塚道東遺跡 (事業団)	2003	古墳：住居跡 奈良・平安：住居跡、溝跡、遺構築材採掘板、井戸跡	

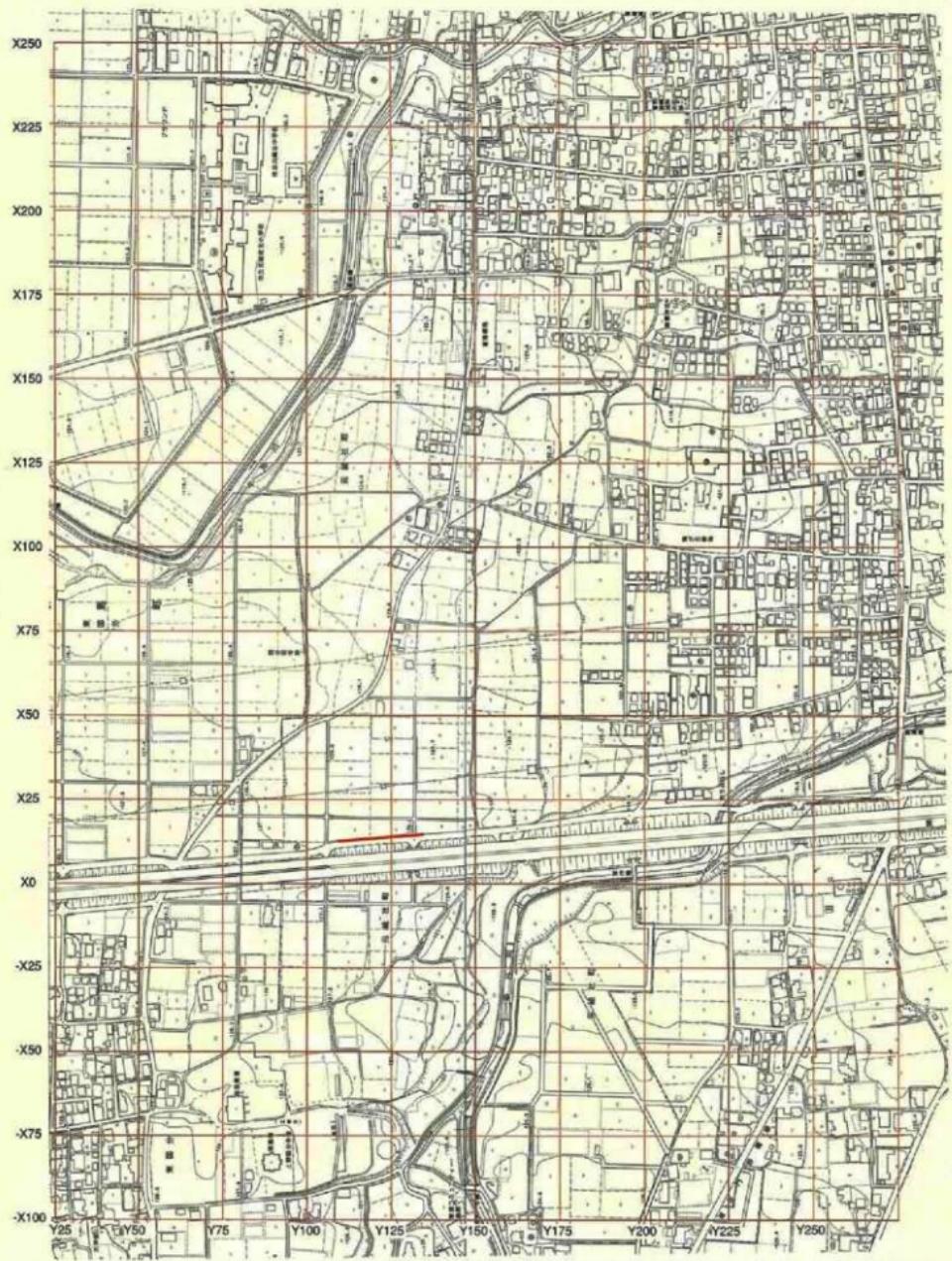


Fig.3 元総社・蒼海遺跡群位置図とグリッド設定図

III 調査方針と経過

1 調査方針

委託調査箇所は、県道足門前橋線バイパス（西毛幹線道路国分寺T区）緊急地方道路整備事業の道路予定地で、本調査が必要とされた地域（586.56m²）である。グリッドについては、4mピッチで西から東へX14、X15、X16…と、北から南へY106、Y107、Y108…と付番し、グリッドの呼称は北西杭の名称を使用した。

本遺跡のX15・Y116の公共座標は次のとおりである。

世界測地系	X = +43890.9079	Y = -72431.7512	[新座標]
	X = +43536.000	Y = -72140.000	[旧座標]
緯度	36° 23' 34" . 28496	経度	139° 01' 33" . 24395
子午線収差角	28° 44" . 707	増大率	0.99996462

調査方法は、表土掘削・遺構確認・杭打ち・遺構掘下・遺構精査・測量・全景写真撮影の順で行った。

図面作成は、平板・簡易遺方測量を用い、遺構平面図は原則として1/20、住居跡は1/10の縮尺で作成した。遺物については平面分布図を作成し、台帳に各種記録をしながら収納した。包含層の遺物はグリッド単位で収納し、重要遺物については分布図・遺物台帳の記載を行い収納した。

2 調査経過

本遺跡の発掘調査は、委託契約を5月29日に締結し、6月18日より現地調査を開始した。

調査区は高速道路の側道沿いで交通量が激しいため、安全対策には万全を期した。はじめに調査区の南側から重機（パックフォー0.4m³）で表土掘削を行った。それと並行して、鋤籬による遺構確認を行った。調査区は南北に長く、最北部は幅1.5~2mと非常に狭いため、その後小型の重機（パックフォー0.25m³）によって表土掘削を行った。20日に杭打ちを行い、遺構の掘下・精査に入った。当初、住居跡を把握するのに苦労したものの、10数軒の住居を確認し調査に取りかかった。しかし、梅雨時期であったため数回にわたって作業中断を余儀なくされた。その後調査は順調に進み、7月25日に高所作業車で調査区全景の写真撮影を行い、一旦調査を終了した。

7月29日、重機（パックフォー0.4m³）でさらに下層の表土掘削を行った結果、住居数軒を確認したため2面目の調査に取りかかり、8月1日に調査を終了した。その後、8月3日より現場事務所において土器洗いや図面整理等を行った。

11月27日より文化財保護課に戻り、遺物、図面、写真等の整理作業に取り組んだ。その後も整理作業を続行し、3月12日までにすべての作業を完成させる運びとなった。

Fig.4. 調査経過図

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
準備		■									
表土掘削			■								
遺構調査			■	■							
写真撮影		■		■							
整理作業				■							
報告書作成											■
事務処理										■	

IV 基本層序

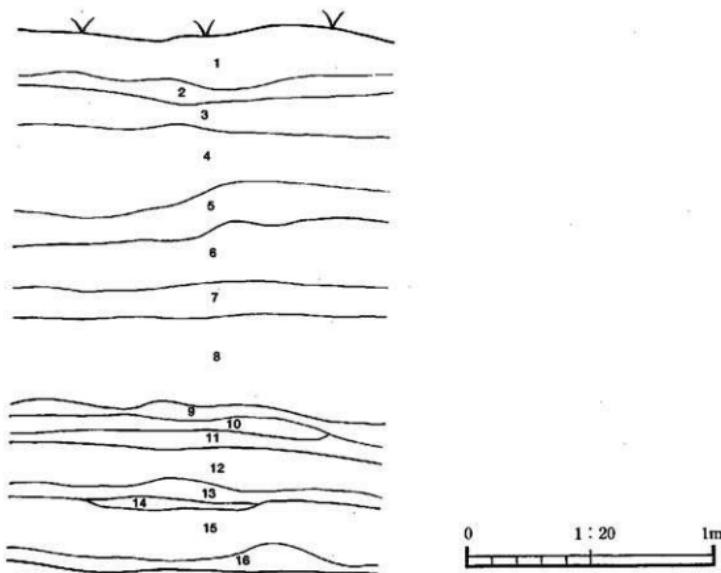


Fig.5 基本層序

本遺跡地内の地層の堆積は、以下の通りである。

1	10 YR 3/3 暗褐色細砂層 現耕作土。(厚さ20cm前後。)	○×	9	10 YR 5/6 黄褐色微砂層 サラサラの砂層。(厚さ5cm前後。)	○×
2	5 YR 5/6 明赤褐色細砂層 鉄分凝聚層。(厚さ10cm前後。)	○×	10	10 YR 6/4 にぶい黄橙色細砂層 粘質土。(厚さ5cm前後。)	○○
3	10 YR 4/2 灰黃褐色細砂層 As-B混じる、Hr-FP 1%含む。 (厚さ15cm前後。)	○×	11	10 YR 6/6 明黄褐色微砂層 (厚さ5cm前後。)	○○
4	10 YR 3/2 黒褐色細砂層 As-C5%、Hr-FP 1%含む。(厚さ30cm前後。)	○△	12	10 YR 6/3 にぶい黄橙色細砂層 (厚さ15cm前後。)	○○
5	10 YR 2/2 黒褐色細砂層 As-C7%含む。(厚さ15cm前後。)	△○	13	10 YR 5/3 にぶい黄褐色細砂層 総社砂層。(厚さ5cm前後。)	○×
6	10 YR 2/3 黒褐色細砂層 As-C2%含む。(厚さ20cm前後。)	○○	14	10 YR 6/4 黄橙色微砂層 粘土層。(厚さ5cm前後。)	○○
7	10 YR 3/4 暗褐色細砂層 ローム漸移層。(厚さ15cm前後。)	○○	15	10 YR 5/4 にぶい黄褐色粗砂層 砂利と粘土の混土層。(厚さ20cm前後。)	○×
8	10 YR 4/6 暗褐色細砂層 粘質の地山。(厚さ30cm前後。)	○○	16	10 YR 6/3 にぶい黄橙色細砂層 粘土層。	○○

V 遺構と遺物

1 壘穴住居跡

(住居跡の出土遺物の項目については、遺構の重複からどの住居跡の遺物か特定できないものがあるため、所属する住居跡が特定でき本報告書で図示した遺物のみの記述とした。)

J-1号住居跡 (Fig. 9, PL. 1)

位 置 X15~17, Y126~127グリッド 主軸方向 (N - 70° - E) 面 積 (14.91) m²

形状等 椎円形と推定される。東西 (4.78) m、南北4.48m、壁現高50.0cmを測る。

床 面 ローム層を掘り込んだ堅硬な床面を検出。中央や東寄りに炉と思われる落ち込みを検出したが、焼土・炭化物などは検出されなかった。 P_1 (長軸×短軸×深さ、形状 : 33×28×35cm、円形)、 P_2 (長軸×短軸×深さ、形状 : 40×27×34cm、椎円形)、 P_3 (長軸×短軸×深さ、形状 : 33×28×29.5cm、円形)、 P_4 (長軸×短軸×深さ、形状 : 30×25×40.5cm、円形)、 P_5 (長軸×短軸×深さ、形状 : 28×26×27cm、円形)、 P_6 (長軸×短軸×深さ、形状 : 28×25×23.5cm、円形) の 6 基を検出した。

時 期 墓土や出土遺物から縄文中期と考えられる。

遺 物 総数407点。そのうち深鉢10点、打製石斧1点を図示した。

J-2号住居跡 (Fig. 9, PL. 1)

位 置 X15、Y113~114グリッド 主軸方向 (N - 8° - W) 面 積 (10.78) m²

形状等 大部分が調査区外のため全容は不明であるが椎円形と推定される。東西 (2.70) m、南北3.50m、壁現高29.0cmを測る。

床 面 ローム層を掘り込んだ堅硬な床面を検出。中央部に川原石などで組まれた炉と思われる集石あり。その周辺は特に堅硬である。がの東半分は調査区外のため詳細は不明である。 P_1 (長軸×短軸×深さ、形状 : 33×28×22.5cm、円形)、 P_2 (長軸×短軸×深さ、形状 : 40×34×16cm、円形)、 P_3 (長軸×短軸×深さ、形状 : 40×34×15cm、円形) の 3 基を検出した。

時 期 墓土や出土遺物から縄文中期と考えられる。

遺 物 総数66点。そのうち深鉢4点、上製円盤1点を図示した。

J-3号住居跡 (Fig. 10, PL. 1)

位 置 X15~17、Y123~125グリッド 主軸方向 (N - 31° - W) 面 積 (13.67) m²

形状等 大部分が調査区外のため全容は不明であるが円形と推定される。東西 (3.90) m、南北 (4.72) m、壁現高31.0cmを測る。

床 面 ローム層を掘り込んだ堅硬な床面を検出。 P_1 (長軸×短軸×深さ、形状 : 30×27×28cm、円形)、 P_2 (長軸×短軸×深さ、形状 : 30×26×37.5cm、円形)、 P_3 (長軸×短軸×深さ、形状 : 44×32×33cm、椎円形) の 3 基を検出した。

時 期 墓土や出土遺物から縄文中期と考えられる。

遺 物 総数193点。そのうち深鉢4点、鉢1点、磨製石斧1点を図示した。

H-1号住居跡 (Fig.10, PL. -)

位置 X14、Y105・106グリッド 主軸方向 電気炉のみの検出のため不明である。面積 (1.20) m²
形状等 壁先端のみの検出のため不明である。

床面 壁先端のみの検出のため不明である。

竈 東壁南隅より検出され、主軸方向 (N-85°-E) であり、全長 (25) cm、最大幅 (48) cm、焚口部幅 (30) cmを測る。袖石の構築材として灰白色粘土を使用している。

重複 なし。

時期 時期を確定する遺物の出土がなく、埋土からも不明である。

遺物 なし。

H-2号住居跡 (Fig.10, PL. 1)

位置 X14、Y106・107グリッド 主軸方向 (N-86°-E) 面積 (6.95) m²
形状等 大部分が調査区外のため全容は不明であるが、西壁脚は丸みを帯びる。東西 (0.45) m、南北3.00m、壁現高10.0cmを測る。

床面 一部のみの検出のため全容は不明であるが、竈の前に堅緻な床面がわずかに確認された。

竈 東壁南寄りより検出され、主軸方向 N-88°-E であり、全長40cm、最大幅56cm、焚口部幅32cmを測る。竈の前に灰を多く散らす。

重複 H-21・H-22と重複し、新旧関係はH-21→H-22→本遺構の順である。

時期 埋土や出土遺物から10世紀後半と考えられる。

遺物 総数89点。そのうち土師壺1点を図示した。

H-3号住居跡 (Fig.11, PL. 2)

位置 X14、Y107・108グリッド 主軸方向 (N-86°-E) 面積 (10.27) m²

形状等 一部が調査区外のため全容は不明であるが東壁脚は丸みを帯び、方形と推定される。東西 (1.88) m、南北3.34m、壁現高29.5cmを測る。

床面 全体的に平坦な床面で、堅緻な部分は2/3程度確認。

竈 東壁中央より検出され、主軸方向 N-96°-E であり、全長84cm、最大幅69cm、焚口部幅35cmを測る。角柱状に加工された凝灰岩の天井石が竈の前に落ちた状態で検出された。袖石には角柱状に加工した凝灰岩を、壁面の補強材として石及び瓦を、支柱石には河原石を使用する。

重複 II-26と重複し、新旧関係はII-26→本遺構の順である。

時期 埋土や出土遺物から10世紀後半と考えられる。

遺物 総数547点。そのうち須恵壺3点、(8世紀後半の流れ込みと思われる1点を含む)、須恵足高台壺2点、須恵足高台壺1点、羽釜4点、平瓦2点を図示した。

H-4号住居跡 (Fig.11, PL. 2)

位置 X14、Y110グリッド 主軸方向 (N-105°-E) 面積 (5.95) m²

形状等 大部分が調査区外のため全容は不明である。東西 (1.80) m、南北 (3.06) m、壁現高12.0cmを測る。

床面 竈の前に非常に堅緻な床面を残す。

竈 東壁南隅より検出され、主軸方向 [N-107°-E] であり、全長 (50) cm、最大幅 (62) cm、焚口部幅 (40) cmを測る。右袖石の構築材は角柱状に加工した凝灰岩を使用する。竈の前に灰を多く散らす。

貯蔵穴 住居の南東隅に1基（長軸×短軸×深さ、形状：77×61×24cm、楕円形）を検出。

重複 なし。

時期 埋土や出土遺物から9世紀中葉以降と考えられる。

遺物 総数64点。そのうち土師壺2点、平瓦1点、丸瓦1点、軒丸瓦1点を図示。

H-5号住居跡 (Fig.11, PL. 2)

位置 X14・15、Y110・111グリッド **主軸方向** (N - 5° - W) **面積** (8.67) m²

形状等 一部調査区外のため全容は不明であるが、西壁隅は丸みを帯び、方形と推定される。東西 (1.71) m、南北 [2.90] m、壁現高8.0cmを測る。

床面 全体的に平坦な床面。堅緻な床面はわずかに残る。

竈 調査区外のため検出されず。

重複 なし。

時期 埋土や出土遺物から10世紀後半～末期と考えられる。

遺物 総数44点。そのうち須恵高台壙1点、須恵足高台壙1点、平瓦1点を図示した。

H-6号住居跡 (Fig.12, PL. 3)

位置 X14・15、Y111グリッド **主軸方向** (N - 87° - E) **面積** (8.19) m²

形状等 大部分が調査区外である上に、W-1に切られ全容は不明である。東西 (1.12) m、南北 (2.40) m、壁現高33.0cmを測る。

床面 部分的な検出のため明確ではないが、一部に堅緻な床面が残る。竈の前は特に堅緻である。

竈 東壁より検出され、やや長い煙道を持つ。主軸方向N - 72° - Eであり、全長123cm、最大幅75cm、焚口部幅34cmを測る。右袖石に円柱状の石、左袖石に8世紀後半のものと思われる長削窓を伏せた状態で使用する。

重複 W-2と重複し、新旧関係は本遺構→W-2の順である。

時期 埋土や出土遺物から7世紀末～8世紀初頭と考えられる。

遺物 総数107点。そのうち土師壺1点、土師台付窓1点、土師長削窓3点を図示した。

H-7号住居跡 (Fig.12, PL. 2)

位置 X14・15、Y114・115グリッド **主軸方向** 竈先端のみ検出のため不明である。 **面積** (1.59) m²

形状等 竈先端のみ検出のため不明である。

床面 竈先端のみ検出のため不明である。

竈 東壁より検出され、主軸方向 (N - 83° - E) であると考えられ、全長 (35) cm、最大幅 (57) cm、焚口部幅 (34) cmを測る。先端部より壁の補強材として使用されたと思われる石を検出する。

重複 H-8と重複し、新旧関係はH-8→本遺構の順である。

時期 埋土や出土遺物に乏しく時代判定は難しいが、重複関係から9世紀後半以降のものと考えられる。

遺物 総数21点。

H-8号住居跡 (Fig.12, PL. 3)

位置 X14・15、Y114～116グリッド **主軸方向** (N - 87° - E) **面積** (17.65) m²

- 形状等** 一部調査区外のため全容は不明であるが東壁隅は丸みを帯び、方形と推定される。東西(3.30)m、南北[4.93]m、壁現高30.0cmを測る。
- 床面** 他の住居に切られすべてを確認できないが、堅緻な床面がわずかに残る。竈の前は特に締まりが強い。
- 竈** 東壁中央北寄りより検出され、主軸方向(N-84°-E)であり、全長(90)cm、最大幅92cm、焚口部幅60cmを測る。構築材(補強材)として瓦を、左袖石には角柱状に加工された凝灰岩を使用する。竈および竈周辺の壁は粘土を貼り補強する。
- 重複** H-7・II-10・H-24・H-27と重複し、新旧関係はH-27→本遺構→H-10→H-24→H-7の順である。
- 時期** 墓土や出土遺物から9世紀前半と考えられる。
- 遺物** 総数575点。そのうち須恵坏1点、須恵蓋2点、土師瓶1点、土錐1点、平瓦8点(うち、「山田」の押印と「平」の書き記号をもつもの1点、「五子」の押印をもつもの1点)、丸瓦8点を図示した。

H-9号住居跡 (Fig.13, PL.3)

- 位置** X15・16、Y118・119グリッド 主軸方向 (N-86°-E) 面積 (17.21) m²
- 形状等** 一部調査区外である上重複も激しく、全容は不明であるが東壁隅は直角的に曲がり、方形と推定される。東西(3.90)m、南北[4.74]m、壁現高31.5cmを測る。
- 床面** 住居が複雑に重複しているため判然としないが、堅緻な床面をわずかに確認した。
- 竈** 東壁中央より検出され、主軸方向N-85°-Eであり、全長(75)cm、最大幅(76)cm、焚口部幅(43)cmを測る。
- 貯蔵穴** 住居の南東隅に1基(長軸×短軸×深さ、形状: 86×80×30cm、円形)を検出。
- 重複** H-11・H-23・H-31と重複し、新旧関係はH-31→本遺構→H-23→H-11の順である。
- 時期** 墓土や出土遺物から9世紀初頭と考えられる。
- 遺物** 総数803点。そのうち土師坏2点、須恵坏6点(10世紀前半の流れ込みと思われる1点を含む)、須恵高台焼2点、土師壺2点、紡錘車1点、平瓦2点(うち「山田」の押印をもつもの1点)、丸瓦2点を図示した。

H-10号住居跡 (Fig.13・14, PL.4)

- 位置** X14~16、Y116・117グリッド 主軸方向 (N-85°-E) 面積 (17.10) m²
- 形状等** 一部調査区外である上重複しているため全容は不明であるが、方形と推定される。東西(3.34)m、南北(4.97)m、壁現高48.5cmを測る。
- 床面** 住居が複雑に重複し、全体的に柔らかく安定しないが、一部に堅緻な床面を残し、竈の前南寄りに灰層を検出。湿気除けと考えられる。住居内北東部に床下土坑P4(長軸×短軸×深さ、形状: 75cm×61cm×24cm、円形)を検出。
- 竈** 東壁南中央より検出され、主軸方向N-92°-Eであり、全長(124)cm、最大幅(99)cm、焚口部幅(62)cmを測る。壁の構築材として瓦(20点)を、右袖石・支柱石に角柱状に加工された凝灰岩を、左袖石には石を使用する。竈周辺の壁は数枚の瓦で補強している。
- 重複** H-8と重複し、新旧関係はH-8→本遺構の順である。
- 時期** 墓土や出土遺物から9世紀前半と考えられる。
- 遺物** 総数2,334点(うち瓦片354点)。そのうち土師坏2点、土師壺1点、須恵坏7点、須恵高台焼4点、須

恵蓋2点、須恵長頭蓋2点、須恵大甕2点、打製石斧1点、鎌1点、占鉄（應平永宝：795年、皇朝十二錢）1点、平瓦29点（うち「干」の籠書きをもつもの2点、「里」の籠書きをもつもの1点、「圓」の押印をもつもの1点、「上」の籠書き記号をもつもの1点、「二」の籠書き記号をもつもの1点）、軒平瓦3点（右偏行唐草文の瓦当をもつもの2点、三重弧文をもつもの1点）、丸瓦23点を図示した。

H-11号住居跡 (Fig.14, PL. 4)

位 置 X15・16、Y119・120グリッド 主軸方向 (N - 84° - E) 面 積 (16.75) m²

形状等 一部調査区外のため全容は不明であるが、東壁北隅は丸みを帯び、隅丸方形と推定される。東西(4.0)m、南北4.86m、壁現高35.5cmを測る。

床 面 全体的に柔らかく安定しないが、堅緻な床面をわずかに確認。竈の前南寄りに灰層を確認。

竈 東壁中央より検出され、主軸方向N - 82° - Eであり、全長(66)cm、最大幅(84)cm、焚口部幅(47)cmを測る。

重 複 H - 9・H - 28・H - 31と重複し、新旧関係はH - 31→H - 9→H - 23→本遺構の順である。

時 期 埋土や出土遺物から10世紀後半と考えられる。

遺 物 総数1,610点。そのうち須恵坏6点（9世紀後半の流れ込みと思われる4点を含む）、須恵高台塊2点、須恵蓋1点（9世紀後半の流れ込みと思われる）、須恵広口甕1点、須恵羽釜3点、土師甕2点、打製石斧1点、石鐵1点、石突状金具1点、平瓦19点（うち「伴一」の籠書きをもつもの1点、「手」の籠書きをもつもの1点、「万？」の籠書き記号をもつもの1点）、丸瓦13点を図示した。

H-12号住居跡 (Fig.15, PL. 5)

位 置 X15、Y120・121グリッド 主軸方向 (N - 84° - E) 面 積 (13.85) m²

形状等 大部分が調査区外のため全容は不明であるが方形と推定される。東壁最南には棚として使用されたと思われる粘土で固められた高まりが検出された。東西(2.12)m、南北4.50m、壁現高43.5cmを測る。

床 面 堅緻な床面を1/2程度確認。竈の前に扁平な川原石を置く。

竈 東壁中央南寄りより検出され、主軸方向N - 91° - Eであり、全長(85)cm、最大幅(100)cm、焚口部幅(48)cmを測る。両袖石に角柱状に加工された凝灰岩を使用する。左袖石は残存状態が悪い。

貯蔵穴 住居の南東隅に1基（長軸×短軸×深さ、形状：107×64×22.5cm、梢円形）を検出。

重 複 なし。

時 期 埋土や出土遺物から10世紀半ばと考えられる。

遺 物 総数445点。そのうち須恵坏1点、須恵高台塊4点、灰釉高台塊1点、須恵羽釜1点、土師甕2点、右鍬1点、丸瓦2点（うち「石」の籠書きをもつもの1点）を図示した。

H-13号住居跡 (Fig.15, PL. 5)

位 置 X15・16、Y121・122グリッド 主軸方向 (N - 84° - E) 面 積 (12.83) m²

形状等 一部調査区外のため全容は不明であるが方形と推定される。東西4.40m、南北(2.15)m、壁現高49.5cmを測る。

床 面 平坦な床面。竈の前及び北西部は継まりが強い。

竈 東壁中央より検出され、主軸方向(N - 76° - E)であり、全長89cm、最大幅66cm、焚口部幅40cmを測る。両袖石に角柱状に加工した凝灰岩を、壁の補強材として凝灰岩を使用する。

重複なし。

時期埋土や出土遺物から9世紀前半と考えられる。

遺物総数393点。そのうち土師壺1点、須恵壺1点、須恵蓋1点、須恵大甕1点、土師甕1点、鉄製工具1点、平瓦1点、丸瓦3点を図示した。

H-14号住居跡 (Fig.15, PL. 5)

位置X15・16, Y122・123グリッド **主軸方向**(N - 86° - E) **面積**(9.84) m²

形状等一部分のみの検出のため不明である。東西(2.10) m、南北(2.81) m、壁現高19.0cmを測る。

床面平坦な床面。竈の前は縁まりが強い。

竈東壁南寄りより検出され、主軸方向N - 101° - Eであり、全長70cm、最大幅55cm、焚口部幅31cmを測る。竈突き出し邵南には支柱石として使用されたと思われる川原石を残す。

貯蔵穴住居の南東隅に(長椎×短軸×深さ、形状: 57×45×40.5cm、梢円形)の1基を検出。

重複なし。

時期埋土や出土遺物から10世紀半ばと考えられる。

遺物総数180点。そのうち須恵壺2点、須恵高台壺2点、須恵羽釜3点、打製石斧1点、丸瓦1点を図示した。

H-15号住居跡 (Fig.16, PL. 5)

位置X16, Y122・123グリッド **主軸方向**(N - 75° - W) **面積**(13.52) m²

形状等一部調査区外のため全容は不明であるが、西壁隅は丸みを帯び、方形と推定される。東西(3.15) m、南北4.48m、壁現高40.5cmを測る。北壁西半分から住居西壁、南壁西半分にかけて周溝を検出。

床面全体的に堅緻な床面を確認。

竈調査区外のため検出されず。

重複なし。

時期埋土や出土遺物から8世紀前半と考えられる。

遺物総数243点。そのうち土師壺2点、須恵壺2点、須恵蓋1点を図示した。

H-16号住居跡 (Fig.16, PL. 5)

位置X15, Y124グリッド **主軸方向**竈先端のみの検出のため不明である。 **面積**(2.02) m²

形状等竈先端のみの検出のため不明である。

床面竈先端のみの検出のため不明である。

竈東壁より検出され、主軸方向(N - 84° - E)であり、全長(41) cm、最大幅(76) cm、焚口部幅(50) cmを測る。

重複H-17と重複し、新旧関係はII-17→本遺構の順である。

時期一部分のみの検出で出土遺物に乏しく確認しづらいが、埋土や重複関係から7世紀前半以降と考えられる。

遺物総数11点。

H-17号住居跡 (Fig.16, PL. 6)

位 置 X15・16、Y124・125グリッド 主軸方向 (N - 25° - W) 面 積 (15.94) m²

形状等 一部調査区外のため全容は不明であるが方形と推定される。東西 (4.35) m、南北 4.60m、壁現高35.5 cmを測る。

床 面 全体的にきわめて堅緻な床面を確認。中央にがが崩れたものと思われる集石あり。P₂ (長軸48cm×短軸44cm×深さ46.5cm、形状：円形)、P₃ (長軸40cm×短軸34cm×深さ69cm、形状：円形)、P₄ (長軸42cm×短軸51cm×深さ45.5cm、形状：橢円形)の3基を検出した。

貯蔵穴 住居の南東隅に1基 (長軸×短軸×深さ、形状：75×63×45.5cm、橢円形) を検出。

重 櫃 H-16・H-19と重複し、新旧関係は本造構→H-16・H-19の順。

時 期 埋土や出土遺物から古墳時代末期、7世紀前半と考えられる。

遺 物 総数412点。そのうち上師坏4点、上師瓢2点、須恵器1点、上師甕3点、打製石斧2点を図示した。

H-18号住居跡 (Fig.17, PL. 6)

位 置 X16、Y125グリッド 主軸方向 窓のみの検出のため不明である。面 積 (3.57) m²

形状等 道構確認よりドアを掘り下げたため大部分を削平され、窓のみの検出のため不明である。

床 面 窓のみの検出のため不明であるが、窓前に堅緻な粘土の貼り床が残る。

竈 東壁より検出され、主軸方向 N - 104° - E であり、全長114cm、最大幅67cm、焚口部幅34cmを測る。内壁の補強材に石および凝灰岩を使用し、粘土で袖を固める。

重 櫃 H-20・W-2と重複し、新旧関係はH-20→W-2→本造構の順。

時 期 窓のみの検出のため出土遺物に乏しく、時代判定は難しいが、重複関係から8世紀以降と考えられる。

遺 物 総数29点。

H-19号住居跡 (Fig.17, PL. 6)

位 置 X15、Y125グリッド 主軸方向 (N - 88° - E) 面 積 (8.47) m²

形状等 一部分のみの検出のため不明であるが、東壁隅は丸みを帯びる。東西 (0.47) m、南北 (3.47) m、壁現高22.5cmを測る。

床 面 全体的に平坦な床面。竈の前は縛まりが強い。

竈 東壁南寄りより検出され、主軸方向 N - 82° - E であり、全長102cm、最大幅65cm、焚口部幅39cmを測る。構築材として袖石に凹柱状の石を使用。竈の側面より炭化物を検出。

重 櫃 H-17と重複し、新旧関係はH-17→本造構の順である。

時 期 埋土や出土遺物から9世紀後半～10世紀初頭と考えられる。

遺 物 総数47点。そのうち須恵器1点を図示した。

H-20号住居跡 (Fig.17, PL. 6)

位 置 X16・17、Y124・125グリッド 主軸方向 (N - 5° - E) 面 積 (11.06) m²

形状等 一部調査区外のため全容は不明であるが方形と推定される。東西 (2.67) m、南北 (3.57) m、壁現高21.0cmを測る。

床 面 全体的に平坦な床面で縛まりの強い部分をわずかに確認。P₂ (長軸×短軸×深さ、形状：47cm×46cm×23.5cm、円形) を検出した。

竈 調査区外のため検出されず。

重複 H-18・W-2と重複し、新旧関係は本造構→W-2→H-18の順である。

時期 墓土や出土遺物から7世紀末～8世紀初頭と考えられる。

遺物 総数219点。そのうち土師坏2点、土師壺1点、鐵鑄1点を図示した。

H-21号住居跡 (Fig.17, PL. 6)

位置 X14, Y106・107グリッド 主軸方向 (N - 31° - W) 面積 (9.14) m²

形状等 一部調査区外のため全容は不明であるが、東壁南隅は丸みを帯びる。東西 [2.10] m、南北 [3.35] m、壁現高40.0cmを測る。

床面 全体的に平坦な床面だが、一部に堅緻な部分を確認。

竈 調査区外のため検出されず。

重複 H-2・H-22・H-26と重複し、新旧関係はH-26→本造構→H-22→H-2の順である。

時期 墓土や出土遺物、重複関係から9世紀前半と考えられる。

遺物 総数185点。そのうち土師坏2点、須恵蓋1点、須恵高台塊2点、窪み石1点、鐵釘1点を図示した。

H-22号住居跡 (Fig.18, PL. 6・7)

位置 X14, Y106・107グリッド 主軸方向 (N - 86° - E) 面積 (11.50) m²

形状等 一部分のみの検出のため、全容は不明であるが、東隅は丸みを帯び、方形と推定される。東西 [1.10] m、南北 [4.73] m、壁現高13.0cmを測る。

床面 平坦ではあるが、堅緻な部分は確認されず。

竈 上部を削平され判然としないが、東壁南寄りより検出され、主軸方向N - 86° - Eであり、全長42cm、最大幅47cm、焚口部幅31cmを測る。

貯蔵穴 住居の南東隅に1基（長軸×短軸×深さ、形状：96×53×35cm、梢円形）を検出。

重複 H-2・H-21・H-26と重複し、新旧関係はH-26→H-21→本造構→H-2の順である。

時期 墓土や出土遺物、重複関係から9世紀前半と考えられる。

遺物 総数131点。そのうち土師坏2点、土師台付壺1点、打製石斧1点、平瓦2点、丸瓦1点を図示した。

H-23号住居跡 (Fig.18, PL. 7)

位置 X15, Y118グリッド 主軸方向 (N - 86° - E) 面積 (11.42) m²

形状等 大部分は調査区外である上、造構検出面を大幅に掘り下げたため削平が著しく、全容は不明であるが、方形と推定される。東西 [1.45] m、南北 [3.51] m、壁現高46.0cmを測る。

床面 全体的に平坦な床面。竈前にやや縮まりが強い。

竈 東壁中央より検出され、やや長い煙道を持ち、主軸方向N - 95° - Eであり、全長143cm、最大幅80cm、焚口部幅39cmを測る。構築材として支柱石に円柱状に加工した石を使用する。

重複 H-9・H-25・H-29と重複し、新旧関係はH-25→H-9→H-29→本造構の順である。

時期 墓土や出土遺物から10世紀前半と考えられる。

遺物 総数472点。そのうち須恵高台塊1点、須恵皿1点、須恵蓋1点（9世紀前半の流れ込みと思われる）、土師壺2点、平瓦3点、丸瓦3点、軒丸瓦1点を図示した。

H-24号住居跡 (Fig.18, PL. 7)

位 置 X14・15、Y114・115グリッド 主軸方向 (N - 109° - E) 面 積 (10.46) m²

形状等 大部分は調査区外であるうえ重複が激しく全容は不明であるが、方形と考えられ、東壁隅は丸みを帯びる。東西 [2.15] m、南北 [3.16] m、壁現高38.0cmを測る。

床 面 全体的に平坦だが遺構確認面より掘り下げてしまったため、わずかな床面確認するのみである。窓の前は縛まりが強い。

壁 東壁中央より検出され、主軸方向N - 102° - Eであり、全長 (105) cm、最大幅82cm、菱口部幅60cmを測る。壁の補強材に凝灰岩を、両袖石に角柱状に加工された凝灰岩を使用する。

重 棚 H-7・H-8・II-27と重複し、新旧関係は切り合いからH-27→H-8→本遺構→H-7の順である。

時 期 墓土や出土遺物から9世紀前半と考えられる。

遺 物 総数164点。そのうち土師壺1点、須恵高台壺1点、土鍤1点、平瓦5点、丸瓦6点を図示した。

H-25号住居跡 (Fig.19, PL. 7)

位 置 X15・16、Y117・118グリッド 主軸方向 (N - 84° - E) 面 積 (15.37) m²

形状等 四隅が調査区外のため全容は不明である。東西 (4.20) m、南北 [3.68] m、壁現高51.0cmを測る。

床 面 全体的に平坦な床面で所々に縛まりの強い面を確認。全体的に焼上を多く散らす。

壁 調査区外のため検出されず。

重 棚 H-23・H-25・H-29・H-30と重複し、新旧関係は切り合いからH-30→本遺構→H-29→H-23の順である。

時 期 墓土や出土遺物から9世紀前半と考えられる。

遺 物 総数36点。そのうち須恵壺1点、須恵高台壺1点、須恵短頭壺1点、平瓦3点（うち「II」の籠書きを持つもの1点）を図示した。

H-26号住居跡 (Fig.19, PL. 7)

位 置 X14、Y107・108グリッド 主軸方向 (N - 5° - W) 面 積 (10.06) m²

形状等 大部分が調査区外のため全容は不明である。東西 (2.28) m、南北 (2.92) mを測る。壁現高は床面のみ検出のため測定不可能。

床 面 全体的に平坦だが、住居北西部は縛まりが強い。

壁 調査区外のため検出されず。

重 棚 H-3・H-21・H-22と重複し、新旧関係は本遺構→H-21→H-22→II-3の順である。

時 期 墓土や出土遺物から8世紀末と考えられる。

遺 物 総数257点。そのうち土師壺2点、須恵壺1点、土師甕1点を図示した。

H-27号住居跡 (Fig.19, PL. 8)

位 置 X15、Y114・115グリッド 主軸方向 (N - 87° - E) 面 積 (9.70) m²

形状等 2面目の調査で確認。一部調査区外のうえ遺構確認面以下に掘り下げてしまったため大部分が削平され、全容は不明であるが、西壁隅は丸みを帯び東西に延びる長方形と推定される。東西 (2.68) m、南北 (2.52) mを測り、壁現高は床面のみ検出のため測定不可能。

床面 全体的に平坦だが、大部分が削平され判然としない。調査区内東際の縫前に堅緻な床面を確認。

竈 調査区外のため検出されず。

重複 H-8・H-24と重複し、新旧関係は切り合いから本遺構→H-8→H-24の順である。

時期 墓土や出土遺物から9世紀前半と考えられる。

遺物 総数45点。そのうち須恵壺1点、土師壺1点、土師壺1点を図示した。

H-28号住居跡 (Fig.20, PL. 8)

位置 X15・16, Y116・117グリッド **主軸方向** (N - 3° - W) **面積** (12.40) m²

形状等 2面目の調査で確認。東半分が調査区外のため、全容は不明であるが、西壁隅はやや丸みを持ち、方形と推定される。東西 (2.06) m、南北 (4.68) m、壁現高18.5cmを測る。

床面 全体的に平坦だが住居内西部に堅緻な床面を確認。

竈 調査区外のため検出されず。

重複 H-11と重複し、新旧関係は本遺構→H-11の順である。

時期 墓土や出土遺物から9世紀前半と考えられる。

遺物 総数256点。そのうち須恵壺1点、平瓦1点を図示した。

H-29号住居跡 (Fig.20, PL. 8)

位置 X15・16, Y117・118グリッド **主軸方向** (N - 84° - E) **面積** (13.50) m²

形状等 重複により全容は不明であるが、方形と推定される。東西 (3.22) m、南北 (3.57) m、壁現高9.0cmを測る。

床面 全体的に平坦で堅緻な面をわずかに確認。

竈 後世の住居 (H-30) に削平され、底部を残すのみである。東壁南寄りより検出され、主軸方向 (N - 80° - E) であり、全長 (60) cm、最大幅 (63) cmを測る。

重複 H-30と重複し、新旧関係はH-30→本遺構の順である。

時期 墓土や出土遺物、重複関係から9世紀前半と考えられる。

遺物 総数105点。そのうち須恵壺1点を図示した。

H-30号住居跡 (Fig.20, PL. 8)

位置 X15・16, Y117・118グリッド **主軸方向** (N - 7° - W) **面積** (10.30) m²

形状等 2面目の調査で確認。東半分が調査区外のため、全容は不明だが西壁隅は丸みを帯び、方形と推定される。東西 (1.73) m、南北 (3.73) m、壁現高18.0cmを測る。

床面 全体的に平坦だが一部に堅緻な面を確認。

竈 調査区外のため検出されず。

重複 H-25・H-29と重複し、新旧関係は切り合いから本遺構→H-25→H-29の順である。

時期 出土遺物が少ないため、埋土および重複関係からの判断となるが9世紀前半以前と考えられる。

遺物 総数3点。そのうち丸瓦1点を図示した。

H-31号住居跡 (Fig.20, PL. 8)

位置 X16, Y118・119グリッド **主軸方向** (N - 5° - W) **面積** (11.08) m²

形状等 2面目の調査で確認。東半分が調査区外のため全容は不明であるが、西壁隅は丸みを帯び、方形と推定される。東西1.33m、南北(4.62)m、壁現高17.0cmを測る。

床面 全体的に平坦で一部に堅緻な床面を確認。

竪 調査区外のため検出されず。

重複 H-9・H-11と重複し、新旧関係は本造構→H-9→H-11の順である。

時期 墓土や出土遺物から8世紀末～9世紀初頭と考えられる。

遺物 総数47点。そのうち土師壺1点、須恵壺1点、須恵壺1点、平瓦1点を図示した。

2 溝跡

W-1号溝跡 (Fig.21, PL. 8)

位置 X14・15、Y111・112グリッド 主軸方向 (N-82°-E)

形状等 断面形は塊状を呈する。

時期 墓土や出土遺物から中世と考えられる。

遺物 総数19点。

備考 セクションより硬化面を確認、道として使用された可能性あり。

W-2号溝跡 (Fig.21, PL. 8)

位置 X15～17、Y125・126グリッド 主軸方向 (N-74°-E)

形状等 断面形はU字形を呈する。

重複 H-18・II-20と重複し、新旧関係はII-20→本造構→H-18の順である。

時期 墓土にA-s-B輕石を含むことや出土遺物および重複関係からII世紀代と考えられる。

遺物 総数23点。

3 落ち込み

1号落ち込み (Fig.21, PL.-)

位置 X15・16、Y127グリッド

形状等 大部分が調査区外のため全容は不明であるが、円形と推定される。2面目の調査で検出。

時期 墓土や出土遺物から縄文時代ぐらいためと考えられるが、それ以上の特定は難しく、不明である。

遺物 総数9点。

4 土坑・ピット

土坑・ピットについては、Tab.5 土坑・ピット計測表 (P.22) を参照のこと。

5 グリッド等出土遺物

総数94点が検出された。そのうち節理金具1点、土錘1点、平瓦8点（うち「十」の籠書きを持つもの1点、上部欠損で「△？」と読める籠書きを持つもの1点）、軒平瓦2点を図示した。

Tab. 2 住居跡一覧表

遺構名	位 置	主軸方向	規模 (m)	壁面高 (cm)	面 積 (m ²)	竪または火	主な出土遺物				
							東西×南北	(cm)	位 置	土器類	須恵器
J-1	X15~17、Y125~127	N-70°-E	(4.78)×4.48	50.0	(14.91)	炉・中央やや東寄り				鍛錬・打製石斧	
J-2	X15、Y113~114	N-8°-W	(2.70)×3.50	29.0	(10.78)	中央				深鉢・土製円盤	
J-3	X15~16、Y123~125	N-31°-W	(3.90)×(4.72)	31.0	(13.67)	—				深鉢・磨製石斧	
H-1	X14、Y105~106	—	—	—	(1.2)	[東壁]					
H-2	X14、Y106~107	N-86°-E	(0.46)×3.00	10.0	(6.95)	東壁南寄り	环				
H-3	X14、Y107~108	N-86°-E	(1.88)×3.34	29.5	(10.27)	東壁中央			环・足高台	合塊・羽茎	
H-4	X14、Y110	N-105°-E	(1.80)×(3.06)	12.0	(5.95)	[東壁]	环				
H-5	X14~15、Y110~111	N-5°-W	(1.71)×(2.90)	8.0	(8.67)	—			高台塊	足高台塊	
H-6	X14~15、Y111	N-87°-E	(1.12)×(2.40)	33.0	(8.19)	[東壁]	台付焼・長 網縄				
H-7	X14~15、Y114~115	—	—	—	(1.59)	[東壁]					
H-8	X14~15、Y114~116	N-87°-E	(3.30)×(4.93)	30.0	(17.65)	東壁中央北寄り	甕	环・蓋	土鍵		
H-9	X15~16、Y118~119	N-86°-E	(3.90)×(4.74)	31.5	(17.21)	東壁中央	环・甕	环・高台塊	踏跡車		
H-10	X14~16、Y116~117	N-85°-E	(3.31)×4.97	48.5	(17.1)	東壁南寄り	环・甕	环・蓋・高 台塊・壺	鍵・古鏡		
H-11	X15~16、Y119~120	N-84°-E	(4.00)×4.86	35.5	(16.75)	東壁中央		甕・高台塊	石瓶・石突 状金具		
H-12	X15、Y120~121	N-84°-E	(2.12)×4.50	43.5	(13.85)	東壁中央南寄り	甕	高台塊・羽 茎	灰陶高台塊 ・石瓶		
H-13	X15~16、Y121~122	N-84°-E	4.40×(2.15)	49.5	(12.83)	東壁	环・甕	蓋・大塊	鐵製T工具		
H-14	X15~16、Y122~123	N-86°-E	(2.10)×(2.81)	19.0	(9.84)	東壁南寄り		高台塊・羽 茎・鉢	打製石斧		
H-15	X16、Y122~123	N-75°-W	(3.19)×4.48	40.5	(13.52)	—	环	环・蓋			
H-16	X15、Y124	—	—	—	(2.02)	[東壁]					
H-17	X15~16、Y124~125	N-25°-W	(4.35)×4.60	35.5	(15.94)	—	环・甕・ 壺・高台	环	打製石斧		
H-18	X16、Y125	—	—	—	(3.57)	東壁					
H-19	X15、Y125	N-88°-E	(0.47)×(3.43)	22.5	(8.47)	東壁南寄り		羽茎			
H-20	X16~17、Y124~125	N-5°-E	(2.67)×[3.57]	21.0	(11.06)	—	环・甕		鐵劍		
H-21	X14、Y106~107	N-31°-W	[2.10]×(3.35)	40.0	(9.14)	—	环	蓋・高台塊	釘		
H-22	X14、Y106~107	N-86°-E	(1.10)×(4.73)	13.0	(11.5)	東壁南寄り	环・台付甕		打製石斧		
H-23	X15、Y118	N-86°-E	(1.45)×[3.51]	46.0	(11.42)	東壁中央	甕	蓋・高台塊			
H-24	X14~15、Y114~115	N-109°-E	(2.15)×(3.16)	38.0	(10.46)	東壁中央	环	高台塊	土鍵		
H-25	X15~16、Y117~118	N-84°-E	(4.20)×[3.68]	51.0	(15.37)	—		环・高台塊 ・粗陶瓶			
H-26	X14、Y107~108	N-5°-W	(2.23)×(2.92)	床 の み	(10.06)		环・甕	盤			
H-27	X15、Y114~115	N-87°-E	(2.68)×(2.52)	床 の み	(9.7)	—	君・甕	环			
H-28	X15~16、Y116~117	N-3°-W	(2.06)×(4.68)	18.5	(12.4)	—		环			
H-29	X15~16、Y117~118	N-84°-E	(3.22)×(3.57)	9.0	(13.5)	[東壁南寄り]		环・大甕			
H-30	X15~16、Y117~118	N-7°-W	(1.73)×(3.73)	13.0	(10.3)	—					
H-31	X16、Y118~119	N-5°-W	1.33×(4.62)	17.0	(11.08)	—	环	环・甕			

Tab. 3 瓦一覧表

遺構名	主軸方向	全長(cm)	最大幅(cm)	焚口部幅(cm)	構築材	備考
H-1	(N - 85° - E)	(25)	(48)	(30)	粘土	
H-2	N - 88° - E	40	56	32		
H-3	N - 96° - E	64	69	35	瓦・河原石・凝灰岩	瓦2点
H-4	[N - 107° - E]	(50)	(62)	(40)	凝灰岩	
H-5	—	—	—	—	—	
H-6	N - 72° - E	123	75	34	石・瓦調査	調査表No.19
H-7	(N - 83° - E)	(35)	(57)	(34)	石	
H-8	(N - 84° - E)	(90)	92	60	瓦・粘土・凝灰岩	瓦1点
H-9	N - 85° - E	(75)	(76)	(43)	—	
H-10	N - 92° - E	(124)	(99)	(62)	瓦・凝灰岩	瓦20点
H-11	N - 82° - E	(66)	(84)	(47)	—	
H-12	N - 91° - E	(85)	(100)	(48)	凝灰岩	
H-13	(N - 76° - E)	89	66	40	凝灰岩	
H-14	N - 101° - E	70	55	31	河原石	
H-15	—	—	—	—	—	
H-16	(N - 84° - E)	(41)	(76)	(50)	—	
H-17	—	—	—	—	—	
H-18	N - 104° - E	114	67	34	凝灰岩・粘土	
H-19	N - 82° - E	102	65	39	石	
H-20	—	—	—	—	—	
H-21	—	—	—	—	—	
H-22	N - 86° - E	42	47	31	—	
H-23	N - 95° - E	143	80	39	石	
H-24	N - 102° - E	(105)	82	60	凝灰岩	
H-25	—	—	—	—	—	
H-26	—	—	—	—	—	
H-27	—	—	—	—	—	
H-28	—	—	—	—	—	
H-29	(N - 80° - E)	(60)	(63)	—	—	
H-30	—	—	—	—	—	
H-31	—	—	—	—	—	

Tab. 4 溝跡計測表

遺構名	位 置	主軸方向	長 さ (m)	最大幅 (m)		深 さ (m)	底面レベル差 (m)	断面形
				上幅	下幅			
W-1	X14・15、Y111・112	N-82°-E	3.1	3.5	1.0	0.41	0.03	塊底状
W-2	X15~17、Y125・126	N-74°-E	6.35	0.82	0.25	0.25	0.15	U字形

Tab. 5 上坑・ピット計測表

遺構名	位 置	規 模 (c m)			形 状	遺物総数	出土遺物
		長 軸	短 軸	深 さ			
D-1	X16、Y123	137.0	105.0	(30.0)	橢円形	25	
P-1	X16、Y124	55.0	48.0	29.5	円形	-	
P-2	X16、Y123	42.0	46.0	39.5	円形	-	

Tab. 6 土器調査表 (續)

番号	遺構・層位	器種	①形・式	②土器記録	③土器記録を補足する	表面・文様・盤形の特徴		備考
						表面	文様	
1	J-1 埋土	深鉢	① [17.8] ② [13.5]	①中粒②良好 ③にぶい褐色 ④口縁へ剥離 [1/4]	平口縁で、口縁部に陰帯による区画。底面は粗面化。区画内に光沢織文 Rし。肩部に2条単位の平行沈縫が垂下。	加曾利E 2		
2	J-1 埋土	深鉢	① [31.0] ② [6.7]	①中粒②良好③にぶい黃褐色④口縁部	波状口縁で底面部が外反。口縁部文様帶は幅広沈縫化。区画内に光沢織文 R。	加曾利E 2		
3	J-1 埋土	深鉢	① - ② -	①中粒②良好 ③にぶい黃褐色 ④頸部へ剥離	颈部に壓帯による区画、斜向消音文を施す。上部に刺突文を施す。	加曾利E 2		
4	J-1 埋土	深鉢	① [36.0] ② [7.0]	①中粒②良好③にぶい褐色④口縁部	円筒形で、2条の沈縫による弧文でV曲、V面内に羽状構成による施文、織文しR・R-L。	加曾利E 4		
5	J-1 埋土	深鉢	① [34.4] ② [3.8]	①中粒②良好③にぶい黃褐色④口縁部	口縁部は外反平口縁。横位の縦帶が通り、その下に比縫が垂下。	加曾利E 2		
6	J-1 埋土	深鉢	① - ② -	①中粒②良好③にぶい赤褐色④口縁部	縦部に2条の並行斜縫の上に波状の浮縫文がヒドリ施されている。施文は織文 R-L。	諸説b		
7	J-1 埋土	深鉢	① - ② [5.0]	①中粒②良好 ③褐色④口縁部欠損	口縁実細部頂部に沈縫で両巻を施文。	加曾利E 2		
8	J-1 埋土	深鉢	① - ② -	①中粒②良好 ③褐色④頸部	縦部に2条の横位平行沈縫を廻らし、上部に斜位の刺突文。下部に縦位の糸条文。	加曾利E 3		
9	J-1 埋土	深鉢	① [21.0] ② [4.2]	①中粒②良好 ③兩褐色④口縁部	口縁部は平口縁。平行沈縫施文後に2条の網状點付文を斜位に施している。加曾利E 2			
10	J-1 埋土	深鉢	① - ② -	①中粒②良好 ③灰褐色④頸部	L-R斜織文。3条の縦巻平行沈縫が垂下。	加曾利E 2		
11	J-2 埋土	深鉢	① - ② -	①中粒②良好 ③にぶい褐色④頸部	2条の並行縦帯が横位に通り、その下にL-R斜織文を施している。	加曾利E 2		
12	J-2 床底	深鉢	① - ② -	①中粒②良好 ③褐色④頸部	2条の並行縦帯が横位に通り、その上にL-R斜織文を施している。	加曾利E 2		
13	J-2 埋土	深鉢	① - ② -	①中粒②良好③にぶい褐色④頸部	文様帯中の溝窓の区画内に織文しRを施す。その上に列点を施している。	赤名寺I		
14	J-2 埋土	深鉢	① [32.6] ② [3.9]	①中粒②良好 ③兩褐色④口縁部	口縁部は平口縁。2条の縦帯の間に織文しRが施されている。	加曾利E 2		
15	J-2 埋土	土器 円盤	①長径 3.7 ②幅 3.5 ③船上 中腹 ④底 善 成 良好	⑤最大厚 1.3 ⑥直径 黑褐色 ⑦底面 黑褐色 ⑧底厚度 ほぼ光沢	幕邊は7面の削崩面を有する。	加曾利E 2		
16	J-3 埋土	鉢	① [14.0] ② [28.0]	①中粒②良好③明黄 褐色④頸部へ口縁部	口縁部側面で、外側平口縁。頭部に幾何消音文による区画。底部内には幾何形の平行沈縫を施す。肩部下部に絹条文が垂下。	加曾利E 3		
17	J-3 床底	深鉢	① - ② -	①中粒②良好③にぶい 褐色④頸部	L-R斜織文。頭部に2条単位の平行沈縫が垂下。	加曾利E 3		
18	J-3 埋土	深鉢	① [31.4] ② [3.8]	①中粒②良好 ③褐色④口縁部	口縁部は平口縁。1条の横位沈縫を廻らし、その下に縦位の集合沈縫を施す。	加曾利E 3		
19	J-3 埋土	深鉢	① - ② -	①中粒②良好 ③褐色④頸部	L-R斜織文。頭部に1条の沈縫が垂下。	加曾利E 2		
20	J-3 床底	深鉢	① - ② -	①中粒②良好 ③にぶい褐色④頸部	頭部に幾何条文が垂下。上部に横位の並行沈縫が廻っている。	早中期中葉		
21	遺構外	深鉢	① [44.4] ② [6.8]	①中粒②良好③灰黃 褐色④口縁部	口縁部は平口縁。2条の横位並行沈縫が通り、その下に病円形の沈縫による区画。区画内にL-R斜織文を施している。	加曾利E 3		
22	遺構外	深鉢	① [38.0] ② [9.6]	①中粒②良好 ③灰褐色④口縁部	口縁部は斜縫による区画。斜向消音文。その下に集合沈縫が垂下。	加曾利E 2		
23	遺構外	深鉢	① - ② -	①中粒②良好 ③褐色④頸部	2条単位の沈縫を内に沈縫を施している。	加曾利E 2		
24	遺構外	深鉢	① [23.0] ② [3.4]	①中粒②良好③にぶい 褐色④口縁部	口縁部は平口縁。1条の横位縦帶を廻らし、その上に絹状沈縫を施している。	加曾利E 2		
25	遺構外	深鉢	① [35.0] ② [6.0]	①中粒②良好③灰黃 褐色④口縁部	口縁部は平口縁。1条の横位縦帶を廻らし、その下にR-L斜織文を施す。	加曾利E 2		
26	遺構外	深鉢	① [41.4] ② [6.0]	①中粒②良好③にぶい 褐色④口縁部	口縁部は平口縁。椭円形の区画内にL-R斜織文を施す。	加曾利E 2		

注) ①層位は、(床底) : 床面より10cm以内の層位からの検出、(埋土) : 床面より11cm以上の層位からの検出の2段階に分けた。炉内の検出についても「(炉)」と記載した。

②口縁。測定の単位はcmであり、重き単位はgである。既存値を「()」、復元値を「[]」で示した。

③船上は、船院(0.9mm以下)、中粒(1.0~1.9mm以下)、粗粒(2.0mm以上)とし、特徴的な物質が入る場合に物質名等を記載した。

④既成は、良好・良好・不良の三段階とした。

⑤色調は土器外表面で観察し、色名は新規標準土色紙(小山・竹原1976)によった。

Tab. 7 士器觀察表 (古墳・奈良・平安)

番号	遺傳/位置	器種	①直径②高さ③底土④表面⑤裏面⑥底付	器種の特徴・型式・調整技術	備考
1	H-2 壇、床直	壺 土師器	①(11.2) ②3.8 ③黄褐色④1/4	口縁・体部：内縁して立ち上がり中位から縁やかに外反する。外面撥付の薬剤入り。内面撥付。底部：欠損。平底と推測。	
2	H-3 床直	壺 須恵器	①(12.2) ②3.5 ③灰褐色②/3	瓶體成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。内外面撥付で。底部：回転糸切り未調査。	流れ込み H-2か
3	H-3 壇、床直	壺 須恵器	①(11.5) ②4.0 ③灰白色④円形	瓶體成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。内面撥付で。底部：回転糸切り未調査。内外面焼付着。	
4	H-3 壇、床直	壺 須恵器	①(12.5) ②4.6 ③灰黃褐色④完形	瓶體成形。口縁・体部：内面気味に立ち上がり口縁部で外反する。瓶體成形で。底部：回転糸切り未調査。やや突出した底。	酸化焰燒成
5	H-3 床直	高台壺 須恵器	①(11.8) ②4.5 ③灰黃色④完形	瓶體成形。口縁・体部：内面気味に立ち上がり外傾した体部から直線的に口縁部に至る。内外面撥付で。底部：僅かに「ハ」の字状の外傾した高台貼付。回転糸切り未調査。内外面焼付着。	酸化焰燒成
6	H-3 埋土	高台壺 須恵器	①(12.6) ②5.0 ③暗灰褐色 ④ぼかし形	瓶體成形。口縁・体部：外傾した体部から直線的に口縁部に至り、瓶體部で僅かに外反する。瓶體成形で。底部：僅かに「ハ」の字状の外傾した高台貼付。回転糸切り未調査。内外面焼付着。	酸化焰燒成 粗雑な作り
7	H-3 埋土	足壺 高台壺 須恵器	①(12.8) ②6.8 ③浅黄褐色 ④ぼかし形	瓶體成形。口縁・体部：内縁して立ち上がり、外傾した口縁部に至る。瓶體成形で。底部：「ハ」の字状の長く外傾した高台貼付。回転糸切り未調査。内外面焼付着。	酸化焰燒成
8	H-3 壇、埋土	羽釜 須恵器	①(21.6) ②(5.5) ③灰褐色④山形部1/4	瓶體成形。口縁部：内縁、端部で短く外反。内外面撥付で。脚部は三角形状で、水平に張り出す。脚貼付。脚部から底部：欠損。内外面焼付着。	酸化焰燒成
9	H-3 埋土	羽釜 須恵器	①(18.6) ②(12.6) ③黑褐色④1/6	瓶體成形。口縁部：内縁、端部で僅かに内凹。内外面撥付で。脚部は三角形状で、水平に張り出す。脚貼付。説明最大径。脚部：外傾気味。傾角の激しく。脚部下半から底部：欠損。内外面焼付着。	酸化焰燒成
10	H-3 壇、床直	羽釜 須恵器	①(20.0) ②(16.1) ③にぶい褐色④1/3	瓶體成形。口縁部：内縁、端部で僅かに内凹。内外面撥付で。脚部は三角形状で、水平に張り出す。脚貼付。説明最大径。脚部：外傾斜の窪削り。内面側で。脚部下位から底部：欠損。内外面焼付着。	酸化焰燒成
11	H-3 壇、床直	羽釜 須恵器	①(20.0) ②26.5 ③灰褐色②/3	山形部：内縁、端部で僅かに外反。内外面撥付の跡で。脚部は三角形状で、水平に張り出す。脚貼付。脚部最大径。脚部：外傾斜の窪削り。内面側で。脚部下位から底部：欠損。内外面焼付着。	酸化焰燒成
12	H-4 床直	壺 土師器	①(12.0) ②3.6 ③にぶい褐色④1/2	口縁・体部：外傾して立ち上がり口縁部に至る。口縁部は内外面撥付の跡で。体部は外型横位の薬指り。内面側で。底部：平底。	全体的に歪んでいる
13	H-4 埋土	壺 土師器	①(13.0) ②(4.1) ③明赤褐色①/8	口縁・体部：縁やかに内凹して立ち上がり、外傾した口縁部に至り、端部で外反。変換点に引け。脚部は外型横位の跡で。体部は外型横位の薬指り。内面側で後、放射線状に窪削き。底部：欠損。丸底と推測。	隋文帝 流れ込み
14	H-5 床直	高台壺 須恵器	①(13.6) ②4.5 ③にぶい褐色④1/2	瓶體成形。口縁・体部：外傾した体部から外反した口縁部に至る。内外面撥付で。底部：僅かに立直した高台貼付。回転糸切り未調査。	酸化焰燒成
15	H-5 床直	足高 高台壺 須恵器	①(12.0) ②(5.5) ③にぶい黄褐色④1/3	瓶體成形。口縁・体部：内面気味に立ち上がる。口縁部欠損。脚部上位欠損。内外面撥付で。底部：「ハ」の字状の長く外傾した高台貼付。回転糸切り再調査。	酸化焰燒成
16	H-6 壇、床直	壺 土師器	①(12.0) ②3.3 ③にぶい黄褐色④4/5	口縁・体部：内面気味に立ち上がり直立した口縁部に至る。口径が小さい。交換点に引け。脚部は内外面撥付の跡で。体部は外型横位の薬指り。内面側で。底部：浅い丸底。	小振り
17	H-6 埋土	台付壺 土師器	①(11.8) ②(14.5) ③にぶい褐色④1/2	口縁部：僅かに内凹。内外面撥付で。脚部：内面気味に立ち上がり、脚部上位で小さな張りをもち、僅かに内凹する。外型斜位の薬指り。内面側で。底部：深い丸底。	
18	H-6 床直	長脚壺 土師器	①(21.0) ②(22.0) ③にぶい褐色④1/2	口縁部：外反。脚部最大径。脚部に明確なくびれ有。内外面側で、割れ痕有。脚部：内面気味に立ち上がり、脚部上位で小さな張りをもち、僅かに内凹する。外型斜位の薬指り。内面側で。底部：深い丸底。	
19	H-6 壇、床直	長脚壺 土師器	①(23.4) ②(24.5) ③にぶい褐色④1/2	口縁部：外反。脚部最大径。脚部に明確なくびれ有。内外面側で、割れ痕有。脚部：内面気味に立ち上がり、脚部上位で小さな張りをもち、僅かに内凹する。外型斜位の薬指り。内面側で。底部：深い丸底。	壺の袖に使用
20	H-6 埋土	長脚壺 土師器	①(21.4) ②(25.0) ③にぶい褐色④1/2	口縁部：外反。脚部最大径。脚部に明確なくびれ有。内外面側で。脚部：内面気味に立ち上がり、脚部上位で小さな張りをもち、僅かに内凹する。外型斜位の薬指り。内面側で。底部：深い丸底。	
21	H-8 埋土	壺 須恵器	①(12.8) ②3.5 ③灰褐色④4/5	瓶體成形。口縁・体部：僅かに内凹して立ち上がり外傾した口縁部に至る。内外面撥付で。	
22	H-8 埋土	壺 須恵器	①(16.4) ②3.8 ③灰白色④2/3	瓶體成形。大井形：平底。内外面撥付調整。摸み：ボタン状摸み。体部：縁やかに外傾。口縁部：短く内傾。	
23	H-8 埋土	壺 須恵器	①(17.6) ②(3.4) ③褐色④1/3	瓶體成形。天井形：模様やに盛らむ。回転糸切り。摸み：欠損。体部：縁やかに外傾。口縁部：内傾。	
24	H-8 床直	壺 土師器	①(19.0) ②(16.8) ③にぶい褐色④1/8	口縁部：外反。脚部はほぼ直立。内外面側で。脚部：内面気味に立ち上がり、脚部上位で小さな張りをもち、内凹する。脚部上位脚部最大径。外型斜位。内面側で。底部：欠損。	

番号	遺構/層位	器種	OB④	OB②或③色調④基存復	器種の特徴・概形・調査技術		備考
					①	②	
25	H-8 埋土	土、鉢	① [3.2] ②中段③良好 ② 1.3 ③にふい・赤褐色④2/3	厚さ 1.4 垂さ 4.3 輪郭形を呈し、長軸に沿って孔が穿たれている。			
26	H-9 埋土	坪 土師器	① [14.6] ②中段③良好 ② 2.3 ③褐色④1/4	口縁・体部：内窓気味に立ち上がり、外傾した口縁部に至り、底部で僅かに内窓。口縁部は内外面横位の鋸で。体部は浅く、内外面撫で、粗面右肩。底部：欠損。平底と推測。			
27	H-9 床直	坪 土師器	① [15.6] ②中段③良好 ② 2.7 ③褐色④1/3	口縁・体部：内窓気味に立ち上がり、口縁部で外傾。口径が大きい。口縁部は内外面横位の鋸で。体部は非常に浅く、内外面撫で、底部：平底。			粗面な作り
28	H-9 床直	坪 須恵器	① [12.2] ②中段③良好 ② 3.7 ③黄褐色④はげ完形	輪郭成形。口縁・体部：外傾から口縁部で外反。輪郭撫で。底部：円軒系切り未調査。			粗面な作り
29	H-9 床直	坪 須恵器	① [13.8] ②中段③良好 ② 7.3 ③灰白色④ほげ完形	輪郭成形。口縁・体部：外傾から口縁部に至る、底部で僅かに外反。輪郭撫で。底部：回転系切り未調査。			
30	H-9 埋土	坪 須恵器	① [14.2] ②中段③良好 ② 4.7 ③灰褐色④1/8	輪郭成形。口縁・体部：内窓気味に立ち上がり、体部中位でやや膨らみをもつ。口縁部で外傾。輪郭撫で。底部：回転系切り未調査。			酸化焰焼成
31	H-9 床直	坪 須恵器	① [13.0] ②中段③良好 ② 3.5 ③灰褐色④2/5	輪郭成形。口縁・体部：外傾して立ち上がり口縁部に至る。輪郭撫で。底部：回転系切り未調査。			
32	H-9 埋土	坪 須恵器	① [12.4] ②中段③良好 ② 3.9 ③灰褐色④1/2	輪郭成形。口縁・体部：外傾して立ち上がり口縁部に至る。輪郭撫で。底部：回転系切り未調査。内外面撫付着			洗込み H-23a 酸化焰焼成
33	H-9 埋土	坪 須恵器	① [12.8] ②中段③良好 ② 4.8 ③褐色④1/4	輪郭成形。口縁・体部：外傾して立ち上がり口縁部に至る。輪郭撫で。底部：回転系切り未調査。			
34	H-9 埋土	高台壇 須恵器	① [14.0] ②中段③良好 ② [4.5] ③灰褐色④1/2	輪郭成形。口縁・体部：体部中位にやや膨らみをもつ。外傾した口縁部に至る。内外面輪郭撫で。底部：高台貼付欠損。回転系切り未調査。			酸化焰焼成
35	H-9 埋土	高台壇 須恵器	① [16.0] ②中段③良好 ② 6.0 ③灰白色④1/4	輪郭成形。口縁・体部：内窓気味に立ち上がり、外傾した口縁部に至る。口径が大きい。内外面輪郭撫で。底部：「ハ」の字状に外傾した高台貼付。回転系切り未調査。			
36	H-9 埋土	坪 土師器	① [18.0] ② [5.0] ③中段③良好⑤にふい ④赤褐色⑤山原唇⑤1/2	口縁部：外反。断部はほぼ直立。内外面横位の鋸で。底部から底部：欠損。			
37	H-9 埋土	甕 土師器	① [20.0] ②中段③良好 ② [11.5] ③にふい・赤褐色④1/5	口縁部：外反。断部に指痕有る。内外面撫で。底部：脇部上位に小さな強りをもつ。脇部：定位器最大径。外面裏削り。内面撫で。翼押さえ痕有。輪郭中位から底部：欠損。			
38	H-10 埋土	坪 土師器	① [12.0] ②中段③良好 ② 3.4 ③にふい・赤褐色④1/4	口縁・体部：内窓気味に立ち上がり、口縁部で短く直立。口縁部は内外面撫で。底部：浅い平底。			
39	H-10 床直	坪 土師器	① [13.0] ②中段③良好 ② 3.2 ③にふい・橙色④1/4	口縁・体部：腰やや外傾から口縁部に至り、底部で短く外反。口縁部は内外面横位の鋸で。体部は外面部削り。内面撫で。底部：平底。			
40	H-10 甕、床直	甕 土師器	① [17.0] ②中段③良好 ② 7.0 ③褐色④口縁部1/8	口縁部：外傾。「口」の字状口縁。内外面裏削で。脇部：一部が残存。脇部から底部：欠損。			
41	H-10 埋土	坪 須恵器	① [14.0] ②中段③良好 ② 3.8 ③灰白色④1/2	輪郭成形。口縁・体部：腰ややかに外傾して立ち上がり口縁部に至り、輪郭で短く外反。内外面輪郭撫で。底部：回転系切り未調査。			
42	H-10 埋土	坪 須恵器	① [13.0] ②中段③良好 ② 3.8 ③褐色④2/5	輪郭成形。口縁・体部：腰やかに内窓して立ち上がり外傾した口縁部に至る。内外面輪郭撫で。底部：回転系切り未調査。			
43	H-10 埋土	坪 須恵器	① [12.0] ②中段③良好 ② 4.5 ③褐色④1/3	輪郭成形。口縁・体部：腰やかに外傾して立ち上がり口縁部に至る。内外面輪郭撫で。底部：回転系切り未調査。			
44	H-10 埋土	坪 須恵器	① [13.6] ②中段③良好 ② 3.4 ③灰白色④2/5	輪郭成形。口縁・体部：腰やかに外傾して立ち上がり口縁部に至る。内外面輪郭撫で。底部：回転系切り未調査。			
45	H-10 甕、床直	坪 須恵器	① [13.0] ②中段③良好 ② 3.2 ③褐色④2/5	輪郭成形。口縁・体部：腰やかに外傾して立ち上がり口縁部に至る。内外面裏削で。底部：回転系切り未調査。			
46	H-10 埋土	坪 須恵器	① [12.4] ②中段③良好 ② 3.6 ③褐色④2/5	輪郭成形。口縁・体部：腰やかに外傾して立ち上がり口縁部に至る。内外面輪郭撫で。底部：回転系切り未調査。			
47	H-10 甕、床直	坪 須恵器	① [14.0] ②中段③良好 ② 3.8 ③褐色④1/4	輪郭成形。口縁・体部：腰やかに外傾して立ち上がり口縁部に至る。内外面輪郭撫で。底部：回転系切り未調査。			
48	H-10 床直	高台壇 須恵器	① [13.0] ②中段③良好 ② 4.8 ③褐色④1/3	輪郭成形。口縁・体部：内窓気味に立ち上がり、外傾した口縁部に至る。内外面輪郭撫で。底部：短く直立した高台貼付。回転系切り未調査。			
49	H-10 甕、埋土	高台壇 須恵器	① [15.6] ②中段③良好 ② 6.3 ③灰白色④1/5	輪郭成形。口縁・体部：内窓気味に立ち上がり、外傾した口縁部に至る。口径が大きい。内外面輪郭撫で。体部が深い。底部：「ハ」の字状に外傾した高台貼付。回転系切り未調査。			
50	H-10 床直	高台壇 須恵器	① [14.0] ②中段③良好 ② 6.5 ③灰白色④1/3	輪郭成形。口縁・体部：内窓気味に立ち上がり、外傾した口縁部に至る。輪郭で短く外反。内外面輪郭撫で。体部が深い。底部：「ハ」の字状に短く外傾した高台貼付。回転系切り未調査。			
51	H-10 甕、埋土	高台壇 須恵器	① [15.0] ②中段③良好 ② 6.8 ③灰白色④2/3	輪郭成形。大井部：ほぼ直井。回転系切り削。内外面裏削。腰み：腰元形状損み。体部：腰やかに外傾。口縁部：短く直立。			
52	H-10 床直	甕 須恵器	① 15.0 ②中段③良好 ② 3.8 ③灰白色④2/3	輪郭成形。大井部：ほぼ直井。回転系切り削。内外面裏削。腰み：腰元形状損み。体部：腰やかに外傾。口縁部：短く直立。			

番号	収穫/播種	品種	①耕翻耕	②植付	③苗十進法(色番号)遺存度	基盤の特徴・整形・調整技術	備考
53	H-10 埋土	茎 葉虫草	① [13.0] ② 3.3	①細軟②良好 ③灰白色④1/4	輪盤成形。天井部：肉厚、緩やかに膨らむ。内外面整形成。底部：緩やかに外傾。口縁部：短く直立。		
54	H-10 床直	長脚茎 須虫草	① 6.4 ② 3.5	①中粒②良好 ③灰白色④1/3	輪盤成形。頭部：直立。口縁部で短く屈曲。口唇部整彌。頭部から底部：欠損。		
55	H-10 埋土	長脚茎 須虫草	① - ② (6.9)	①粗和②良好 ③褐紅色④底部のみ	輪盤成形。口縁部から頭部中位：欠損。頭部下位：外傾、厚手。底部：「八」の字状に近く外傾した高台貼付。回転系切り未調整。		
56	H-10 埋土	大 茎 須虫草	① [27.0] ② (7.0)	①粗軟②極良 ③灰白色④口縁部1/4	輪盤成形。頭部：外反。口縁部：短く屈曲して外傾。内外面回転彌。削落から底部：欠損。		
57	H-10 床直	大 粗 須虫草	① [24.1] ② (24.1)	①粗和②良好 ③灰白色④1/4	輪盤成形。口縫部から頭部：欠損。頭部：外面平行叩き日、内面同心円状にて目。頭部中位に膨らみをもつ。頭部下位から底部：欠損。		秋開系か
58	H-11 床直	坪 須虫草	① [13.0] ② 3.4	①中粒②良好 ③灰白色④4/5	輪盤成形。口縫：外傾。体部：僅かに内側して立ち上がり外傾した口縫部に至る。外面向面整彌。底部：回転系切り未調整。		流れ込み
59	H-11 床直	坪 須虫草	① [13.0] ② 3.3	①中粒②良好 ③褐紅色④4/5	輪盤成形。口縫：外傾。体部：僅かに内側して立ち上がり外傾した口縫部に至る。内外面回転彌。底部：回転系切り未調整。		流れ込み
60	H-11 埋土	坪 須虫草	① [12.6] ② 3.2	①中粒②良好 ③にぶい黄橙色④1/4	輪盤成形。口縫：体部：内側して立ち上がり外傾した口縫部に至る。内外面回転彌。底部：回転系切り未調整。内外面潤滑付。		酸化焰焼成
61	H-11 床直	坪 須虫草	① [14.0] ② 4.4	①中粒②良好 ③にぶい黄橙色④1/3	輪盤成形。口縫：体部：僅かに内側して立ち上がり外傾した口縫部に至る。内外面回転彌。底部：回転系切り未調整。		酸化焰焼成
62	H-11 埋土	坪 須虫草	① [14.4] ② 3.3	①中粒②良好 ③灰白色④1/3	輪盤成形。口縫：体部：緩やかに外傾して立ち上がりそのまま口縫部に至る。内外面回転彌。底部：回転系切り未調整。		流れ込み
63	H-11 床直	坪 須虫草	① [12.6] ② 3.3	①中粒②良好 ③灰白色④1/4	輪盤成形。口縫：体部：緩かに内側して立ち上がり外傾した口縫部に至る。内外面回転彌。底部：回転系切り未調整。		流れ込み
64	H-11 埋土	高台坪 須虫草	① [14.0] ② 5.5	①にぶい黄橙色④3/5	輪盤成形。口縫：体部：内門気味に立ち上がり、外傾した口縫部に至る。内外面回転彌。底部：「八」の字状に短く外傾した高台貼付。回転系切り再調整。		酸化焰焼成
65	H-11 埋土	高台坪 須虫草	① [12.4] ② 4.9	①粗和②不良 ③にぶい黄橙色④1/2	輪盤成形。口縫：体部：外傾気味に立ち上がり、口縫部より削落して外反。内外面回転彌。底部：短く直立した高台貼付。回転系切り未調整。		酸化焰焼成
66	H-11 床直	茎 須虫草	① [17.2] ② 4.6	①中粒②良好 ③灰白色④1/3	輪盤成形。口縫：外傾。頭部：緩やかに内側する。内外面回転彌。底部：回転系切り未調整。		酸化焰焼成
67	H-11 床直	広口坪 須虫草	① 22.4 ② 16.5	①粗和②良好 ③灰黄色④半光形	口縫部：外反、端部で僅かに内側。内外面彌。頭部：胸部上位に膨らみをもつ。頭部上位最長径。頭部下位：外面向面削り。底部：回転系切り再調整。		
68	H-11 埋土	羽 茎 須虫草	① 18.0 ② [24.0]	①粗和②良好 ③にぶい褐色④1/2	口縫部：内傾。横位の彌。頭部は三角形状で、水平に張り出す。斜貼付。斜部最大径。頭部：外傾して立ち上がり頭部上位で張りをもつ。緩やかに内側する。外側斜位の頭部。内側張り。底部：欠損。		酸化焰焼成
69	H-11 埋土	羽 茎 須虫草	① [23.0] ② [14.0]	①中粒②良好 ③灰白色④1/8	口縫部：内傾。横位の彌。頭部は三角形状で、水平に張り出す。斜貼付。斜部最大径。頭部：外傾気味。頭部中位から底部：欠損。内外面回転彌。		
70	H-11 埋土	羽 茎 須虫草	① [29.0] ② (8.9)	①粗和②良好③にぶい褐色④口縫部1/7	口縫部：内傾。横位の彌。頭部は三角形状で、水平に張り出す。斜貼付。斜部最大径。頭部上位：外傾気味。頭部中位から底部：欠損。		酸化焰焼成
71	H-11 床直	坪 上側彌	① 20.2 ② (12.0)	①中粒②良好 ③褐色④1/5	口縫部：外反。頭部はほぼ直立。内外面彌で、頭部上位に弱い膨らみをもつ。外側削り。内面削り。頭部中位から底部：欠損。内外面潤滑付。		
72	H-11 床直	篠 土彌	① [20.4] ② (16.4)	①中粒②良好 ③褐色④1/5	口縫部：外反。頭部は直立。内外面彌。頭部上位に弱い膨らみをもつ。膨脹最大径。内外面削り。内面彌。頭部中位から底部：欠損。		
73	H-12 埋土	坪 須虫草	① [13.4] ② 3.7	①中粒②不良 ③灰黃褐色④2/5	輪盤成形。口縫：体部：僅かに外傾して立ち上がり外傾した口縫部に至る。削落で僅かに外反。内外面回転彌。底部：回転系切り未調整。内外面潤滑付。		酸化焰焼成
74	H-12 床直	高台坪 須虫草	① [14.2] ② 4.8	①粗和②良好 ③灰白色④2/5	輪盤成形。口縫：体部：内門気味に立ち上がり、外傾した口縫部に至る。内外面回転彌。底部：短く直立した高台貼付。回転系切り未調整。		
75	H-12 床直	高台坪 須虫草	① [7.6] ② 5.0	①粗和②良好 ③灰白色④1/4	輪盤成形。口縫：体部：僅つかの弱い段をもちながら、外傾した口縫部に至り、削部で僅かに外反。内外面回転彌。底部：短く直立した高台貼付。回転系切り未調整。		
76	H-12 埋土	高台坪 須虫草	① - ② (5.5)	①中粒②良好 ③オリーブ黒色④1/2	輪盤成形。口縫：体部：僅かに外傾して立ち上がり外傾した口縫部に至る。削落で僅かに外反。内外面回転彌。底部：回転系切り未調整。内外面潤滑付。		
77	H-12 埋土	高台坪 須虫草	① [14.1] ② 5.4	①中粒②良好 ③にぶい黄橙色④1/3	輪盤成形。口縫：体部：僅やかに外傾して立ち上がり。そのまま口縫部に至る。内外面回転彌。底部：短く直立した高台貼付。回転系切り未調整。		酸化焰焼成
78	H-12 埋土	高台坪 灰 艶 彌	① [17.0] ② 3.7	①灰白色④1/4弱	輪盤成形。口縫：体部：僅やかに内門気味に立ち上がり、そのまま口縫部に至る。内外面回転彌。底部：短く直立した高台貼付。回転系切り未調整。		鋼毛彌
79	H-12 床直	羽 茎 須虫草	① 21.0 ② [14.0]	①粗和②良好 ③黑褐色④2/3	口縫部：内傾。横位の彌。頭部は三角形状で、水平に張り出す。斜貼付。斜部最大径。頭部：胸部上位に弱い膨らみをもつ。外面向面削り。内面彌。頭部下位から底部：欠損。内外面潤滑付。		酸化焰焼成

番号	遺傳/層位	器 様	①口縫部 ②底部	③上部④底部⑤色彩⑥進行度	器體の特徴・整形・調整技術		備考
					①中粒②良好 ②(26.0) ③にぶい・褐色④2/3	①中粒②良好 ②(7.0) ③にぶい・褐色④1/5	
80	H-12 床直	糞 土嚢器	① 15.4 ② (26.0)	①中粒②良好 ③にぶい・褐色④2/3	口縫部：外反。頭部はほぼ直立。内外面難で。側部：外傾気味に立ち上がり、脚部上部で垂りをもち、内嚢する。頭部上位巻最大伴。外側難削り。内側難毛目後削で。底部：欠損。薄手。		
81	H-12 床直	糞 上嚢器	① 15.8 ② (7.0)	①中粒②良好 ③にぶい・褐色④1/5	口縫部：外反。頭部はほぼ直立。内外面難で。指圧直し。頭部上位：外側難位の難削り。内側難毛目後削で。脚部中位から底部：欠損。内外面難付着。		
82	H-13 埋土	糞 土嚢器	① 11.6 ② 3.7	①中粒②不良 ③褪色④1/2	口縫部：外反。頭部はほぼ直立。口縫部は内外面難位の腹で。体部は外側斜位の重刷り。内面難で。底部：浅い平底。		
83	H-13 埋土	糞 須恵器	① (19.8) ② 3.8	①細粒②良好 ③褪色④1/4	難難成形。口縫・体部：外傾して立ち上がりそのまま口縫部に至る。内外面難難削り。休眠か手。底部：欠損。		
84	H-13 埋土	糞 須恵器	① 14.7 ② 2.9	①中粒②良好 ③褪色④2/3	難難成形。天井部：肉厚、半坦。回転糸切り痕。内外面難調整。横み：ボタン状模様。体部：緩やかに外傾。口縫部：知く外傾。		
85	H-13 床直	糞 須恵器	① - ② (9.3)	①中粒②良好③にぶい・褐色④頑強・脚部	難難成形。口縫部：欠損。頭部：外反。内外面難難削り。頭部：外面平行叩き目紋。内面背面波状紋。脚部中位から底部：欠損。		難化焼成
86	H-13 糞、埋土 土嚢器	糞 土嚢器	① (23.4) ② 5.5	①中粒②良好 ③にぶい・褐色④口縫部1/4	口縫部：外反。内外面難で。頭部直立。外側難削り。脚部から底部：欠損。		
87	H-14 埋土 須恵器	糞 須恵器	① (12.3) ② 3.6	①粗粒②良好 ③にぶい・褐色④3/5	難難成形。口縫・体部：外傾して立ち上がり、口縫部で外反。内外面難難削り。底部：回転糸切り木綱。		難化焼成 燒成な作り
88	H-14 糞、木直	糞 須恵器	① (14.0) ② 3.8	①中粒②良好 ③にぶい・褐色④2/3	難難成形。口縫・体部：外傾して立ち上がり、そのまま口縫部に至る。内外面難難削り。底部：回転糸切り未調整。		難化焼成
89	H-14 高台焼 須恵器	糞 須恵器	① 5.0	③褪色④1/2	難難成形。口縫・体部：外傾して立ち上がり、口縫部で外反。内外面難難削り。底部：底で直立した高台貼付。回転糸切り未調整。		難化焼成 燒成な作り
90	H-14 糞、埋土 須恵器	糞 須恵器	① 12.6 ② 5.0	①中粒②良好 ③にぶい・褐色④1/2	難難成形。口縫・体部：幾つか段をもちらがら外傾した口縫部に至る。内外面難難削り。底部：「V」の字状に粗く外傾した高台貼付。回転糸切り未調整。内外面煤付着。		難化焼成
91	H-14 糞、床直 須恵器	糞 須恵器	① - ② (14.5)	①粗粒②良好 ③褪色④1/5	口縫部から頭部上半：欠損。頭部下位：外面難位の難削り。内面難位の難で。輪倚み負担。底部：平底。		難化焼成
92	H-14 糞、埋土 上嚢器	糞 上嚢器	① (20.4) ② (13.1)	①中粒②良好③にぶい・褐色④山形部1/7	口縫部：内傾。頭部で外反。横位の捲で。脚部は三角形状で、水平に張り出る。頭部：内外面難位の熱で。頭部中位から底部：欠損。		難化焼成
93	H-14 糞、床直	糞 須恵器	① (19.0) ② (13.5)	①中粒②良好 ③褪色④口縫部1/6	口縫部：内傾。頭部で外反。横位の捲で。脚部は三角形状で、水平に張り出る。脚點付。頭部巻最大伴。頭部：内外面難位の熱で。頭部中位から底部：欠損。		
94	H-15 床直	糞 土嚢器	① 12.0 ② 3.8	①中粒②良好 ③明赤褐色④完形	口縫・体部：内傾して立ち上がり口縫部で短く直立。口縫部は内外面難位の難削り。体部は外側斜位の難削り。内面難位の難で。底部：浅い丸底。		
95	H-15 床直	糞 上嚢器	① 11.8 ② 3.8	①中粒②良好 ③褪色④光形	口縫・体部：内傾して立ち上がり口縫部で短く直立。口縫部は内外面難位の難削り。体部は外側斜位の難削り。内面難で。底部：浅い丸底。		
96	H-15 床直	糞 須恵器	① (14.6) ② 4.2	①中粒②良好 ③褪色④1/4	難難成形。口縫・体部：外傾して立ち上がりそのまま口縫部に至る。内外面難難削り。底部：回転糸切り未調整。		
97	H-15 床直	糞 須恵器	① (14.0) ② 4.2	①中粒②良好 ③褪色④2/3	難難成形。口縫・体部：緩やかに外傾して立ち上がりそのまま口縫部に至る。内外面難難削り。底部：回転糸切り未調整。		
98	H-15 床直 須恵器	糞 須恵器	① (15.4) ② 4.2	①粗粒②良好 ③海紅色④1/3	難難成形。天井部：肩部に僅かな膨らみをもつ。内外面難調整。横み：欠損。体部：緩やかに外傾。口縫部：辺り有り。		
99	H-17 埋土	糞 上嚢器	① (13.0) ② 3.6	①中粒②良好 ③にぶい・褐色④1/3	口縫・体部：内傾して立ち上がり口縫部で直立。交換点に複数。口縫部は内外面難で。体部は外側斜位の難削り。内面難で。底部：浅い平底気味。		
100	H-17 埋土	糞 土嚢器	① (10.4) ② 5.0	①中粒②良好 ③褪色④1/5	口縫・体部：内傾して立ち上がり口縫部に至る。交換点に複数。口縫部は内外面難位の難削り。体部は外側斜位の難削り。内面難で。底部：欠損。丸底と捲曲。		
101	H-17 埋土	糞 土嚢器	① (13.8) ② 4.7	①中粒②良好 ③黃褐色④1/6	口縫・体部：内傾して立ち上がり、屈曲して、外傾した口縫部に至る。交換点に複数。口縫部は内外面難位の難削り。体部は外側斜位の難削り。内面難で。底部：欠損。丸底と捲曲。		
102	H-17 埋土	糞 上嚢器	① (13.2) ② 3.9	①中粒②良好 ③褪色④1/5	口縫・体部：内傾して立ち上がり、屈曲して、内傾した口縫部に至る。口径が大きい。交換点に複数。口縫部は内外面難位の難で。休溝は外側難削り。内面難で。底部：欠損。丸底と捲曲。		
103	H-17 埋土	糞 土嚢器	① (13.0) ② 5.7	①粗粒②不良 ③にぶい・黃褐色④1/4	口縫・体部：内傾して立ち上がり口縫部に至る。口縫部は内外面難で。体部は外側斜位の難削り。内面難で。底部：单孔瓶。		
104	H-17 床直	糞 土嚢器	① - ② (11.1)	①中粒②良好③にぶい・褐色④1/2	口縫部から体部：欠損。内外面難削り。底部：平底。单孔瓶。		
105	H-17 埋土	糞 須恵器	① - ② (11.1)	①中粒②良好 ③暗灰褐色④のみ	口縫部：外反。頭部はほぼ直立。内外面難で。頭部：内嚢気味に立ち上がり、頭部中位で巻をもち、内嚢する。頭部中位巻最大伴。外側難削り。内面難で。底難で削除。底部：欠損。平底と捲曲。内外面難付着。		
106	H-17 埋土	糞 上嚢器	① (20.4) ② 3.5	①中粒②良好 ③褪色④1/3	口縫部：外反。頭部はほぼ直立。内面難で。頭部中位で巻をもち、内嚢する。頭部中位巻最大伴。外側難削り。底難で削除。底部：欠損。平底と捲曲。内外面難付着。		

番号	遺構・部位	器種	JIS分類	①地土②焼成③色鉛変作用度	断縫の特徴・整形・調査技術	備考
107	H-17 埋土	甕 上部器	① 20.0 ② (9.4)	①中粒②良好 ③褐色④1/3	口縁部：外反。頸部はほぼ直立。内外面横位の断縫で。肩部：肩部残存。外面削り。内面擦。頸部上位から底部：欠損。	
108	H-17 埋土	甕 土師器	① 19.0 ② (8.0)	①中粒②良好 ③褐色④1/3	口縁部：外反。頸部は直立。内外面横位の断縫で。肩部：肩部残存。外面削り。内面擦。底部：欠損。	
109	H-19 埋土	甕 須恵器	① (18.4) ② (4.0)	①中粒②良好 ③赤褐色④口縁部1/5	口縁部：内側。横位の断縫で。颈部は二角形状で、水平に張り出す。溝貼付。肩部から底部：欠損。	
110	H-20 埋土	甕 土師器	① 12.2 ② 3.7	①中粒②良好 ③にふい赤褐色④4/5	口縫・体部：内側して立ち上がり口縁部で直立。口縫が小さい。口縁部は内外面削。体部は外表面斜位の崩削り。内面擦で。底部：浅い丸底。	
111	H-20 埋土	甕 上部器	① (12.8) ② (3.9)	①中粒②良好 ③にふい赤褐色④1/4	口縫・体部：内側して立ち上がり口縁部で直立。口縫部は外表面斜位で。体部は外表面削り。内面擦で。底部：浅い丸底と推測。	
112	H-20 埋土	甕 土師器	① (22.8) ② (14.0)	①中粒②良好 ③褐色④1/8	口縫部：外反。外表面横位の断縫で。肩部：外表面削り。内面擦で、是非押さえ痕。肩部中位から底部：欠損。	
113	H-21 埋土	甕 上部器	① 12.0 ② 3.8	①中粒②良好 ③褐色④ほぼ完形	口縫・体部：内側して立ち上がり口縁部で直立。口縫部は内外面削で。体部は外表面横位の断縫で。内面擦で。底部：平底。	流れ込み
114	H-21 埋土	甕 土師器	① (10.6) ② 3.6	①中粒②良好 ③褐色④1/4	口縫・体部：内側して立ち上がり口縁部で直立。口縫が小さい。交接点に側面擦。口縫部は外表面削で。体部は外表面斜位の崩削り。内面擦で。底部：浅い丸底。	
115	H-21 埋土	甕 須恵器	① (20.4) ② (2.5)	①中粒②良好 ③褐色④1/6	輪縫形成。火井部：肩部に僅かな膨らみをもつ。外表面調整。擦み：欠損。体部：継やかに外傾。口縫部：直く直立。	
116	H-21 埋土	高台焼 須恵器	① (11.0)	①中粒②良好	輪縫形成。口縫・体部：僅かに内側して立ち上がり外傾した口縫部に沿って。内表面削離削で。底部：「匁」の字状に短く外傾した高台貼付。	輪縫形成
117	H-21 埋土	高台焼 須恵器	① (16.6) ② (6.0)	①中粒②良好 ③灰褐色④1/4	輪縫形成。口縫・体部：継やかに外傾して立ち上がり、そのまま口縫部に至る。内表面削離削で。底部：高台欠損。回転系切り未調査。	輪縫形成
118	H-22 埋土	甕 土師器	① (13.2) ② (3.1)	①中粒②良好 ③にふい赤褐色④1/5	口縫・体部：内側して立ち上がり口縁部で直立。口縫部は内表面削で。体部は外表面削り。内面擦で。底部：欠損。浅い平底と推測。内外面削付。	
119	H-22 埋土直 土師器	甕 土師器	① (14.0) ② 3.3	①中粒②良好 ③褐色④1/6	口縫・体部：内側して立ち上がり口縁部の端部で短く直立。口縫部は外表面削。体部は外表面削離削り。内面擦で。底部：浅い平底氣味。	
120	H-22 埋土	台付甕 土師器	① (13.0) ② 18.1	①中粒②良好 ③にふい赤褐色④1/2	口縫部：外反。外表面削で。肩部：内側して立ち上がり、肩部上位器最大径。外表面削り。内面擦で、延澤え痕有。底部：「匁」の字状に外反した高台貼付。	
121	H-23 埋土	高台焼 須恵器	① (14.2) ② 5.4	①中粒②良好 ③灰褐色④1/2	輪縫形成。口縫・体部：僅かに内側して立ち上がり外傾した口縫部に至り、端部で強く外反。外表面削離削で。底部：「匁」の字状に短く直立した高台貼付。回転系切り未調査。	輪縫形成
122	H-23 埋土	甕 須恵器	① (17.6) ② 3.0	①中粒②良好 ③灰褐色④1/2	輪縫形成。天井部：兩部に僅かな膨らみをもつ。回転系切り痕。内表面削離削。撓み：ボタン状撓み。体部：継やかに外傾。口縫部：直く直立。II-9か。	流れ込み
123	H-23 埋土	甕 須恵器	① (14.0) ② (2.3)	①中粒②良好 ③褐色④1/3	輪縫形成。口縫・体部：継やかに外側して立ち上がり口縁部の端部で僅かに外反。内表面削離削で。底部：高台欠損。回転系切り木剥離。	
124	H-23 埋土	甕 土師器	① (24.0) ② (22.1)	①中粒②良好 ③にふい赤褐色④1/4	口縫部：外反。口縫器収入作。頸部はほぼ直立。外表面横位の断縫で。肩部：内側に立ち上がり、肩部上位で膨らみをもち、内側する。外面上位器位の直削り、下位斜位の直削り。内面擦で。底部：欠損。丸底と推測。	
125	H-23 埋土	甕 土師器	① (21.0) ② (7.0)	①中粒②良好 ③褐色④口縫部1/4	口縫部：外反。頸部は直立。内外面削で。肩部：肩部残存。外表面削り。内面擦で。肩部上位から底部：欠損。	
126	H-24 埋土	甕 土師器	① (13.6) ② (3.7)	①中粒②良好 ③褐色④1/5	口縫・体部：内側して立ち上がり口縫部の端部で短く直立。口縫部は外表面削。体部は外表面削離削り。内面擦で。底部：欠損。浅い丸底と推測。	
127	H-24 埋土	高台焼 須恵器	① (14.8) ② (7.0)	①中粒②良好 ③灰褐色④1/4	輪縫形成。口縫・体部：僅かに内側して立ち上がり外傾した口縫部に至り端部で強く外反。外表面削離削で。底部：「匁」の字状に外傾した高台貼付。回転系切り未調査。	
128	H-24 埋土	土 瓶	① (3.9) ② 1.7	①中粒②良好 ③灰褐色④ほぼ完形	厚さ 1.6 重さ 7.0 輪縫形を呈し、長軸に沿って孔が穿たれている。	
129	H-25 埋土	甕 須恵器	① 14.0 ② 3.3	①中粒②良好 ③褐色④2/3	輪縫形成。口縫・体部：外傾して立ち上がりそのまま口縫部に土る。内表面削離削で。底部：回転系切り木剥離。	輪縫形成
130	H-25 埋土	高台焼 須恵器	① 11.2 ② 4.9	①中粒②良好 ③灰褐色④1/2	輪縫形成。口縫・体部：僅かに内側して立ち上がり外傾した口縫部に至る。内表面削離削で。底部：「匁」の字状に短く外傾した高台貼付。回転系切り未調査。	
131	H-25 埋土	短縫甕 須恵器	① - ② (14.9)	①中粒②良好 ③褐色④2/3	口縫部：欠損。底部：欠損。肩部：継やかに外傾して立ち上がりそのままで口縫部に至る。内表面削離削で。底部：「匁」の字状に外傾した高台貼付。回転系切り木剥離。	
132	H-26 埋土	甕 土師器	① (12.0) ② (3.1)	①中粒②良好 ③にふい褐色④1/5	口縫・体部：内側して立ち上がり口縫部で直立。口縫部は外表面削で。体部は外表面削離削り。内面擦で。底部：欠損。浅い平底と剥離。	
133	H-26 埋土	甕 上部器	① (12.0) ② 4.0	①中粒②不良 ③黒褐色④1/4	口縫・体部：僅かに内側して立ち上がり外傾した口縫部に至る。口縫部は外表面削で。体部は外表面斜位の施削り。内面擦で。底部：半底気味。内外面漏付。	

番号	遺構/部位	出土種	①口縫部	②地土(鉢底)の色調の有無	器種の特徴・基形・調査技術	備考
134	H-26 床直 須恵器	釜	① 21.3 ② 3.7	①鉢底②良好 ③灰白色④ほぼ完形	輪縁成形。口縫・体部：僅かに内側して立ち上がり外傾した口縫部に至る。内外面輪縁無で。底部：僅かに「ハ」の字状に外傾した高台貼付。回転糸切り未調査。	
135	H-26 壁土 須恵器	釜	① [22.0] ② (9.2)	①中段②良好③にふ い褐色④口縫部1/4	口縫部：外反。内外面輪縁無。胴部上位：外両面削り。内面糊毛目後削で。剥落上位から底部：欠損。	
136	H-27 床直 須恵器	环	① 13.0 ② 3.6	①中段②良好 ③灰白色④1/2	輪縁成形。口縫・体部：僅かに内側して立ち上がり、外傾した口縫部に至る。内外面輪縁無で。底部：回転糸切り未調査。	
137	H-27 壁土 須恵器	堵	① [8.0] ② (5.5)	①中段②良好 ③にふい褐色④1/2	口縫部：欠損。体部：内側して立ち上がり、体部中位で膨らみをもち、内側する。外側直削で。内面削で、足押さえ痕有。底部：中央落ち込む。平底気味。指押さえ。	流れ込み 内面底原形。
138	H-27 床直 上漆器	環	① [20.0] ② (13.5)	①中段②良好 ③にふい赤褐色④1/5	口縫部：外反。頭部はほぼ直立。内外面輪縁無。頭部中位最大径。外両面削り。内面削で、足押さえ痕有。頭部下位から底部：欠損。	
139	H-28 壁土 須恵器	环	① [14.0] ② 3.2	①中段②不良 ③にふい黄褐色④1/5	輪縁成形。口縫・体部：僅やかに外傾して立ち上がりそのまま口縫部に至る。内外面輪縁無で。底部：回転糸切り未調査。	酸化焰焼成
140	H-29 床直 須恵器	环	① [13.0] ② (3.7)	①中段②良好 ③灰褐色④1/3	輪縁成形。口縫・体部：内寄氣味に立ち上がり、外傾した口縫部に至る。内外面輪縁無で。底部：欠損。	酸化焰焼成
141	H-29 大 床直 須恵器	环	① - ② (8.5)	①中段②良好 ③灰褐色④頭部のみ	口縫部：外反。内外面輪縁無で。剥落上位から底部：欠損。	秋間系か
142	H-31 埋上 上漆器	环	① 13.0 ② (3.3)	①中段②良好 ③明赤褐色④1/3	口縫・体部：僅かに内側して立ち上がり。口縫部で短く直立。口縫部は内外面輪縁無で。体部は外面斜位の底削り。内面削で。底部：欠損。浅い丸底と粗削。	
143	H-31 床土 須恵器	环	① 12.7 ② 3.2	①中段②良好 ③灰褐色④4/5	輪縁成形。口縫・体部：外傾して立ち上がり、そのまま口縫部に至る。内外面輪縁無で。底部：回転糸切り未調査。	酸化焰焼成
144	H-31 床直 須恵器	釜	① 11.8 ② (11.0)	①中段②良好 ③灰褐色④1/3	輪縁成形。口縫部から体部上位：欠損。体部：内側して立ち上がり上位で膨らみをもつ。内外面輪縁無で。底部：「ハ」の字状に外傾した高台貼付。回転糸切り未調査。	
145	D-1 埋土 須恵器	長颈瓶 須恵器	① - ② (9.6)	①中段②良好 ③灰褐色④1/8	輪縁成形。口縫部から頸部：欠損。体部：外傾して立ち上がり上位で膨らみをもつ。内外面輪縁無で。底部：欠損。	
146	X15Y118 上 土	釜	① 5.4 ② 1.5	①中段②良好③にふ い赤褐色④完形	身さ 14 豊さ 7.3 輪縁形を呈し、其軸に沿て孔が穿たれている。	

(注) ①部位は、「床直」：床より10cm以内の部位からの検出、「埋土」：床面より11cm以上の部位からの検出の2段階に分けた。竈内の検出についても「竈」と記載した。

②口縫・器高の単位はcmであり、重さ単位はgである。現存板を（）、復元板を〔〕で示した。

③身上は、粗粒(0.9mm以下)、中粒(1.0~1.9mm以下)、粗粒(2.0mm以上)とし、特徴的な氣物が入る場合に氣物名等を記載した。

④焼成は、微良、良好、不良の三段階とした。

⑤色調は土器外側で観察し、色名は新日本標準土色板(小山・竹原1976)によった。

Tab. 8 瓦規範表

番号	道筋/部位	器種	最大長	最大幅	最大厚	①(1)2(2)3(3)4(4)5(5)	器形・技術等の特徴		備考
							面	裏	
1	H-3 壁、床直	平瓦	(20.5)	(15.5)	2.5	①粗粒②良好 ③灰白色④1/4	四面：布目（やや密）。横側筋。凸面：撫で。側部面取り2面。		還元焼成
2	H-3 壁、埋土	平瓦	(16.7)	(14.1)	2.4	①粗粒②良好 ③灰白色④1/5	背面：布目（やや密）。凸面：横位の撫で。側部面取り2面。		還元焼成
3	H-4 埋土	丸瓦	(28.7)	(11.0)	2.0	①細粒②良好 ③灰白色④1/3	行基蓋式。四面：布目（密）。粘土板条切り筋。凸面：横位の撫で。側部面取り2面。		還元焼成
4	H-4 埋土	平瓦	(17.2)	(17.3)	1.7	①中粒②良好 ③灰白色④1/6	四面：布目擦り消し。粘土板条切り筋。凸面：正格了叩き後擦り消し。側部面取り2面。		還元焼成
5	H-4 床直	軒丸瓦	(15.0)	(12.4)	2.4	①中粒②良好 ③灰黄色④1/3	一枚作り。凹面：布目。粘土板条切り筋。凸面：撫で。側部面取り2面。		還元焼成
6	H-5 床直	平瓦	(11.8)	(10.5)	2.8	①粗粒②良好 ③褐灰色④1/12	四面：布目（粗）。粘土板条切り筋。凸面：撫で。広端部面取り1面。		還元焼成
7	H-8 床直	平瓦	(26.5)	33.0	2.1	①粗粒②良好 ③橙色④1/4	四面：布目擦り消し。粘土板条切り筋。凸面：撫位の撫で。押印文字瓦「山田」（凸面）、露書き記号瓦「手」（凸面）。側部面取り2面。		鉄化焼成
8	H-8 床直	平瓦	(16.0)	(12.8)	3.1	①細粒②良好 ③灰白色④1/6	四面：布目擦り消し。粘土板条切り筋（鮮明）。凸面：撫で。押印文字瓦「五子（鐵文字）」（凸面）		鉄化焼成
9	H-8 床直	平瓦	(15.2)	(10.5)	2.1	①細粒②良好 ③灰褐色④1/10	背面：布目。凸面：板片痕。側部面取り1面。広端部面取り2面。二次被然。		鉄化焼成
10	H-8 埋土	平瓦	(23.1)	(11.7)	1.5	①中粒②良好 ③灰褐色④1/10	四面：布目擦り消し。凸面：正格了叩き。側部面取り1面。広端部面取り2面。薄手の瓦。		還元焼成
11	H-8 埋土	丸瓦	(12.0)	(10.8)	1.5	①中粒②良好 ③褐灰色④1/6	行基蓋式か。凹面：布目（密）。粘土板条切り筋。凸面：撫印（鮮明）。側部面取り2面。薄手の瓦。		還元焼成
12	H-8 床直	丸瓦	(9.2)	(10.8)	1.1	①粗粒②良好 ③灰褐色④1/8	行基蓋式。凹面：布目擦り消し。粘土板条切り筋。凸面：横位の撫で。側端部面取り2面。薄手の瓦。		鉄化焼成
13	H-8 床直	丸瓦	(16.0)	(7.5)	1.7	①細粒②良好 ③にぶい褐色④1/5	行基蓋式。凹面：布目（密）。布の合わせ目痕。凸面：撫で。側端部面取り3面。側端部面取り2面。		鉄化焼成
14	H-8 埋土	平瓦	(11.0)	(12.4)	1.7	①粗粒②良好 ③明赤褐色④1/10	四面：布目。粘土板条切り筋。凸面：撫で。側部面取り2面。側端部面取り1面。		鉄化焼成
15	H-8 床直	平瓦	(10.9)	(14.8)	2.3	①細粒②良好 ③にぶい褐色④1/5	四面：布目（粗）。後・逐面で。側面：撫印後横位の撫で。側端部面取り1面。二次被然。		還元焼成
16	H-8 床直	丸瓦	36.8	16.7	1.3	①細粒②良好 ③灰白色④光彩	行基蓋式。凹面：布目。粘土板条切り筋。布の合わせ目痕。凸面：撫位の撫で。側端部面取り2面。薄手の瓦。広端部面取り1面。		還元焼成
17	H-8 埋土	丸瓦	(10.8)	(10.4)	1.9	①粗粒②良好 ③黄褐色④1/6	行基蓋式か。凹面：布目（密）。凸面：横位撫で。側端部面取り1面。		還元焼成
18	H-8 埋土	平瓦	(12.6)	(10.3)	1.4	①細粒②良好 ③灰褐色④1/8	横巻き作り。凹面：布目。横筋痕。凸面：横位の撫で。側端部面取り2面。側端部面取り2面。薄手の瓦。		還元焼成
19	H-8 埋土	丸瓦	(28.7)	19.0	2.4	①中粒②良好 ③褐灰色④3/4	行基蓋式か。凹面：布目擦り消し。粘土板条切り筋。凸面：布目擦り消し後撫印。側部面取り3面。広端部面取り1面。		還元焼成
20	H-8 床直	丸瓦	(19.5)	(14.8)	2.0	①中粒②良好 ③灰白色④1/4	行基蓋式。凹面：布目。粘土板条切り筋。布の合わせ目痕。凸面：撫印後横位撫で。側端部面取り2面。側端部面取り1面。		還元焼成
21	H-8 壁、埋土	丸瓦	(8.6)	(9.4)	2.9	①粗粒②良好 ③灰白色④1/8	長縁式。凹面：布目（粗）。凸面：撫印後横位の撫り消し。側端部面取り2面。		還元焼成
22	H-8 床直	平瓦	(14.5)	(6.8)	1.3	①細粒②良好 ③灰白色④1/12	凹面：布目擦り消し。凸面：撫印後撫り消し。側部面取り2面。側端部面取り2面。薄手の瓦。		還元焼成
23	H-9 埋土	平瓦	(7.6)	(6.0)	2.0	①細粒②良好 ③灰褐色④1/40	凹面：布目。粘土板条切り筋。凸面：撫で。押印文字瓦「山田」（凸面）		還元焼成
24	H-9 埋土	平瓦	(14.9)	(9.7)	2.6	①中粒②良好 ③灰白色④1/10	凹面：布目擦り消し。露書き文字「山」（凸面）。凸面：撫で。側部面取り2面。側端部面取り1面。露書き文字「山」の左側。		還元焼成
25	H-9 埋土	丸瓦	(12.2)	(13.0)	2.2	①細粒②良好 ③灰褐色④1/6	行基蓋式か。凹面：布目（粗）。凸面：平行印（鮮明）。側部面取り1面。		還元焼成
26	H-9 埋土	丸瓦	(9.5)	(7.5)	1.5	①中粒②良好 ③黄褐色④1/8	行基蓋式か。凹面：布目（密）。凸面：撫で。側部面取り2面。露書き文字「瓦」の右側。		鉄化焼成
27	H-10 床直	平瓦	41.1	(22.0)	2.1	①粗粒②良好 ③滑色④2/3	凹面：布目。粘土板条切り筋。内面：駿位の撫で。露書き文字瓦「笠」（凹面）。凸面：駿位の撫で。側部面取り1面。広端部面取り1面。		還元焼成
28	H-10 埋土	平瓦	(32.7)	(17.7)	3.2	①中粒②良好 ③褐灰色④2/5	凹面：布目（密）。粘土板条切り筋。露書き文字瓦「笠」（凹面）。凸面：駿位の撫で。側部面取り1面。広端部面取り1面。		還元焼成

番号	遺構/部位	部 種	最大長	最大幅	數字	岩1~岩3の色調と違和感	器形・技術等の特徴	備考
29	H-10 埋土	平 瓦	(14.0)	(15.5)	2.7	①織紋②良好 ③にふい・褐色④1/6	四面：布目。粘土板系切り痕。凸面：縦位の縫で、押印文字瓦「廣」(凹面)。側面部取り3面。狭端部面取り2面。二次被熱。	濃化焰燒成 文字瓦⑥
30	H-10 埋土	平 瓦	(7.8)	(12.0)	1.9	①織紋②良好 ③褐色④1/3	四面：布目。粘土板系切り痕。凸面：縦位の縫で、捺・書き記号瓦「一」(凸面)。側面部取り1面。広端部面取り1面。	濃元焰燒成 記号瓦⑦
31	H-10 埋土	丸 瓦	(5.9)	(6.8)	2.3	①織紋②良好 ③灰色④1/30	四面：布目。凸面：無で。運書き文字瓦「干」(凸面)。側面部取り1面。狭端部面取り1面。	運元焰燒成 文字瓦⑧
32	H-10 床直	平 瓦	(18.2)	28.5	1.4	①織紋②良好 ③褐色④1/3	四面：布目。捺印押し痕。凸面：織叩き。側面部取り2面。広端部面取り1面。運書き記号瓦「二」(凹面)。二次被熱。海子の瓦。	濃元焰燒成 記号瓦⑨
33	H-10 床直	平 瓦	(31.1)	35.8	2.2	①織紋②良好 ③灰白色②/3	粘土巻き上りかげ。凸面：布目(密)。凸面：横位の縫で。側面部取り1面。広端部面取り1面。二次被熱。	濃化焰燒成
34	H-10 埋土	平 瓦	(34.9)	(15.4)	1.6	①織紋②良好 ③にふい・褐色④1/3	四面：布目捺印押し痕(衝)。凸面：無で疊形後斜角子印き。側面部取り1面。広端部面取り1面。二次被熱。	濃化焰燒成
35	H-10 床直	平 瓦	38.3	(12.8)	2.9	①織紋②良好 ③暗褐色④1/2	四面：布目(粗)。凸面：平行叩き。側面部取り2面。広端部面取り1面。狭端部面取り1面。	濃元焰燒成
36	H-10 埋土	平 瓦	(22.3)	(22.5)	2.7	①織紋②良好 ③褐色④1/3	四面：布目(粗)。粘土板系切り痕。凸面：縦位の縫で。側面部取り2面。狭端部面取り2面。二次被熱。	濃元焰燒成
37	H-10 床直	平 瓦	(41.5)	(28.2)	2.4	①織紋②良好 ③褐色④1/2	1枚作りか。四面：布目捺印押し痕。凸面：織叩き。側面部取り2面。広端部面取り1面。二次被熱。	濃化焰燒成
38	H-10 埋土	平 瓦	(32.0)	(21.5)	2.7	①織紋②良好 ③黄褐色④1/3	縫書き作り。四面：布目(密)。粘土板系切り痕。布の合わせ目印。横位。凸面：織叩き(断羽羽)。側面部取り2面。狭端部面取り2面。	濃元焰燒成
39	H-10 埋土、床直	平 瓦	(23.8)	(25.6)	2.6	①中較②良好 ③にふい・褐色④1/3	縫書き作り。凹面：布目(粗)。横位。凸面：織叩き捺印押し痕。側面部取り2面。広端部面取り2面。二次被熱。	濃化焰燒成
40	H-10 床直	平 瓦	(15.0)	(17.5)	2.6	①織紋②良好 ③褐色④1/5	四面：布目(粗)。粘土板系切り痕。凸面：縦位の縫で。側面部取り1面。狭端部面取り1面。	濃元焰燒成
41	H-10 床直	平 瓦	(22.5)	(13.8)	2.1	①織紋②良好 ③灰色④1/4	四面：布目(粗)。凸面：無で。側面部取り2面。広端部面取1面。	濃元焰燒成
42	H-10 埋土	平 瓦	(18.0)	(24.0)	2.8	①織紋②良好 ③青灰褐色④1/3	縫書き作り。凹面：布目。横位。凸面：織叩き捺印押し痕。側面部取り2面。狭端部面取り2面。	濃元焰燒成
43	H-10 床直	平 瓦	(26.3)	(16.5)	2.3	①織紋②良好 ③灰黄色④1/4	四面：布目(粗)。凸面：縦位の縫で。側面部取り1面。広端部面取1面。二次被熱。	濃元焰燒成
44	H-10 埋土	平 瓦	(15.0)	(15.5)	2.3	①織紋②良好 ③にふい・青褐色④1/6	凹面：布目(粗)。凸面：無で。側面部取り1面。狭端部面取1面。	濃化焰燒成
45	H-10 埋土	平 瓦	(14.2)	(17.4)	2.2	①織紋②良好 ③灰褐色④1/6	縫書き作り。凹面：布目(粗)。粘土板系切り痕。横位。凸面：布目捺印押し痕。側面部取り2面。	濃化焰燒成
46	H-10 床直	平 瓦	(25.1)	(11.5)	2.1	①織紋②良好 ③灰色④1/5	凹面：布目。粘土板系切り痕。凸面：縦位の縫で。側面部取り2面。	濃元焰燒成
47	H-10 埋土、床直	平 瓦	(18.4)	(12.0)	2.3	①織紋②良好 ③にふい・褐色④1/6	四面：布目捺印押し痕。粘土板系切り痕。凸面：横位で。側面部取1面。濃化焰燒成	濃化焰燒成
48	H-10 埋土、床直	平 瓦	(9.2)	(15.5)	2.3	①中較②良好 ③灰褐色④1/8	四面：布目(粗)。粘土板系切り痕。凸面：平行叩き。側面部取り3面。二次被熱。	濃元焰燒成
49	H-10 埋土、埋土	平 瓦	(10.5)	(15.6)	2.1	①織紋②良好 ③灰色④1/4	凹面：布目(密)。粘土板系切り痕。凸面：斜向織叩き。側面部取り2面。	濃元焰燒成
50	H-10 床直	平 瓦	(30.5)	(14.0)	2.2	①織紋②良好 ③にふい・褐色④1/4	四面：布目(粗)。凸面：無で。側面部取り1面。広端部面取2面。二次被熱。	濃化焰燒成
51	H-10 床直	平 瓦	(17.0)	(16.0)	2.4	①織紋②良好 ③灰褐色④1/4	凹面：布目(密)。粘土板系切り痕。凸面：無で。二次被熱。	濃元焰燒成
52	H-10 床直	平 瓦	(11.5)	(16.5)	2.5	①織紋②良好 ③灰黃褐色④1/8	四面：布目。粘土板系切り痕。布の合わせ目印。凸面：正格子。濃化焰燒成	濃化焰燒成
53	H-10 床直	丸 瓦	(15.2)	(9.3)	2.0	①中較②良好 ③褐色④1/5	行基幕式。凹面：布目。粘土板系切り痕。凸面：無で。側面部取り1面。二次被熱。	濃化焰燒成
54	H-10 埋土	平 瓦	(18.6)	(10.5)	2.4	①織紋②良好 ③にふい・褐色④1/8	四面：布目。凸面：縦位の縫で。側面部取り1面。二次被熱。	濃化焰燒成
55	H-10 埋土、床直	平 瓦	(14.0)	(10.5)	1.7	①中較②良好 ③黄褐色④1/8	凹面：布目捺印押し痕。側面部取り2面。	濃元焰燒成
56	H-10 埋土、床直	平 瓦	(16.0)	(13.0)	2.4	①織紋②良好 ③灰褐色④1/6	四面：布目捺印押し痕(やや粗)。凸面：横骨筋。凸面：織叩き捺印押し痕。側面部取り2面。	濃元焰燒成
57	H-10 埋土	平 瓦	(10.5)	(13.5)	1.7	①織紋②良好 ③灰褐色④1/8	縫書き作り。凹面：布目。粘土板系切り痕。横骨筋。凸面：織叩き捺印押し痕。側面部取り2面。	濃元焰燒成

番号	構造/部位	器種	最長尺	最大幅	乱数	①+②或③+④或⑤+⑥	器形・技術等の特徴		備考
							正面	背面	
58	H-10 床底	平 瓦	(13.0)	(12.5)	1.8	①織紋②良好 ③灰色④1/6	正面：布目（粗）。凸面：撚で。側部面取り1面。狭端部面取 り2面。	逆元焰焼成	
59	H-10 床底	丸 瓦	(7.9)	(7.9)	3.0	①織紋②良好 ③灰白色④1/10	行基瓦式か。正面：布目（粗）。凸面：撚で。広端部面取り2面。	酸化焰焼成	
60	H-10 壁、埋土	平 瓦	(10.2)	(9.4)	1.1	①織紋②良好 ③褐色④1/10	正面：布目捺り消し。凸面：繩叩き。側部面取り2面。狭端部面 取り1面。二次被熱。	酸化焰焼成	
61	H-10 床底	平 瓦	(10.5)	(10.0)	1.8	①織紋②良好 ③灰黄色④1/10	正面：布目捺り消し。凸面：繩叩き。側部面取り2面。広端部 面取り2面。二次被熱。	逆元焰焼成	
62	H-10 埋土	平 瓦	(8.5)	(7.5)	2.3	①織紋②良好 ③灰色④1/20	正面：布目（細）。粘土板糸切り痕。凸面：撚で。側部面取り 3面。	逆元焰焼成	
63	H-10 壁	丸 瓦	(10.0)	(8.6)	1.3	①中粒②良好 ③褐色④1/6	行基瓦式。正面：布目。凸面：撚で。側部面取り2面。狭端部 面取り1面。薄手の瓦。	酸化焰焼成	
64	H-10 床底	平 瓦	(10.0)	(10.0)	1.8	①中粒②良好 ③灰色④1/10	正面：布目（粗）。粘土板糸切り痕。凸面：撚で。側部面取り 3面。	逆元焰焼成	
65	H-10 窓、埋土	平 瓦	(10.5)	(15.2)	2.2	①織紋②良好 ③褐色④1/8	正面：布目。凸面：撚で。側部面取り2面。	逆元焰焼成	
66	H-10 壁、床底	丸 瓦	(12.9)	(10.1)	1.4	①織紋②良好 ③褐色④1/6	行基瓦式か。正面：布目。凸面：撚で。二次被熱。薄手の瓦。	酸化焰焼成	
67	H-10 壁、床底	平 瓦	(10.1)	(6.6)	1.6	①織紋②良好 ③褐色④1/20	正面：布目。画面粘土板糸切り痕。凸面：斜糸叩き（斜引）。	逆元焰焼成	
68	H-10 床底	斜平瓦	(10.2)	(10.0)	4.7	①中粒②良好 ③褐色④1/10	瓦当裏面は右側に唐草文。瓦当部：無軸に近い。正面：斜め方 向の削り。凸面：傾方向の細かい削り後縁叩き	逆元焰焼成	
69	H-10 床底	斜平瓦	(14.0)	(9.0)	4.7	①織紋②良好 ③灰色④1/8	瓦当裏面は右側に唐草文。瓦当部：断面が三角形になる頃。面 正面：布目捺り消し。凸面：継位の削り。側部面 取り2面。二次被熱。	逆元焰燒成 瓦底。回分 寸守焼成法	
70	H-10 壁、埋土	斜平瓦	(25.0)	27.8	4.0	①中粒②良好 ③灰色④1/2	瓦当裏面は三重弧文。1枚作り。瓦当部：横位の削り。正面： 布目捺り消し。凸面：継位の削り。ベンガラ付着。側部面取り 2面。	逆元焰燒成 瓦底。回分 寸守焼成法 の瓦	
71	H-10 壁、埋土	丸 瓦	(37.5)	17.1	2.7	①中粒②良好 ③暗紅色④2/3	行基瓦式か。正面：布目。粘土板糸切り痕。凸面：撚で。側部 面取り2面。広端部面取り2面。	逆元焰焼成	
72	H-10 壁、床底	丸 瓦	(27.7)	18.9	2.2	①中粒②良好 ③灰白色④9/10	半基作り。行基瓦式。正面：布目。粘土板糸切り。凸面：繩叩 き捺り消し。側部面取り2面。広端部面取り1面。二次被熱。	逆元焰焼成	
73	H-10 壁、床底	平 瓦	42.1	26.3	2.4	①織紋②良好 ③赤色④絆縫完形	1枚作り。正面：布目。凸面：継位の削れ。側部面取 り2面。二次被熱。	酸化焰焼成	
74	H-10 壁、埋土	丸 瓦	(30.8)	(13.3)	1.8	①織紋②良好 ③明黄色④2/3	行基瓦式か。正面：布目。粘土板糸切り痕。凸面：繩叩き後削 側部面取り3面。広端部面取り1面。	酸化焰焼成	
75	H-10 床底	丸 瓦	(31.0)	(13.5)	1.8	①織紋②良好 ③灰白色④1/2	行基瓦式。正面：布目（密）。右の合わせ日痕。凸面：繩叩 き後削位の削れ。側部面取2面。後縁部面取3面。	逆元焰焼成	
76	H-10 壁、埋土	丸 瓦	(31.5)	19.1	2.7	①中粒②良好 ③灰色④3/4	半基作り。行基瓦式か。正面：布目。粘土板糸切り痕。凸面： 繩叩き後削。側部面取2面。広端部面取2面。	逆元焰焼成	
77	H-10 床底	丸 瓦	(16.5)	(14.0)	2.1	①中粒②良好 ③灰白色④1/2	行基瓦式。正面：布目（粗）。凸面：継位の削れ。側部面取 り2面。側部面取1面。	逆元焰焼成	
78	H-10 床底	丸 瓦	(25.0)	19.0	2.1	①織紋②良好 ③灰色④1/3	行基瓦式。正面：布目。凸面：継位の削れ。側部面取 り2面。後縁部面取1面。	逆元焰焼成	
79	H-10 床底	丸 瓦	(16.0)	(14.7)	2.3	①中粒②良好 ③灰色④1/5	行基瓦式。正面：布目。凸面：平行叩き。側面取2面。狭 端部面取2面。	益元焰焼成	
80	H-10 床底	丸 瓦	(8.5)	(14.2)	2.3	①中粒②良好 ③灰白色④1/8	行基瓦式か。正面：布目（密）。粘土板糸切り痕。凸面：繩叩 き後削位の削れ。側部面取1面。	逆元焰燒成	
81	H-10 埋土	丸 瓦	(14.0)	16.7	2.5	①織紋②良好 ③灰色④1/4	行基瓦式。正面：布目。凸面：継位の削れ。側部面取 り2面。	逆元焰焼成	
82	H-10 壁、埋土	丸 瓦	(26.0)	(21.6)	2.7	①中粒②良好 ③灰色④1/2	行基瓦式か。正面：布目。凸面：継位の削れ。側部面取 り2面。広端部面取2面。	逆元焰焼成	
83	H-10 床底	丸 瓦	(22.3)	(16.0)	2.2	①織紋②良好 ③灰色④1/2	行基瓦式。正面：布目。凸面：平行叩き（斜引）。側面取 り2面。広端部面取2面。	逆元焰燒成	
84	H-10 埋土	平 瓦	(9.3)	(12.0)	2.2	①織紋②良好 ③灰色④1/10	凹面：布目（密）。粘土板糸切り痕。凸面：撚で。側部面取 り2面。広端部面取2面。	逆元焰燒成	
85	H-10 床底	丸 瓦	(23.5)	17.5	3.1	①織紋②良好 ③暗紅色④1/2	玉縫式。正面：布目。粘土板糸切り痕。凸面：繩叩き後削。	酸化焰焼成	

番号	造様/肩置	器種	最大径	最大高	重さ	①船上丸底②船頭部行底	船形・技術等の特徴		備考
							行基葉式。凹面：布口。粘土板条切り痕。凸面：横位の腹で、側面部面取り1面。表端部面取り1面。	還元焰焼成	
86	H-10 縫、床直	丸 瓦	(20.6)	(13.0)	2.4	①中粒②良好 ③にふい・褐色④1/4			
87	H-10 埋土	丸 瓦	(15.5)	(16.0)	4.1	①中粒②良好 ③にふい・褐色④1/4	長縁式。凹面：布口擦り消し。凸面：横位の腹で、側面部面取り2面。表端部面取り2面。	酸化焰焼成	
88	H-10 縫、埋土	丸 瓦	(12.5)	(16.0)	1.3	①中粒②良好 ③にふい・褐色④1/4	行基葉式か。凹面：布口（痕）。凸面：横位の腹で。側面部面取り1面。表端部面取り1面。	還元焰焼成	
89	H-10 床直	丸 瓦	(13.6)	(12.0)	2.1	①粗粒②良好 ③灰白色④1/8	行基葉式。凹面：布口（痕）。凸面：横位の腹で。側面部面取り1面。表端部面取り1面。	還元焰焼成	
90	H-10 埋土	丸 瓦	(8.1)	(12.0)	1.6	①中粒②良好 ③褐色④1/4	行基葉式。凹面：布口。凸面：擦で。側面部面取り2面。表端部面取り2面。二次被熱。	酸化焰焼成	
91	H-10 縫、埋土	丸 瓦	(14.5)	(9.5)	1.4	①中粒②良好 ③褐色④1/6	行基葉式。凹面：布口。凸面：横位の腹で。側面部面取り1面。表端部面取り1面。寄手の瓦。	還元焰焼成	
92	H-10 埋土	平 瓦	(19.6)	(6.8)	2.2	①粗粒②良好 ③にふい・褐色④1/8	凹面：布口（密）。凸面：擦で。墨書き文字瓦「伴」（凸面）。側面部面取り2面。	酸化焰焼成 文字瓦⑤	
93	H-10 床直	平 瓦	(9.8)	(11.0)	2.4	①中粒②良好 ③灰白色④1/16	凹面：布口。粘土板条切り痕。凸面：擦で。墨書き文字瓦「手」（凸面）。	還元焰焼成 文字瓦⑥	
94	H-10 埋土	丸 瓦	(7.5)	(6.0)	2.2	①中粒②良好 ③浅黄褐色④1/15	行基葉式か。凹面：布口。凸面：擦で。墨書き文字瓦「万」（凸面）。二次被熱。	酸化焰焼成 文字瓦⑦	
95	H-11 床直	平 瓦	(23.5)	(14.4)	1.8	①中粒②良好 ③褐色④1/4	横書き作り。凹面：布口。擦骨痕。凸面：擦書き。側面部面取り2面。表端部面取り2面。二次被熱。	酸化焰焼成	
96	H-11 縫、埋土	平 瓦	(32.0)	(11.0)	1.7	①中粒②良好 ③褐褐色④1/8	凹面：布口擦り消し。凸面：正格子叩き。側面部面取り2面。広端部面取り1面。	還元焰焼成	
97	H-11 埋土	平 瓦	(39.0)	(11.0)	1.8	①粗粒②良好 ③褐色④1/3	粘土粒書き上げか。凹面：布口（密）。凸面：變位の腹で。側面部面取り1面。	還元焰焼成	
98	H-11 床直	平 瓦	(15.5)	(12.5)	2.0	①粗粒②良好 ③褐褐色④1/4	凹面：布口（密）。凸面：平行叩き。側面部面取り1面。広端部面取り1面。二次被熱。	還元焰焼成	
99	H-11 床直	平 瓦	(23.5)	(9.7)	2.2	①中粒②良好 ③浅黄褐色④1/6	凹面：布口（密）。凸面：擦で。側面部面取り2面。二次被熱。	酸化焰焼成	
100	H-11 床直	丸 瓦	(18.3)	(13.5)	1.8	①粗粒②良好 ③にふい・褐色④1/4	行基葉式か。凹面：布口。粘土板条切り痕。布の合わせ目板。凸面：擦で。側面部面取り2面。二次被熱。	酸化焰焼成	
101	H-11 埋土	平 瓦	(13.5)	(14.7)	2.7	①粗粒②良好 ③褐色④1/5	凹面：布口擦り消し。凸面：觸書き後継位の腹で。側面部面取り2面。広端部面取り2面。二次被熱。	酸化焰焼成	
102	H-11 床直	丸 瓦	(14.7)	(11.0)	2.0	①中粒②良好 ③褐色④1/5	行基葉式。凹面：布口（密）。凸面：變位の腹で。側面部面取り2面。表端部面取り2面。	還元焰焼成	
103	H-11 縫、埋土	平 瓦	(22.0)	(14.5)	1.6	①中粒②良好 ③にふい・褐色④1/8	凹面：布口。凸面：擦書き擦り消し。側面部面取り1面。煤付着。酸化焰焼成		
104	H-11 床直	平 瓦	(12.0)	(15.8)	1.9	①中粒②良好 ③にふい・褐色④1/8	凹面：布口擦り消し。粘土板条切り痕。凸面：横位の腹で。側面部面取り2面。	還元焰焼成	
105	H-11 縫、埋土	丸 瓦	(15.5)	(9.7)	2.1	①粗粒②良好 ③にふい・褐色④1/9	行基葉式。凹面：布口。凸面：擦で。側面部面取り3面。広端部面取り2面。	酸化焰焼成	
106	H-11 床直	平 瓦	(19.0)	(10.5)	1.9	①中粒②良好 ③褐色④1/6	凹面：布口。凸面：變位の腹で。側面部面取り3面。表端部面取り1面。	還元焰焼成	
107	H-11 床直	平 瓦	(8.8)	(14.5)	2.5	①粗粒②良好 ③褐色④1/15	凹面：布口擦り消し。兩面：粘土板条切り痕。凸面：横位の腹で。側面部面取り1面。表端部面取り1面。	酸化焰焼成	
108	H-11 床直	平 瓦	(8.1)	(14.4)	1.7	①中粒②良好 ③にふい・褐色④1/10	凹面：布口擦り消し。凸面：觸書き後継位の腹で。側面部面取り1面。広端部面取り1面。二次被熱。	酸化焰焼成	
109	H-11 床直	平 瓦	(10.8)	(11.0)	2.8	①中粒②良好 ③褐色④1/8	凹面：布口。粘土板条切り痕。凸面：平行叩き。側面部面取り1面。	還元焰焼成	
110	H-11 床直	平 瓦	(11.0)	(12.8)	1.8	①粗粒②良好 ③褐色④1/15	凹面：布口擦り消し。兩面：粘土板条切り痕。凸面：横位の腹で。側面部面取り1面。表端部面取り1面。	酸化焰焼成	
111	H-11 床直	平 瓦	(10.2)	(11.5)	2.6	①粗粒②良好 ③褐色④1/10	凹面：布口。凸面：平行叩き後換で。側面部面取り1面。	還元焰焼成	
112	H-11 床直	平 瓦	(21.5)	(9.0)	2.3	①粗粒②良好 ③灰白色④1/8	凹面：布口（痕）。兩面：粘土板条切り痕。凸面：横位の腹で。側面部面取り2面。	還元焰焼成	
113	H-11 床直	平 瓦	(11.2)	(8.5)	2.5	①粗粒②良好 ③褐色④1/10	凹面：布口（痕）。兩面：粘土板条切り痕。凸面：擦で。側面部面取り2面。広端部面取り2面。二次被熱。	酸化焰焼成	
114	H-11 埋土	丸 瓦	(9.0)	(10.5)	1.3	①粗粒②良好 ③褐色④1/8	行基葉式か。凹面：布口擦り消し。布の合わせ目板。凸面：横位の腹で。側面部面取り2面。広端部面取り3面。二次被熱。寄手の瓦。	酸化焰燒成	
115	H-11 埋土	丸 瓦	(6.7)	(10.5)	2.5	①中粒②良好 ③褐色④1/8	行基葉式か。凹面：布口（痕）。凸面：擦で。側面部面取り2面。	還元焰焼成	

番号	構造/部位	器種	最大長	最大幅	基準	勘定②良好 ③灰褐色④1/10	器形・技術等の特徴		備考
							凹面: 布目。凸面: 織叩き後横位の織で。側部面取り2面。広端部面取り2面。二次被熱。	運元焼成	
116	H-11 床直	半 瓦	(7.2)	(12.6)	1.7	①織紋②良好 ③灰褐色④1/10			
117	H-11 壁、床直	丸 瓦	(10.5)	(10.0)	2.6	①中粒②良好 ③灰褐色④1/16	行基築式か。凹面: 布目。凸面: 横位で。側部面取り1面。	酸化焰焼成	
118	H-11 床直	丸 瓦	(11.0)	21.0	2.5	①織紋②良好 ③灰褐色④1/4	行基築式か。凹面: 布目(縦)。粘土板糸切り痕。凸面: 横位の縫合で。側部面取り2面。広端部面取り上面。	運元焼成	
119	H-11 床直	丸 瓦	(13.6)	18.0	2.7	①織紋②良好 ③灰褐色④1/3	行基築式。凹面: 布目。凸面: 縫位の縫合で。側部面取り2面。広端部面取り2面。	運元焼成	
120	H-11 床直	丸 瓦	(18.7)	(14.5)	1.4	①織紋②良好 ③灰褐色④1/3	行基築式。凹面: 布目。凸面: 縫位の縫合で。側部面取り3面。薄手の瓦。	運元焼成	
121	H-11 床直	丸 瓦	(17.0)	(14.1)	2.1	①織紋②良好 ③灰褐色④1/3	行基築式。凹面: 布目(縦)。粘土板糸切り痕。凸面: 横位で。側部面取り3面。	運元焼成	
122	H-11 床直	丸 瓦	(6.8)	(12.7)	3.0	①織紋②良好 ③明褐色④1/6	縫合式。凹面: 布目。凸面: 横位で。側部面取り2面。二次被熱。	酸化焰焼成	
123	H-11 床直	丸 瓦	(7.7)	(10.0)	3.1	①織紋②良好 ③灰褐色④1/8	玉締式。凹面: 布目。凸面: 横位で。側部面取り2面。	運元焼成	
124	H-12 壁、床直	丸 瓦	(26.0)	18.8	2.2	①中粒②良好 ③灰褐色④9/10	粘土糸巻き上げか。行基築式か。凹面: 布目(縦)。凸面: 横位で。露舌書き文字瓦(右側)(凸面)。側部面取り1面。広端部面取り1面。	運元焼成	
125	H-12 壁、床直	丸 瓦	(19.9)	(12.7)	3.2	①中粒②良好 ③にぶい橙色④1/4	行基築式か。凹面: 布目。凸面: 横位の縫合で。側端部面取り3面。側部面取り2面。二次被熱。	酸化焰焼成	
126	H-13 床直	平 瓦	(7.3)	(13.3)	2.0	①織紋②良好 ③灰褐色④1/10	凹面: 布目。凸面: 織叩き織り消し。側部面取り3面。広端部面取り3面。	運元焼成	
127	H-13 床直	丸 瓦	(21.3)	(11.7)	2.0	①織紋②良好 ③灰褐色④1/3	行基築式。凹面: 布目。粘土板の合わせ目模。凸面: 縫位で側部面取り1面。広端部面取り1面。	運元焼成	
128	H-13 床直	丸 瓦	(9.6)	(10.7)	2.4	①織紋②良好 ③灰褐色④1/8	行基築式。凹面: 布目織り消し。粘土板糸切り縫。凸面: 縫位の縫合で。側部面取り2面。広端部面取り1面。	運元焼成	
129	H-13 床直	丸 瓦	(8.3)	(9.5)	1.8	①織紋②良好 ③灰褐色④1/8	行基築式。凹面: 布目織り消し。凸面: 縫位の縫合で。側部面取り2面。扶端部面取り2面。	運元焼成	
130	H-14 壁、埋上	丸 瓦	(14.8)	(13.5)	2.4	①織紋②良好 ③にぶい黄褐色④1/5	行基築式。凹面: 布目(縦)。凸面: 織叩き織り消し。側部面取り2面。広端部面取り2面。	酸化焰焼成	
131	H-22 床直	平 瓦	(16.3)	(14.5)	1.7	①織紋②良好 ③暗褐色④1/6	凹面: 布目(縦)。粘土板糸切り痕。凸面: 縫位の縫合で。側部面取り2面。広端部面取り2面。	運元焼成	
132	H-22 壁、床直	平 瓦	(13.5)	(14.0)	1.9	①織紋②良好 ③灰褐色④1/4	縫合巻き作り。凹面: 布目(縦)。粘土板糸切り痕。横骨筋。凸面: 横位の縫合で。側部面取り1面。広端部面取り2面。	運元焼成	
133	H-22 壁、床直	丸 瓦	(12.0)	(10.0)	1.5	①織紋②良好 ③灰褐色④1/8	行基築式。凹面: 布目。粘土板糸切り痕。側部面取り2面。扶端部面取り2面。薄手の瓦。	運元焼成	
134	H-23 埋上	丸 瓦	(17.5)	(15.0)	1.8	①中粒②良好 ③灰褐色④1/3	行基築式か。凹面: 布目。粘土板糸切り痕。凸面: 横位の縫合で。側部面取り2面。	運元焼成	
135	H-23 埋上	平 瓦	(17.5)	(12.5)	2.3	①中粒②良好 ③灰褐色④1/5	凹面: 布目(縦)。凸面: 平行叩き。側部面取り2面。扶端部面取り2面。	運元焼成	
136	H-23 埋上	平 瓦	(20.3)	(7.0)	3.3	①織紋②良好 ③灰褐色④1/8	凹面: 布目(縦)。凸面: 縫位の縫合で。扶端部面取り2面。二次被熱。	運元焼成	
137	H-23 埋上	丸 瓦	(11.0)	(12.2)	3.3	①織紋②良好 ③灰褐色④1/4	縫合式。凹面: 布目(縦)。凸面: 横位の縫合で。	運元焼成	
138	H-23 壁、埋上	平 瓦	(8.8)	(9.5)	2.3	①中粒②良好 ③灰褐色④1/16	凹面: 布目。粘土板糸切り痕。凸面: 織叩き織り消し。側部面取り3面。扶端部面取り2面。	運元焼成	
139	H-23 床直	丸 瓦	(7.0)	(11.4)	1.7	①織紋②良好 ③にぶい橙色④1/16	行基築式か。凹面: 布目織り消し。凸面: 横位の縫合で。広端部面取り1面。	酸化焰焼成	
140	H-23 埋上	軒丸瓦	(8.2)	(9.4)	2.8	①織紋②良好 ③灰褐色④1/16	単弁4箇連串文。子茎のないやや長い連弁。文様はすべて織紋。開弁介は丁字形。瓦当裏面: 無絞りの布日。凹面: 布日。凸面: 横位の縫合で。	運元焼成	
141	H-24 床直	半 瓦	45.8	(19.0)	3.1	①織紋②良好 ③明褐色④2/3	凹面: 布目。粘土板糸切り痕。凸面: 横位の縫合で。側部面取り3面。広端部面取り2面。	酸化焰焼成	
142	H-24 床直	半 瓦	(23.0)	(17.0)	2.4	①中粒②良好 ③灰褐色④1/4	凹面: 布目(縦)。凸面: 縫位の縫合で。扶端部面取り2面。二次被熱。	運元焼成	
143	H-24 床直	平 瓦	(27.4)	(12.0)	2.7	①中粒②良好 ③にぶい赤褐色④1/5	凹面: 布目(縦)。凸面: 織叩き織り消し。扶端部面取り2面。一次被熱。	酸化焰焼成	
144	H-24 床直	丸 瓦	(14.0)	(15.6)	2.0	①織紋②良好 ③灰褐色④1/5	行基築式か。凹面: 布目(縦)。粘土板糸切り痕。凸面: 横位の縫合で。側部面取り2面。二次被熱。	酸化焰焼成	

番号	遮構/層位	出 積	最大長	最大幅	裏切	①土壁材②セメント系接着剤	器形・技術等の特徴	備 考
145	H-24 埋土	丸 瓦	(13.0)	(11.0)	1.5	①粗粒②良好 ③灰色④1/5	行基盤式。凹面：布目。粘土板糸切り痕。凸面：横位の撫で。側部面取り3面。広端部面取り2面。薄手の瓦。	茎元焼成 成
146	H-24 床直	平 瓦	(13.8)	(16.6)	2.1	①細粒②良好 ③灰白色④1/6	西面：布目。粘土板糸切り痕。布の合せ目痕。凸面：撫叩き消し。側部面取り2面。広端部面取り2面。二次被熱。	強化焼成
147	H-24 床直	平 瓦	(17.9)	(12.7)	2.4	①粗粒②良好 ③灰白色④1/6	西面：布目。粘土板糸切り痕。凸面：撫で。側部面取り1面。側端部面取り1面。二次被熱。	強化焼成
148	H-24 埋土	丸 瓦	(8.5)	(11.8)	2.2	①細粒②良好 ③灰色④1/10	行基盤式か。西面：(密)。粘土板糸切り板。凸面：横位の撫で。側部面取り2面。	茎元焼成 成
149	H-24 埋土	丸 瓦	(12.7)	(14.5)	2.8	①細粒②良好 ③灰白色④1/6	行基盤式。凹面：布目(密)。布の合せ目痕。凸面：撫で。側部面取り1面。側端部面取り1面。二次被熱。	強化焼成
150	H-24 埋土	丸 瓦	(9.4)	(9.7)	3.0	①中粒②良好 ③灰色④1/5	五線瓦。凹面：布目。凸面：継位の撫で。側部面取り2面。	茎元焼成 成
151	H-24 埋土	丸 瓦	(25.5)	18.8	2.2	①細粒②良好 ③灰色④1/2	行基盤式か。凹面：布目(密)。粘土板糸切り痕。凸面：継位の撫で。側部面取り3面。広端部面取り1面。	茎元焼成 成
152	H-25 床直	平 瓦	(7.3)	(15.5)	1.7	①細粒②良好 ③灰黄色④1/10	西面：布目(密)。粘土板糸切り板。凸面：撫叩き。側部面取り2面。二次被熱。	強化焼成
153	H-25 床直	平 瓦	(17.0)	(11.0)	2.0	①中粒②良好 ③灰白色④1/8	西面：布目撫り消し。両面粘土板糸切り痕。凸面：撫で。側部面取り2面。広端部面取り1面。二次被熱。	茎元焼成 成
154	H-25 床直	平 瓦	(17.4)	(9.2)	2.2	①中粒②良好 ③灰色④1/10	西面：布目(密)。粘土板糸切り痕。凸面：平行叩き。広端部面取り2面。書き文字瓦「日」(凸面)。	茎元焼成 成 文字瓦
155	H-28 埋土	平 瓦	(12.5)	(17.5)	1.8	①細粒②良好 ③黄灰色④1/4	1枚作り。凹面：布目撫り消し。凸面：撫で後斜格子叩き。側部面取り2面。	茎元焼成 成
156	H-30 埋土	丸 瓦	(17.0)	(12.7)	2.0	①細粒②良好 ③灰白色④1/8	行基盤式か。凹面：布目。凸面：撫叩き後継位の撫で。側部面取り1面。広端部面取り上面。	茎元焼成 成
157	H-31 埋土	平 瓦	(9.5)	(19.5)	2.5	①中粒②良好 ③灰色④1/5	輪書き作り。凹面：布目。粘土板糸切り痕。横骨痕。凸面：撫叩き消し。側部面取り3面。	茎元焼成 成
158	遮構外 1	平 瓦	(11.8)	(8.3)	2.0	①中粒②良好③にぶい黄褐色④1/16	西面：布目。輪書き記号瓦「十」(凹面)。凸面：撫叩き後撫で。二次被熱。	強化焼成 成 記号瓦
159	遮構外 2	丸 瓦	(8.8)	(9.5)	1.5	①中粒②良好 ③浅黃褐色④1/8	行基盤式か。凹面：布目。粘土板糸切り痕。凸面：横位撫で。輪書き判読不能文字瓦「(山)」。薄手の瓦。	強化焼成 成 文字瓦
160	遮構外 3	平 瓦	(28.2)	(11.0)	2.1	①細粒②良好 ③滑色④1/4	西面：布目。粘土板糸切り痕。凸面：撫叩き後撫で。側部面取り2面。広端部面取り2面。二次被熱。	強化焼成
161	遮構外 4	平 瓦	37.0	(12.5)	1.5	①細粒②良好 ③灰褐色④1/2	粘土筋書き上げか。凹面：布目(密)。凸面：横位の撫で。側部面取り2面。広端部面取り1面。二次被熱。薄手の瓦。	茎元焼成 成
162	遮構外 5	軒茅瓦	(9.0)	(8.9)	4.3	①中粒②良好③にぶい黄褐色④1/10	瓦当意匠は右端行脚草文。瓦当部：無頬に近い。凹面：布目撫り消し。凸面：輪書き撫で。	強化焼成 成 宇瓦 四分 寸創建期瓦

注) ①層位は、「床直」：床面より10cm以内の層位からの検出、「埋土」：床面より11cm以上の層位からの検出に分けた。屋内の検出について「上」と記載した。

②長さ、厚さの単位はcmである。現存高を「上」、型元高を「下」で示した。

③敷土は、繊維(0.9mm以下)、中粒(1.0~1.9mm以下)、粗粒(2.0mm以上)とし、特徴的な敷物が入る場合に敷物名等を記載した。

④焼成は、良好・良好・不良の三段階とした。

⑤色調は土器表面で検査し、色名は新日本標準土色系(小山・竹林1976)によった。

Tab. 9 鉄器・鉄製品・古銭観察表

番号	遺構・層位	器種	最大長	最大幅	最大厚	重さ	遺存度	備考
1	H-9・埋土	筋鉢車	(11.3)	4.2	0.3	30.6	2/3	触部両側欠損。紡錘部は細く、鈍化している。
2	H-10・床直	盤	(7.5)	3.9	0.7	24.2	2/3	断面方形を呈し、片方の端部側欠損。
3	H-10・床直	銅鏡	2.4	孔 径 0.7	0.1	2.4	ほぼ完形	名称「開平永寶」。年代延暦15年。西暦796年。早朝十二文鏡。山王廟寺跡からも2点出土。
4	H-11・埋土	石突状金具	(9.2)	2.4	1.9	54.0	1/2	先端部欠損。全体的に後半部分をもつ先端の尖った金具。基部径2.8cm(内径1.9cm) 先端丸味径0.9cm
5	H-13・埋土	馬具か	(7.7)	4.8	0.3	32.6	3/4	鍔板か。鈍化著しい。
6	H-20・床直	鉄 鏡	(9.1)	2.6	0.3	15.2	1/2	丸先端及び周側の駆抜。茎下端部欠損。鈍化著しい。
7	H-21・床直	角 灯	(11.4)	9.0	0.8	41.6	2/3	方形を呈し、下端部欠損は先端に繋がりする。鈍化著しい。
8	X15Y115	飾金具	5.1	3.0	0.2	12.2	完形	調度品の飾金具。青銅製。端部背りに幅0.2cm前後の孔、穿たれる。

注) 大きさの単位はcmであり、重さ単位はgである。現存値を()で示した。

Tab.10 石器・石製品観察表

番号	遺構・層位	器種	最大長	最大幅	最大厚	重さ	石材	遺存度	備考
1	J-1・埋土	打製石斧	15.7	8.6	2.5	450.5	黒色頁岩	完形。両縫側から刃部にかけて細かい調整。表面一部に自然面を残す。	
2	J-3・埋土	敲き石	14.1	6.7	4.4	610.0	閃緑岩	完形	棒状の標部に錐打による溝が認められる。
3	H-10・埋土	打製石斧	8.4	4.0	1.4	77.0	頁岩	2/3	丸頭形。両縫側から刃部にかけて細かい調整。裏面一部に自然面を残す。
4	H-11・埋土	石 砺	(2.8)	2.1	0.3	1.5	チャート	ほぼ完形	四葉無茎型。先端部僅かに欠損。基部の刃人が丸く、微細な調整が丁寧。
5	H-11・埋土	打製石斧	14.0	6.1	2.4	220.0	玄武岩	完形	短頭形。両縫側から刃部にかけて細かい調整。
6	H-12・埋土	石 砺	1.5	1.4	0.4	0.9	墨壺石	完形	円茎無茎型。茎形の刃人が丸く浅い。微細な調整が丁寧。
7	H-14・埋土	打製石斧	12.2	4.2	1.1	70.0	硬質頁岩	完形	短頭形。両縫側から刃部にかけて細かい調整。裏面一部に自然面を残す。
8	H-17・埋土	打製石斧	10.2	4.5	1.5	86.0	黒色頁岩	完形	短頭形。両縫側から刃部にかけて細かい調整。
9	H-17・埋土	打製石斧	10.3	4.6	1.3	68.5	黒色頁岩	完形	短頭形。両縫側から刃部にかけて細かい調整。表面一部に自然面を残す。
10	H-21・埋土	研み石	10.2	8.5	3.3	350.0	安山岩	完形	向面に窓みを有する。
11	H-22・埋土	打製石斧	9.3	3.5	1.0	47.0	黑色頁岩	完形	短頭形。両縫側から刃部にかけて細かい調整。表面一部に自然面を残す。

注) 大きさの単位はcmであり、重さ単位はgである。現存値を()で示した。

VI 考 察

平成15年度一般県道足門前橋線バイパス（西毛広域幹線道路 国分寺工区）緊急地方道路整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査では、現耕作土より約50cm程掘削したところで遺構面を確認した。調査の結果、竪穴住居跡34軒（うち3軒が縄文時代の竪穴住居跡）、溝跡2条、土坑1基、落ち込み1基を検出することができた。出土遺物からみると、加曾利式期を中心とする縄文時代中期の土器片や石器から古墳時代・奈良時代・平安時代の七器片に至るまでの広い時期に渡っている。中でも、8世紀後半から10世紀後半にかけての遺物が、殆どの割合を占めていた。また、破片を含めた遺物総数の約1割にあたる1,264点もの瓦片が出土している。本遺跡は国府推定城の北西側に位置し、調査区の北西側には国分寺跡、北側には国分尼寺跡が隣接する地域である。周辺の遺跡との関連でみると、「上野国分寺跡・尼寺中間地域」で検出された集落の跡部にあたると考えられる。

ここでは今回の調査によって明らかになった遺構・遺物について、Ⅰ期（～7世紀前半、律令期以前）、Ⅱ期（7世紀後半～10世紀初頭、律令期）、Ⅲ期（10世紀前半～、律令期以後）の3期に大別して、特徴的なことを中心に考察していきたい。また今後、今回の調査結果を周辺遺跡の調査事例と合わせ、より詳細な総社・元総社地区の歴史解明に寄与したい。

Ⅰ期（～7世紀前半、律令期以前）

縄文時代の竪穴式住居が3軒検出された。このうち2軒が調査区南側から検出された。扇丸方形を呈するもので、炉は検出されなかつたが、出土遺物から縄文時代中期（加曾利式期）と考えられる。昨年度調査を実施した元総社小見II遺跡でも縄文時代中期の竪穴住居跡が2軒検出されていることから、関連する集落である可能性が高い。近隣の耕作地では、土器や石器なども採集されており、どのような集落形成がなされていたかについては、今後の調査に期待したい。

今回の調査で検出されたのは、縄文時代の竪穴式住居以外では、Ⅰ期はH-17号竪穴住居跡1軒のみであった。この住居からは、土師器環、瓶、甕、須恵器高杯が出土し、古墳時代後期（6世紀中頃）のものであることが判明した。この時期の住居は、正方形に近い形状を成し、確認できたもので一辺が4m前後のものが多い。壁高は約35.5cmを測る。炉は確認できなかつた。今年度もⅠ期竪穴住居跡の検出数が非常に少なく、特に6世紀末～7世紀前半の遺構は検出されなかつた。これらの調査結果は、過去2年間調査を実施した国府推定城北東側の調査同様、国府成立前には国府周辺には大きな集落は形成されていなかつたという見解の更なる裏付けとなつた。

Ⅱ期（7世紀後半～10世紀初頭、律令期）

本期の竪穴住居跡は19軒あり、調査区の全域にわたって分布が見られる。

竪穴住居の分布でみると、7世紀後半から8世紀中頃にかけての竪穴住居跡は、H-6号竪穴住居跡の1軒検出のみである。この住居跡は土師器環、台付甕、長胴甕等の出土遺物から8世紀初頭のものであると考えられる。住居範囲は、西側が調査区域外であることとW-1号溝跡に切られていることから一部分のみの検出となった。確認範囲で、壁高約33cm、面積約8.2m²である。また甕は東壁中央に付設されており、左袖部には長胴甕を逆位に設せた状態で検出され、右袖部には自然石が使用されていた。このように使用されなくなった土器を再利用して甕を構成する手法はやはり過年度の調査からも検出されている。土器の変化を探る上で重要な資料である。

今回この狭い調査範囲の中で、8世紀後半から9世紀前半にかけての竪穴住居跡は16軒と非常に多く検出された。特徴的な住居を挙げると、H-8号竪穴住居跡は、壁高約30cmで、電が東壁中央北寄りに付設され、隙縫

部・煙道部等に構築材、構架材として丸瓦、平瓦を転用して構築されていたことが窺える。また、住居内には灰や粘土が散在していた。住居内からは75点もの瓦片が出土しその間に、文字瓦が2点含まれていた。一つは、平瓦（瓦觀察表No.7）の凸面に「山田」（山田郡の郡銘瓦）と押印された文字と、同じ面に「干」と籠書きされた記号が検出され、もう一つも、やはり平瓦（瓦觀察表No.8）の凸面に「五子」の鏡文字が押印されているのを検出した。この住居跡は須恵器坏、蓋、上飾器蓋等の出土遺物から9世紀前半のものであることが判明した。H-10号竪穴住居跡は、壠現高約48.5cmで、壠が東壁南寄りに付設され、両袖部・煙道部、壠際に国分僧寺瓦を再利用して構築されていた。この時期のこの地域の壠には瓦による壁面の補強が一般化していたものと考えられる。この住居からは今回の調査で出土した瓦片のうち約3割にあたる354点出土した。その中に、文字瓦が6点含まれていた。平瓦（瓦觀察表No.27・29・30・31）凸面に「十」「圓」「十」と平瓦（瓦觀察表No.28・32）凹面に「里せ」「一」と記された文字が検出された。また、国分僧寺創建期に使用されていたと考えられる軒平瓦（瓦觀察表No.68・69・70）も検出された。皇朝十二錢の一つである「隆平永寶」の銅錢も検出された。この住居跡は、土脚器坏、甕、須恵器坏、蓋、高台塊等の出土遺物から9世紀前半のものであることが判明した。この住居内には数多くの瓦片が散在していた他に電周辺には灰が特に厚く堆積し、その灰が住居内全体に及んでいた。これは湿気防止の為であると考えられる。

H-8・9・10・29号竪穴住居跡は、東電の方向や住居の主軸方向の統一性があることが、住居跡一覧表（Fig. 2）や時代別の竪穴住居跡配置図（Fig. 6）からも分かる。国府との関連でみると、推定されている国府城の縁辺では土地利用上の規制が及んでいたことが想定され、居住域は限定された中で建て替えが行われていたものとみられる。また、竪穴住居跡の重複が著しく検出されていることからみても、この地が規制の中で住居を建てることが許され、小規模な集落が散在していた様子が窺える。

III期（10世紀前半～、律令期以後）

本期の竪穴住居跡は8軒あり、そのうち1軒、H-11号竪穴住居跡が10世紀前半の住居で、残りの7軒は10世紀後半の住居である。その中で特徴のある住居を挙げると、H-3号竪穴住居跡は、壠現高約30cmで、壠が東壁中央に付設され、壁面を振り込んで構築し、凝灰岩質砂岩の加工材を袖石や天井石に用いていた。また、壠の支脚には自然石を用いていた。H-11号竪穴住居跡は、一辺が約4.9mを測り、方形を呈し、壠現高約36cmで、壠が東壁中央に付設されている。この住居内からも甕や住居の補強に転用された瓦150点が出土した。その中にも、文字瓦が3点含まれていた。平瓦（瓦觀察表No.92・93・94）の凸面には「伴」「手」「万？」と籠書きされていた。H-12号竪穴住居跡の出土瓦の中には平瓦凸面に「石」と籠書きされた文字瓦も含まれていた。壠の南東側に棚状の遺構を検出した。また、東壁中央南寄りに付設された壠の袖部には凝灰岩質砂岩が使用されていた。

検出された遺構が調査区外にかかっていることもあり住居の一部しか確認できなかつたが、壠の方向や住居の主軸方向などの規格に統一性がないことが住居跡一覧表（Fig. 2）や時代別の竪穴住居跡配置図（Fig. 6）からも分かる。このことは国府機能の衰退と共に規制が緩和され、縁辺部の集落構造が変質したことが想定される。

本遺跡の竪穴住居跡と「上野国分僧寺・尼寺中間地域」の竪穴住居跡を比較してみると、各年代毎に殆どの住居で主軸方向や住居の規模に一致がみられる。このことから本遺跡の住居は、「上野国分僧寺・尼寺中間地域」で検出された集落の縁辺部にあたると考えられる。また長年にわたって集落が形成されていることから、この地が国分僧寺・尼寺と深く関わりをもちながら、その維持管理に関連した工人や農耕に從事した人々の集落として機能してきたものと考えられる。

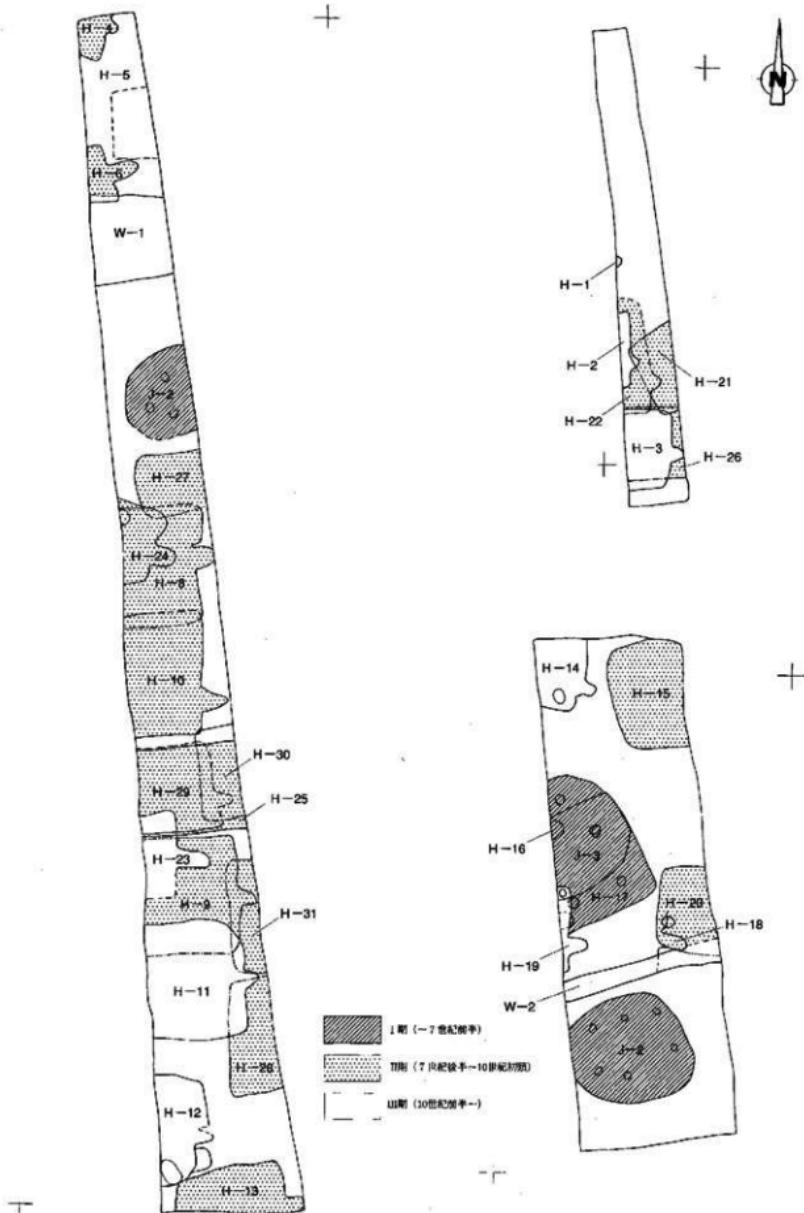


Fig.6 時期別の豊穴・住跡配置図

瓦について

本遺跡では出土した破片を含めた遺物総数の約1割にあたる1,264点もの瓦片が出土した。これらの瓦は堅穴住居の壁面や窓の際袖部・煙道部等の構築材、構架材として使われていた。このような使われ方をしていた当時の社会事情を考えると、(1)近接する瓦葺き建物の破損が進行する中で、それを堅穴住居内に持ち込み、転用する状況が一般化していたという考え方、(2)国分寺の補修・修理を担当する職人など瓦を簡単に持ち出せる立場の人たちがこれらの住居と深い関連をもっていたという考え方方が挙げられるのではないかろうか。

今回出土した瓦片のうちの16%にあたる208点の瓦に、凸面に繩叩きや格子叩きなどの叩き版で成形した痕跡が残っていた。その中でも、繩叩きが一番多く139点、次に平行叩き30点、正格子叩き20点、斜格子叩き16点、不定形格子叩き3点の順であった。このように多種多様の叩き具が出てきた背景を考えたとき、産地、窯業集団とのかかわりを推定する根据となろう。また、今回出土した瓦片のうち主なもの162点を実測し、観察表 (Tab. 8) に

Tab.11 瓦叩き具の種類別出土瓦片

凸面叩き具	繩叩き	正格子叩き	斜格子叩き	不定形格子叩き	平行叩き
瓦片の数	139 (38)	20 (4)	16 (3)	3 (1)	30 (10)

() 内は実測点数

掲載した。掲載した瓦種の内訳は、丸瓦65点（うち7点が玉縁式）、平瓦91点、軒平瓦4点、軒丸瓦2点である。瓦の種類と胎土の表 (Tab.12) からも分かるが粗粒の瓦が少なく、中粒から細粒の瓦が多いことが分かる。これらの瓦は側部や広・狭端部に面取りがされていて比較的丁寧に作られており、粘土の粒子が細かいことから国分寺創建期に使用された瓦が多いのではないかと考えられる。

次に、特徴のある文字瓦、軒丸瓦（鏡瓦）、軒平瓦（字瓦）について詳細を述べたい。

1. 文字瓦

今回の調査で文字や記号が書かれた瓦が16点出土した。瓦に文字が書かれている瓦部位について平瓦凸面に書かれていたのが14点、平瓦凹面に書かれていたのが3点であった。丸瓦からは文字は検出されなかった。また、瓦の文字の書かれ方について、印籠のような同じ定まった形のもの、「押印」（「刻印」）は、4点あり、籠か串のような道具を使って1点ごとに書かれたもの、「籠書き」（「刻字」）は、13点あった。これらの瓦に書かれた文字は、瓦に関わった地域や人々を明らかにするもので、当時の地域社会の様相を知る上でも非常に重要な意味をもっている。以下に述べたい。

①・③「山田」は押印による文字で、半瓦の凸面に書かれていた。①については「山田」という文字が3ヶ所押印してあるのを確認した。この「山田」は山田郡または山田郷を示す。この①・③と類似したものが上野国分寺跡、上野国分僧寺・尼寺中間地域、山王庵跡、上植木庵寺跡から出土している。②「五子」の鏡文字は平瓦の凸面に押印されていた。上野国分寺跡、上植木庵寺跡から出土した瓦には「山田五子」と押印されていたことから改めて確認したところ、この瓦片の端部にも「山田」の文字の一部が記されていた。今回検出された「山田」の文字は5つあったが、同じ「山田」の印でも①・③と②は明らかにその種類が違う。②は平面に彫り込んだだけのもの（線彫り・陰刻）であるのに対し、①と③は文字の部分を残して彫り上げた（面彫り・陽刻）、いわゆる現在の印鑑と同様な手法がとられている。⑤「里亡」は半瓦の凹面に籠書きされていた。「士」は「麻呂（万呂）」の略体であると「史跡上野国分寺跡」報告書に掲載されている。「里亡」は個人名である。⑥「面」は平瓦の

Tab.12 瓦の種類と胎土

瓦の種類/胎土	細粒	中粒	粗粒	合計
丸 玉縁式	4	2	1	7
瓦 行基草式	25	25	8	58
平 瓦	46	26	19	91
軒平瓦（字瓦）	1	3	0	4
軒丸瓦（鏡瓦）	0	1	1	2
合 計	76	57	29	262

注) 細粒 (0.9mm以下)、中粒 (1.0~1.9mm以下)、粗粒 (2.0mm以上)

凸面に押印されていた。他の押印に比べて線が細く明瞭であることから、金属の范であると考えられ、「史跡上野国分寺跡」報告書によれば製作過程で付けられた検印という説もある。^⑥と類似したものが上野国分寺跡、上野国分僧寺・尼寺中間地域、山王庵寺跡、上植木庵寺跡からも出土していて、^⑥の押印に「文字窓書き」が書き足された文字瓦も出土している。どんな意味で組み合わされているのか興味深い資料である。これ以外にも凸面に窓書きされた文字瓦^④・^⑤「下」、^⑩「伴」・¹¹「手」、¹²「石」、¹³「日」、¹⁴「し、？」、凸面に窓書きされた記号瓦^①「フ」、^⑦「十」、¹²「万」?、凹面に窓書きされた記号瓦^⑨「二」、¹⁵「十」が確認できた。(Tab. 13)

2. 軒平瓦

軒平瓦（字瓦）（瓦觀察表№68）の瓦当意匠は右偏行唐草文。主葉と支葉が各1本ずつで1組となり、比較的整った構成をもっている。それを1単位として10単位からなる、その内3単位確認できた。外区には連珠文が巡っているが、その内1つが認められた。内区との界線は1本で、周縁は無文である。瓦当部はやや厚くなっているだけで、無頸に近く、顎面幅は3.4cmである。凹面は斜め方向の削りである。凸面は縱方向の細かい削り後撫叩き目が残っている。胎土は中粒で砂粒を含む。焼成は良好で、硬質である。色調は褐灰色を呈する。「史跡上野国分寺跡」報告書によれば、この軒平瓦と類似したものが国分寺跡で出土した数が最も多い。国分寺創建期の瓦であると考えられている。

軒平瓦（字瓦）（瓦觀察表№69）の瓦当意匠は右偏行唐草文。左端部の破片のみのもの。主葉と支葉が各1本ずつで1組となり、比較的整った構成をもっている。それを1単位として10単位からなる、その内2単位を確認できた。左端には双葉状の支葉がつき、外区には連珠文のうち上外区、下外区各1個が残る。界線は1本で、周縁は無文である。顎の断面形は三角形になり、凹面は布目が残る。横骨痕は見られないことから、一枚作りによるものと考えられる。瓦当側は横方向、側面側は縱方向の削りである。凹面は縱ないし斜め方向の削りである。胎土は細粒で砂粒を含む。焼成は良好で、硬質である。色調は灰色を呈する。この軒平瓦も国分寺創建期の瓦であると考えられている。

軒平瓦（字瓦）（瓦觀察表№70）の瓦当意匠は三重頭文。瓦当部の上弦幅は27.8cm、下弦幅は28.4cm、中央幅は43cmである。顎の断面形は無頸に近く、顎面長は3.2cm、平瓦厚は2.6cmである。凹面は布目が残るが、殆ど撫で消している。側面側は縱方向の削りである。はっきりとした横骨痕は見られないことから、一枚作りによるものと思われる。凸面は縱方向の削りで、瓦当側のみ横方向の削りである。胎土は中粒で砂粒、白色粒子を含み、色調は灰色を呈している。焼成は良好である。この軒平瓦は国分寺創建期以降の瓦であると考えられている。

軒平瓦（字瓦）（瓦觀察表№162）の瓦当意匠は右偏行唐草文。主葉と支葉が各1本ずつで1組となり、比較的整った構成をもっている。それを1単位として10単位からなる、その内2単位と支葉1本確認できた。外区には連珠文のうち上外区、下外区各2個が認められた。内区との界線は1本で、周縁は無文である。瓦当部はやや厚くなっているだけで、無頸に近く、顎面幅は3.2cm中央幅4.5cm、平瓦厚は3.0cmである。凹面は布目擦り消し後横方向の削りである。凸面は瓦側横方向、側面側縱方向の削りである。胎土は中粒で砂粒を含む。焼成は良好で、硬質である。色調はにぶい黄橙色を呈する。この軒平瓦も国分寺創建期の瓦であると考えられている。

3. 軒丸瓦

軒丸瓦（鏡瓦）（瓦觀察表№140）の瓦当意匠は單弁四葉蓮華文。子葉のないやや長い蓮弁をもつ。文様はすべて陸縁によって表され、直径は推定15.6cm、内区径は推定9.4cmである。蓮弁は膨らみが少なく橢花状であり、それぞれの形・大きさが違う。蓮弁はT字形である。界線は2本で、周縁幅は1.8cmでやや幅の広い無文である。瓦当裏面には、無紋りの布目が付き、下半部には凸帯が巡ることから、絞り目がない布目がつく技法であると思われる。胎土は粗粒で砂粒、白色粒子を含む。色調は灰色を呈する。焼成は良好である。この軒丸瓦は国分寺創建期以降の瓦であると考えられている。

Tab.13 文字・記号瓦

番号	枳文	種類区分	瓦種部位	出土位置	備考	観察表
①	山田 丰	文字瓦、押印 記号瓦、箋書き	平瓦凸面	H-8	瓦1個体に3ヶ所以上に押印。山田郡又は山田郷を示す。上野国分寺跡、上野国分僧寺・尼寺中間地域、山王庵寺跡、上植木庵寺跡からも出土。	7
②	五子 倭文字	文字瓦、押印	平瓦凸面	H-8	鏡文字。「山田五子」の枳文が、上野国分寺跡や上植木庵寺跡から出土。瓦片端部に「山田」文字一部を確認。	8
③	山田	文字瓦、押印	平瓦凸面	H-9	①と同窓	23
④	下	文字瓦、箋書き	平瓦凸面	H-10	意味は不明。細い線で表現。	27
⑤	里亡	文字瓦、箋書き	平瓦凹面	H-10	「亡」は「万呂(麻呂)」の略体か。上野国分寺跡から平瓦の凸面に「里麻呂」と個人名を墨書きされていたものが出土。創建期瓦か。	28
⑥	囲	文字瓦、押印	平瓦凸面	H-10	□の中に「囲」を書く。上野国分寺跡、上野国分僧寺・尼寺中間地域、山王庵寺跡、上植木庵寺跡からも出土。他の押印に比べて線が細くて明瞭であることから、金属の範であると考えられる。吉井・藤岡窯群で作製か。製作過程で付けられる検印か。	29
⑦	ト	記号瓦、箋書き	平瓦凸面	H-10	上野国分寺跡、上野国分僧寺・尼寺中間地域、山王庵寺跡、上植木庵寺跡、元総社小見日蓮跡からも出土。非常に細い線で表現。	30
⑧	干	文字瓦、箋書き	平瓦凸面	H-10	意味は不明。太い線で表現。	31
⑨	二	記号瓦、箋書き	平瓦凹面	H-10	上野国分寺跡、上野国分僧寺・尼寺中間地域、上植木庵寺跡、台之原庵寺跡からも出土。國分寺創建期瓦か。太い線で表現。	32
⑩	伴一	文字瓦、箋書き	平瓦凸面	H-11	国分寺に関わった「大伴」のように氏族名か。	92
⑪	手	文字瓦、箋書き	平瓦凸面	H-11	上野国分寺跡、上野国分僧寺・尼寺中間地域、山王庵寺跡からも出土。	93
⑫	万?	記号瓦、箋書き	平瓦凸面	H-11	判読不能。	94
⑬	石	文字瓦、箋書き	平瓦凸面	H-12	上野国分寺跡からも出土。細い線で表現。	124
⑭	日	文字瓦、箋書き	平瓦凸面	H-25	上野国分寺跡、上野国分僧寺・尼寺中間地域からも出土。細い線で表現。	154
⑮	十	記号瓦、箋書き	平瓦凹面	遺構外	上野国分寺跡、上野国分僧寺・尼寺中間地域、山王庵寺跡、上植木庵寺跡、元総社小見日蓮跡からも出土。太い線で表現。	158
⑯	..?	文字瓦、箋書き	平瓦凸面	遺構外	判読不能。文字の可能性がある。	159

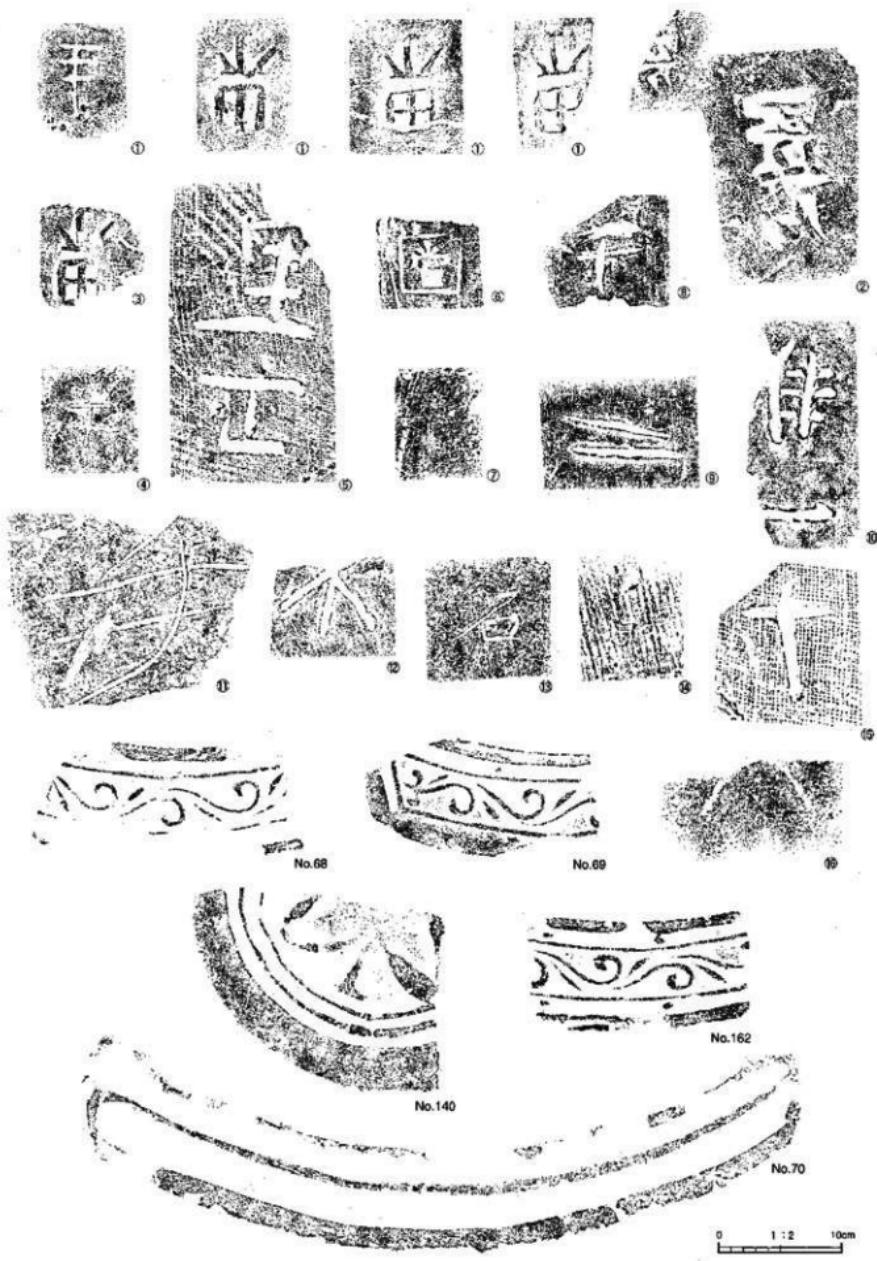


Fig.7 文字瓦、記号瓦、瓦当文様

〈引用参考文献〉

- 前橋市史編さん委員会編『前橋市史』 第一巻 前橋市 1971年
- 松島栄治・相沢貞順他4名編『山王庵寺跡第3次発掘調査概報』 前橋市教育委員会 1977年
- 松島栄治・相沢貞順他4名編『山王庵寺跡第4次発掘調査概報』 前橋市教育委員会 1978年
- 松島栄治・相沢貞順他4名編『山王庵寺跡第5次発掘調査概報』 前橋文化財研究会 1979年
- 高沢敏弘・飯塚誠・山口正美編『山王庵寺跡第6次発掘調査報告書』 前橋文化財研究会 1980年
- 松本浩一・福田紀雄他3名編『山王庵寺跡第7次発掘調査概報』 前橋市教育委員会 1982年
- 岸田治男編『元總社明神遺跡Ⅰ』 前橋市教育委員会 1982年
- 岸山治男・鶴山瑞穂編『元總社明神遺跡Ⅱ』 前橋市教育委員会 1983年
- 唐澤保之・井野修二他4名編『草作遺跡』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1985年
- 半田勝巳他2名編『台之原庵寺跡Ⅲ』 群馬県新田郡藤塚本町教育委員会 1985年
- 木暮誠・町田信之・中野覚・加部二生編『元總社明神遺跡Ⅲ・Ⅳ』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1986年
- 原田和博・加部二生編『元總社明神遺跡Ⅴ』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1986年
- 群馬県埋蔵文化財調査事業団編『上野国分僧寺・尼寺中間地域遺跡』 群馬県教育委員会 1986年
- 山武考古学研究所編『雨泉横南遺跡』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1986年
- スナガ環境測設株式会社編『寺田遺跡』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1986年
- 駒倉秀一・加部二生編『元總社明神遺跡Ⅵ』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1988年
- 群馬県教育委員会事務局文化財保護課編『史跡上野国分寺跡』 群馬県教育委員会 1988年
- 林喜久夫・前原照了・井野誠一編『芳賀園地遺跡群』 第2巻 前橋市教育委員会 1988年
- 駒倉秀一・鈴木雅浩編『元總社明神遺跡Ⅶ』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1989年
- 前原豊・井上敏夫編『元總社明神遺跡Ⅷ』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1990年
- 群馬県埋蔵文化財調査事業団編『上野国分僧寺・尼寺中間地域遺跡(4)』 群馬県教育委員会 1990年
- 群馬県埋蔵文化財調査事業団編『鳥羽造跡L・M・N・O』 群馬県教育委員会 1990年
- 井上敏夫・鈴木雅浩編『元總社明神遺跡Ⅸ』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1991年
- 群馬県史編さん委員会編『群馬県史』 通史編2 群馬県 1991年
- 鈴木雅浩・狩野吉弘編『元總社明神遺跡Ⅹ』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1992年
- 須長泰一・早川隆弘編『上植木庵寺・平成2・3年度発掘調査概報』 伊勢崎市教育委員会 1992年
- 駒倉秀一・加部二生編『元總社明神遺跡Ⅺ』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1993年
- 群馬県埋蔵文化財調査事業団編『元總社寺山遺跡』 群馬県教育委員会 1993年
- スナガ環境測設株式会社編『元總社明神遺跡Ⅻ』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1994年
- 群馬県埋蔵文化財調査事業団編『元總社寺田遺跡Ⅲ』 群馬県教育委員会 1996年
- 戸所慎策・古屋秀登編『元總社明神遺跡ⅩⅢ』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1997年
- 齊藤仁志・吉田聖二編『上野国分寺跡』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1997年
- 山武考古学研究所編『總社閑泉明神北遺跡』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1999年
- 鈴木雅浩・高橋一彦編『元總社宅地遺跡・上野国分尼寺守城確認調査』
- 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2000年
- 長谷川一郎・折原洋一・湯原勝美編『元總社小兒遺跡』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2000年
- 齊木一敏・近藤雅順編『總社甲福荷塚大道西遺跡・總社閑泉明神北II遺跡・總社甲福荷塚大道西II遺跡』
- 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2001年
- 長谷川一郎・土生朗治編『元總社小見内III遺跡』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2001年
- 齊木一敏・高坂麻子編『元總社小見内IV遺跡』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2002年
- 高橋一彦・近藤嘉義編『總社甲福荷塚大道西III遺跡・總社閑泉明神北III遺跡』
- 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2002年
- 齊木一敏・土生朗治・松川由之編『元總社小見II遺跡』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2002年
- 齊木一敏・長谷川一郎・土生朗治・松川由之編『元總社小見III遺跡・元總社草作V遺跡』 2002年

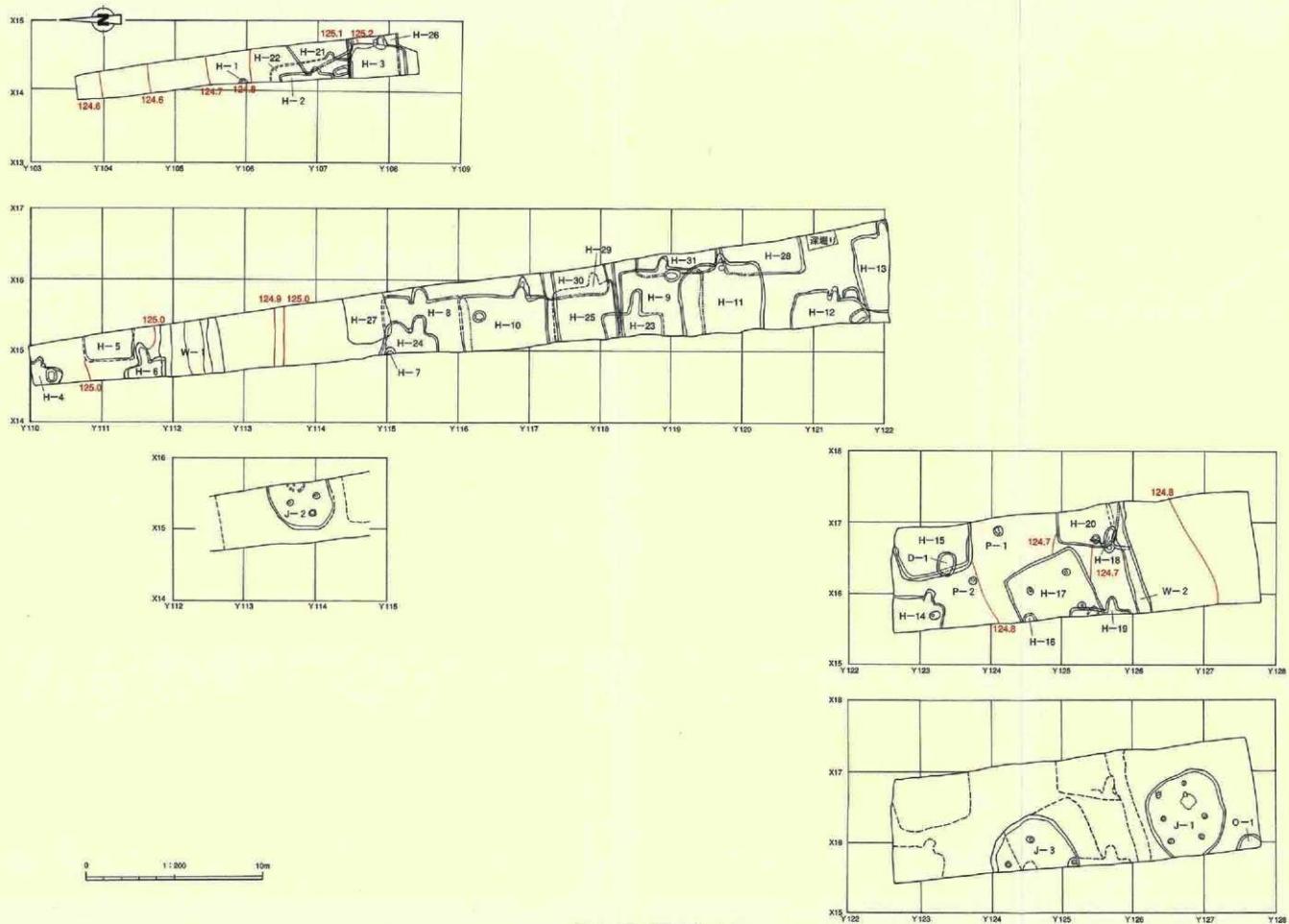


Fig. 8 元覺寺小見IV遺跡全體図

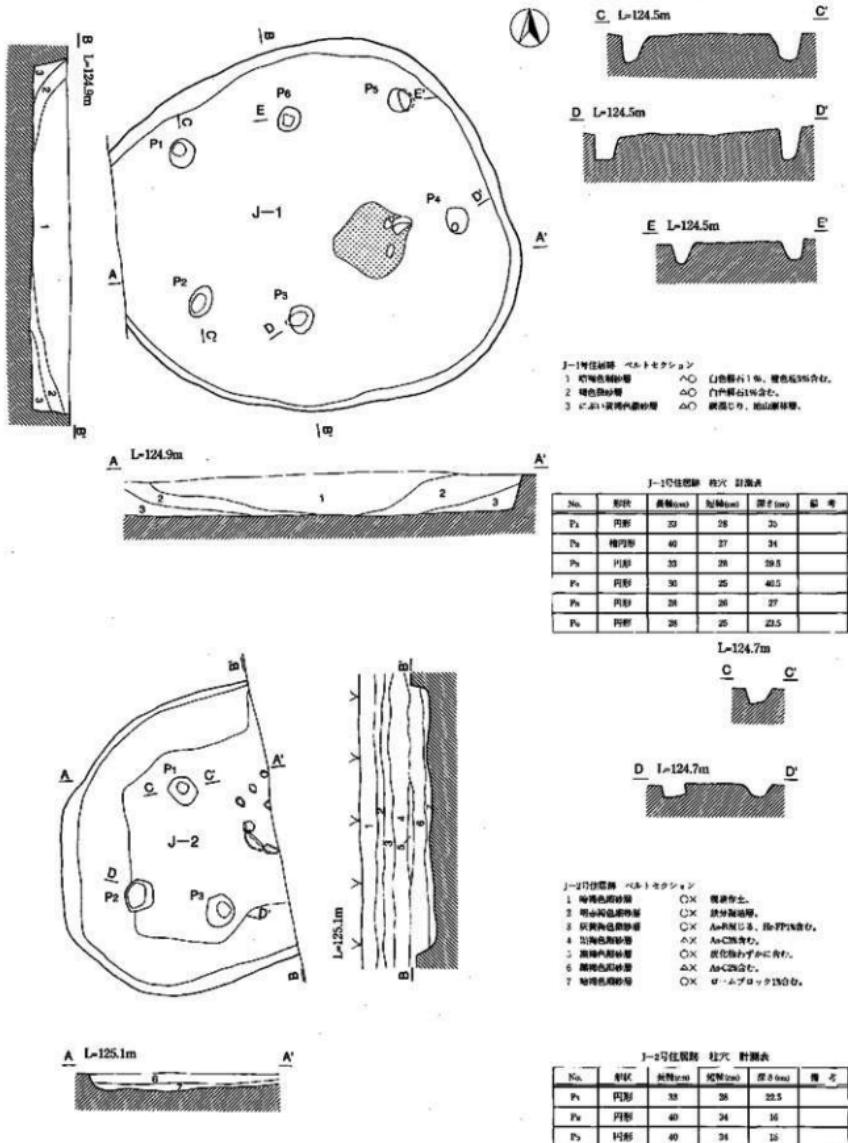


Fig.9 J-1・2号柱状図

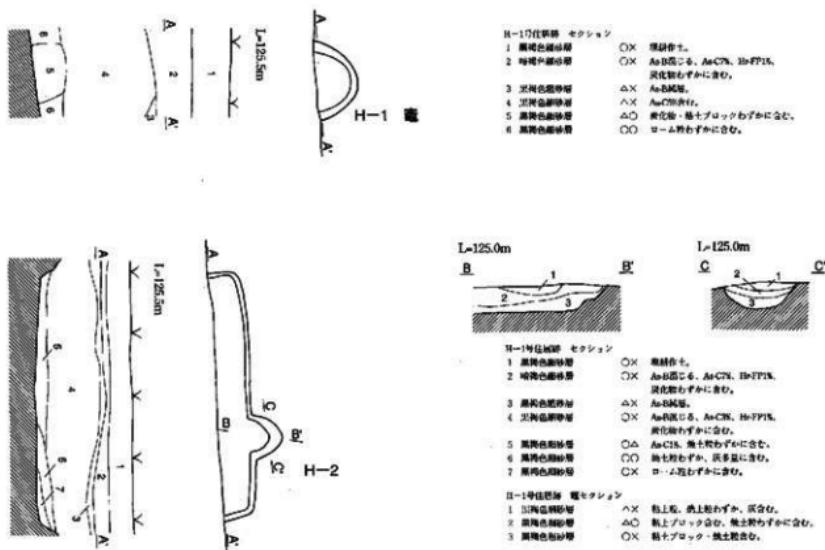
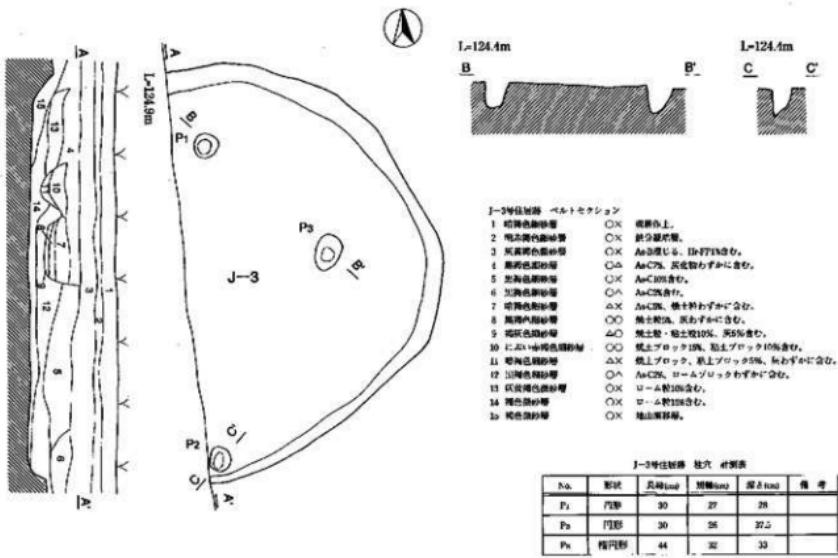


Fig. 10 J-3·H-1·2号住居跡

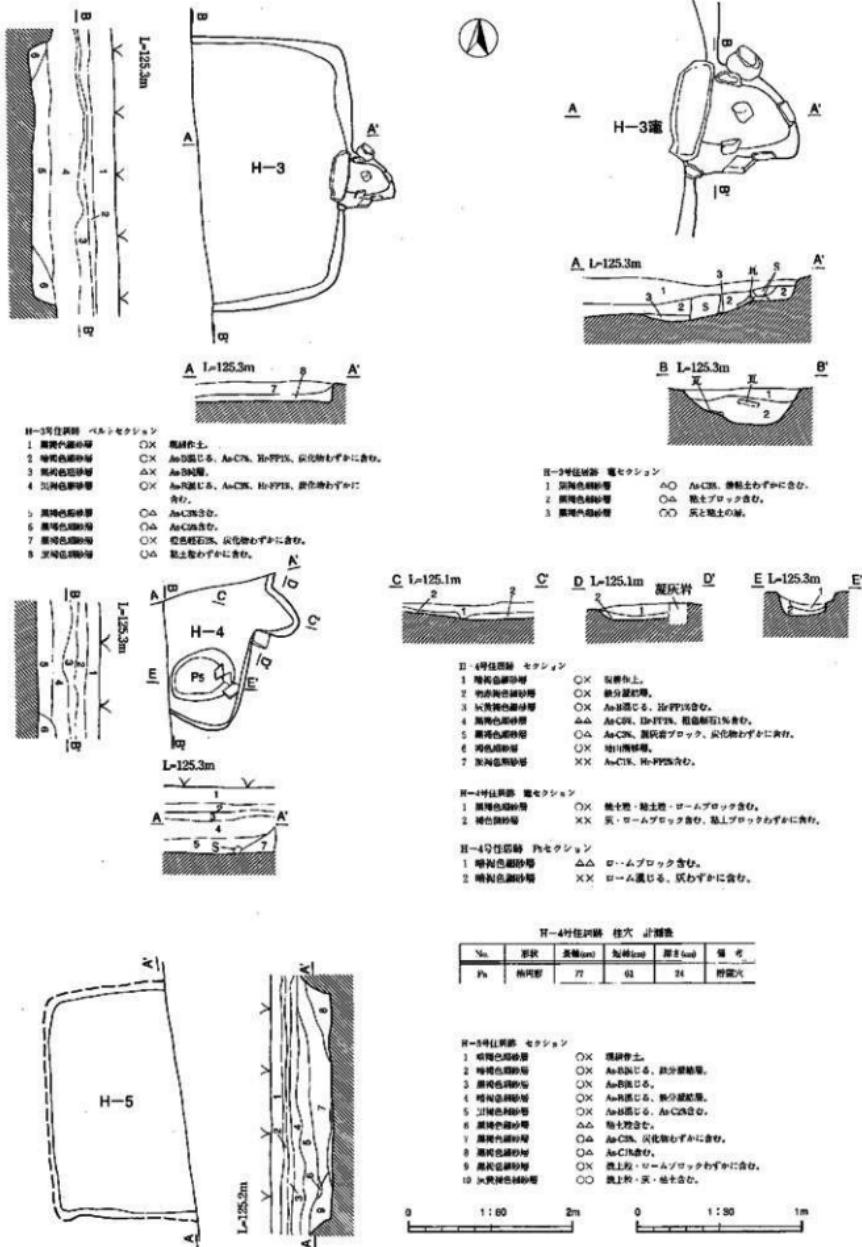


Fig.11 H-3～5号住居跡

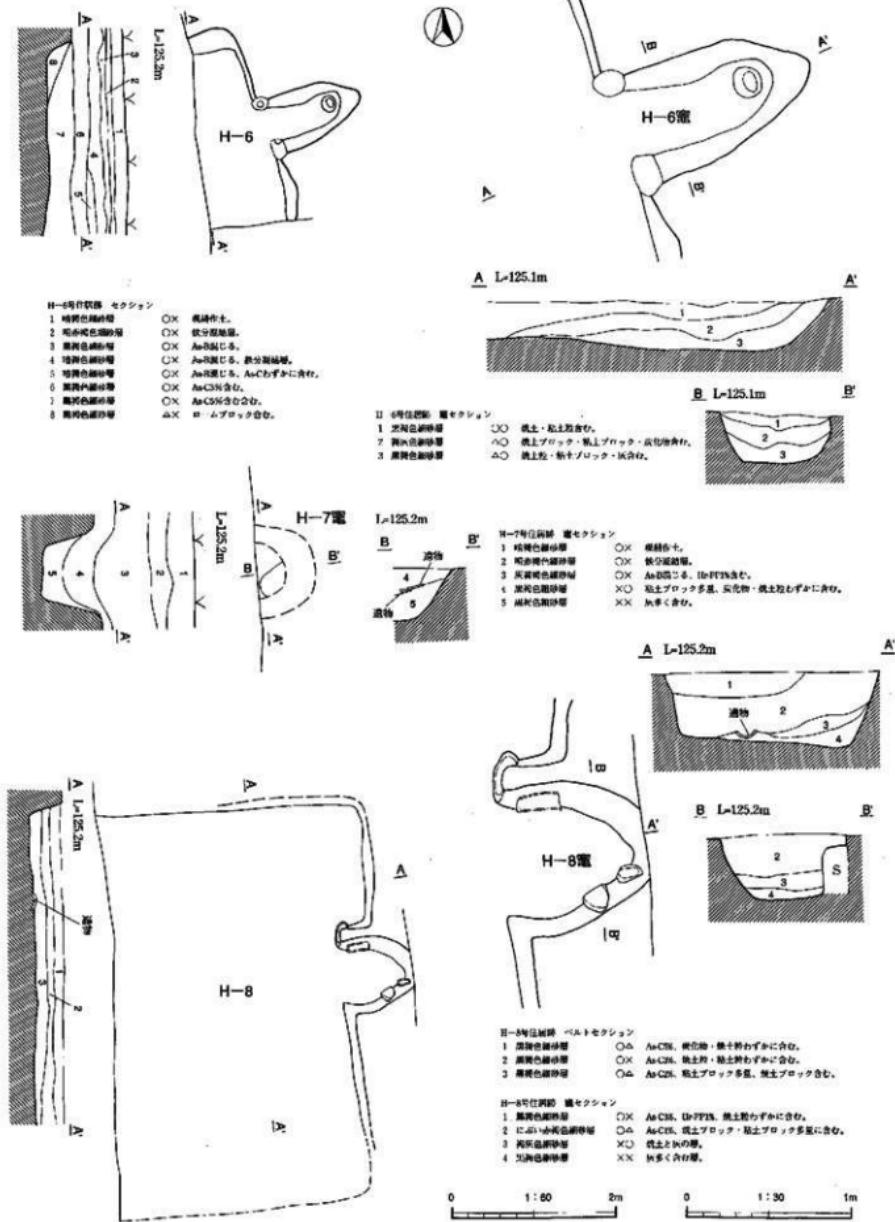


Fig.12 H-6～8号住居跡

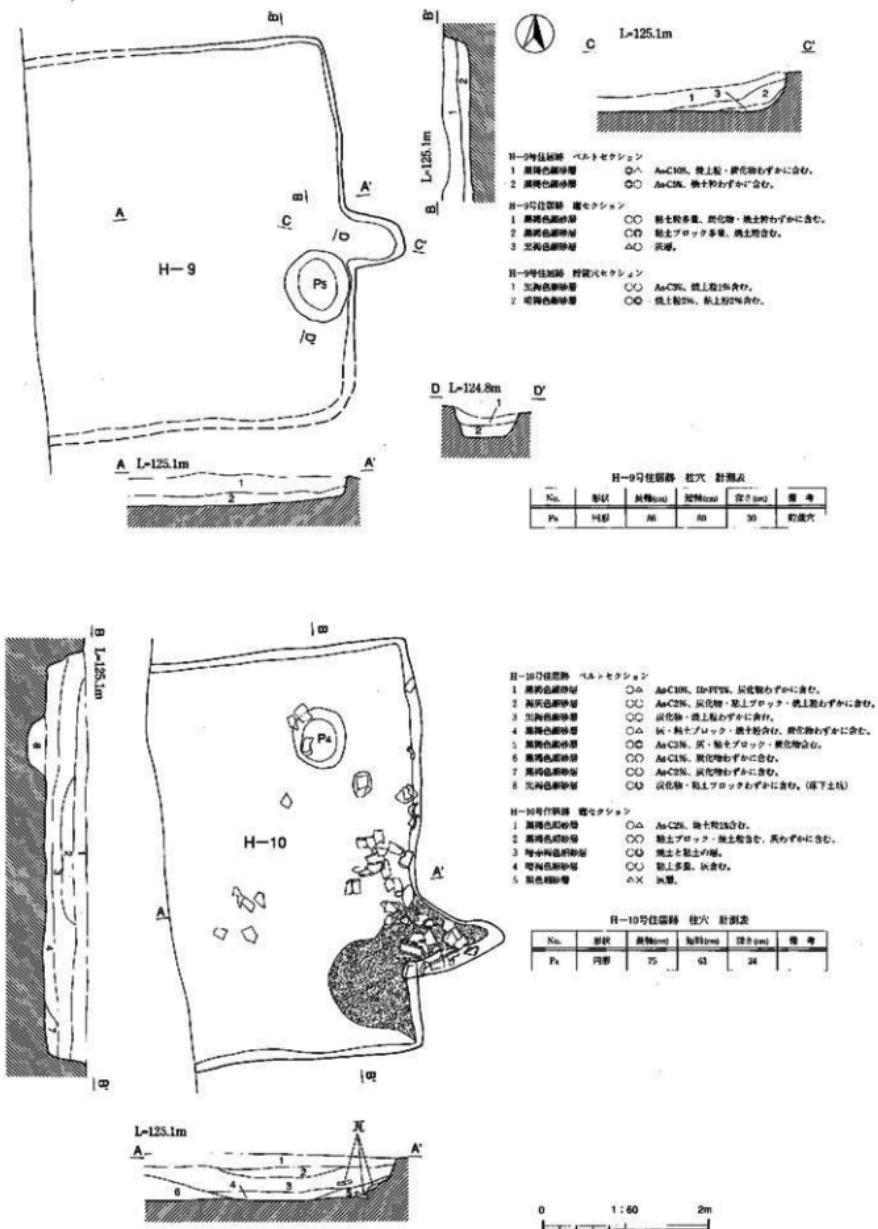
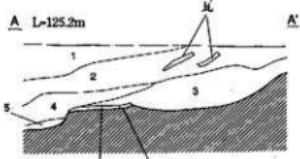
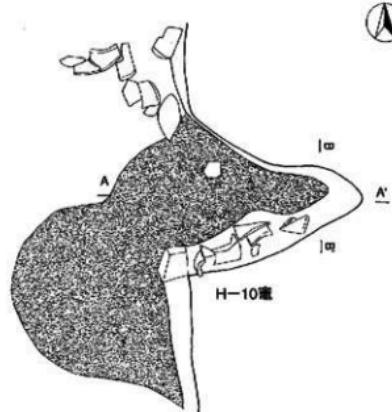
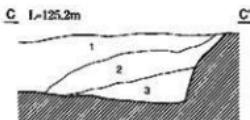
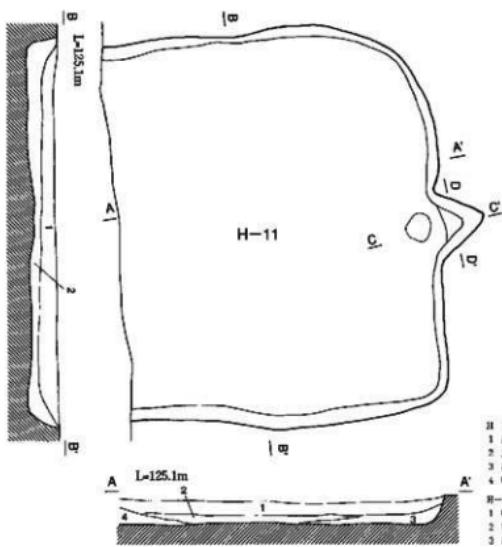


Fig.13 H-9・10号住宅路



H-10号住居跡 横セクション

- | | |
|----------|--------------------------|
| 1 黄褐色砂質層 | ○△ As-C% |
| 2 黑褐色砂質層 | ○○ 地上ゾリット・熱土多合む、灰わざかに含む。 |
| 3 岩灰色砂質層 | ○○ 热土とセメントの層。 |
| 4 岩灰色砂質層 | ○○ 热土多量、灰合む。 |
| 5 黑褐色砂質層 | ×△ 灰層。 |



H-11号住居跡 ベルトセクション

- | | |
|----------|------------------|
| 1 黄褐色砂質層 | ○△ As-C% |
| 2 黑褐色砂質層 | ○○ 热土層・熱土わざかに含む。 |
| 3 黑褐色砂質層 | ○○ As-C% |
| 4 岩灰色砂質層 | ○○ As-C% |
-
- | | |
|----------|---------------------|
| 1 黄褐色砂質層 | ○○ 热土わざかに含む。 |
| 2 黑褐色砂質層 | ○○ 热土層含む、灰わざかに含む。 |
| 3 黑褐色砂質層 | △○ 灰多く含む、热土ブロックに含む。 |

0 1:50 1m

0 1:60 2m

Fig.14 H-10・11号住居跡

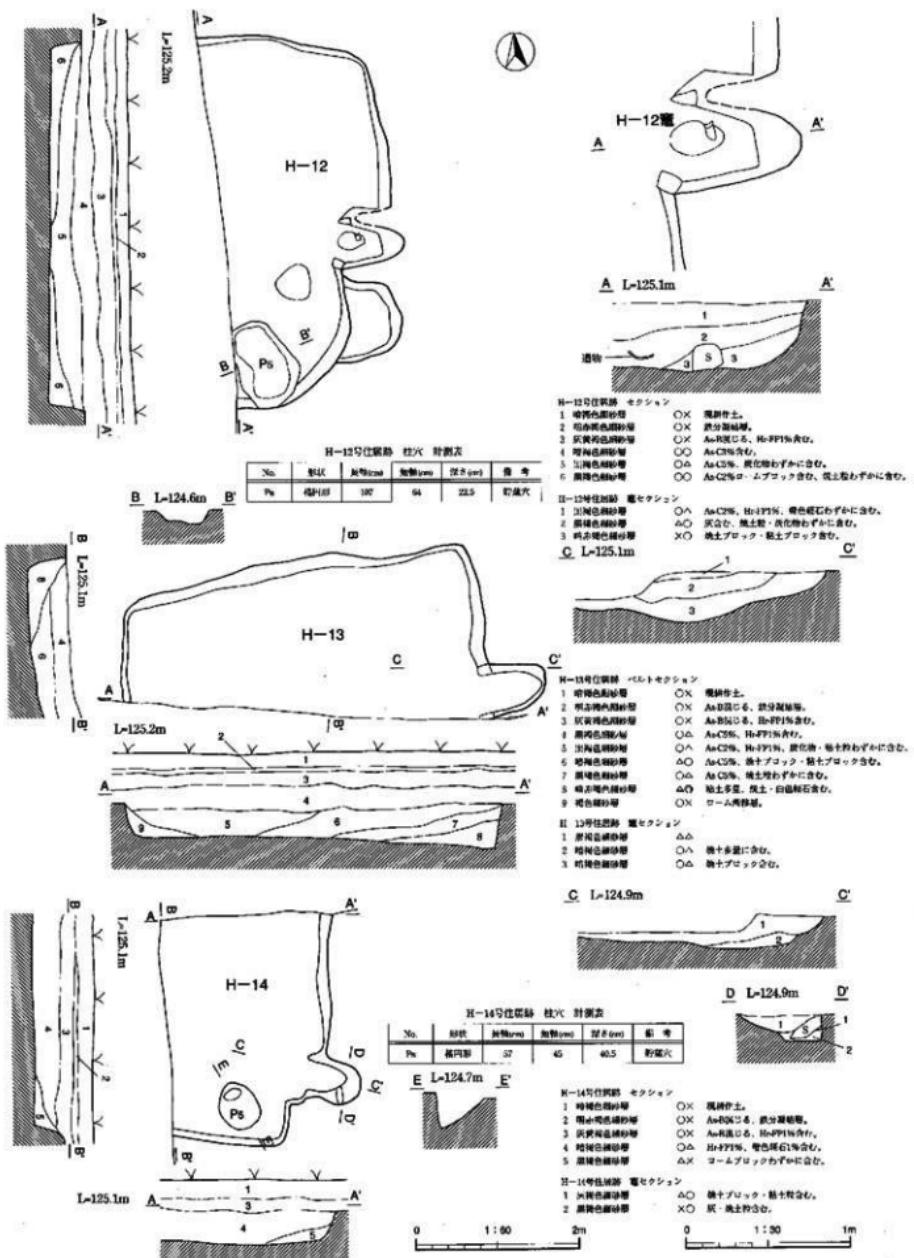


Fig. 15 H-12~14号住居跡

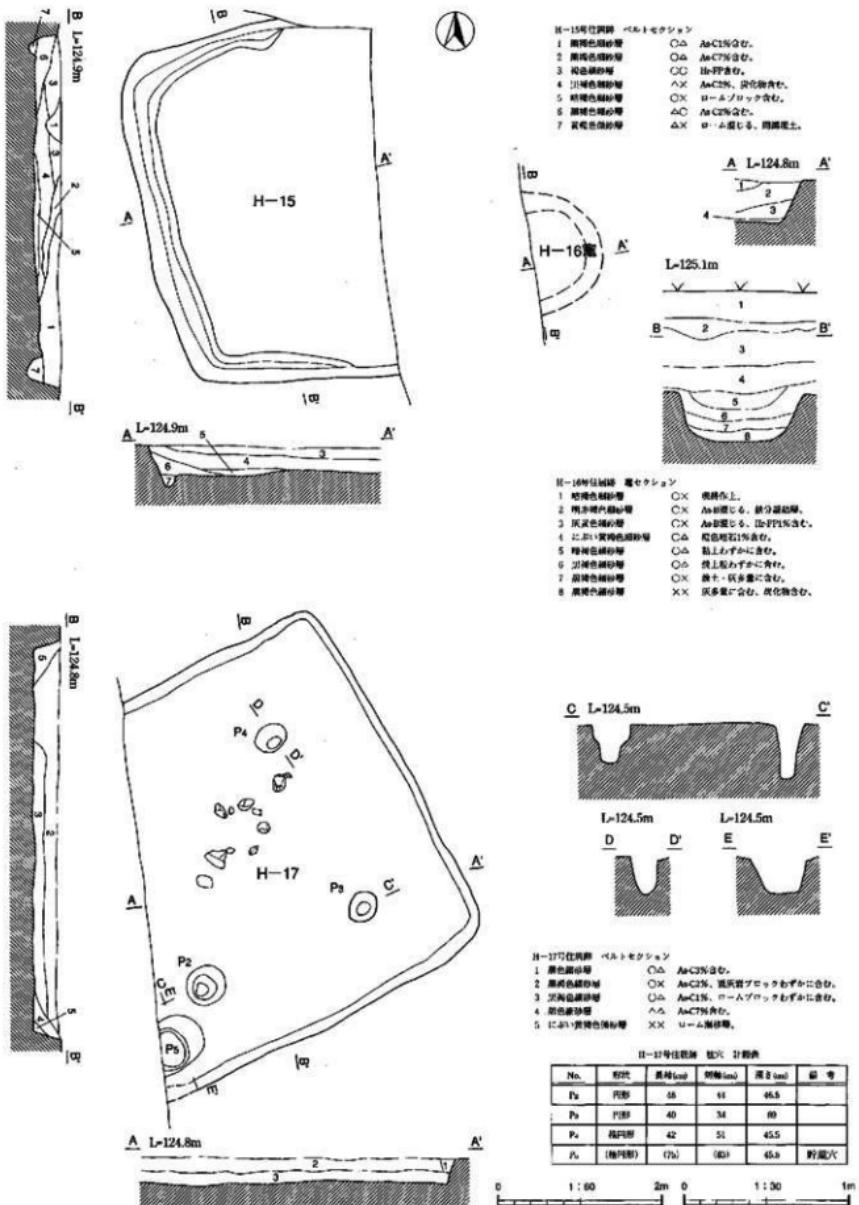


Fig. 16 H-15~17号住居跡

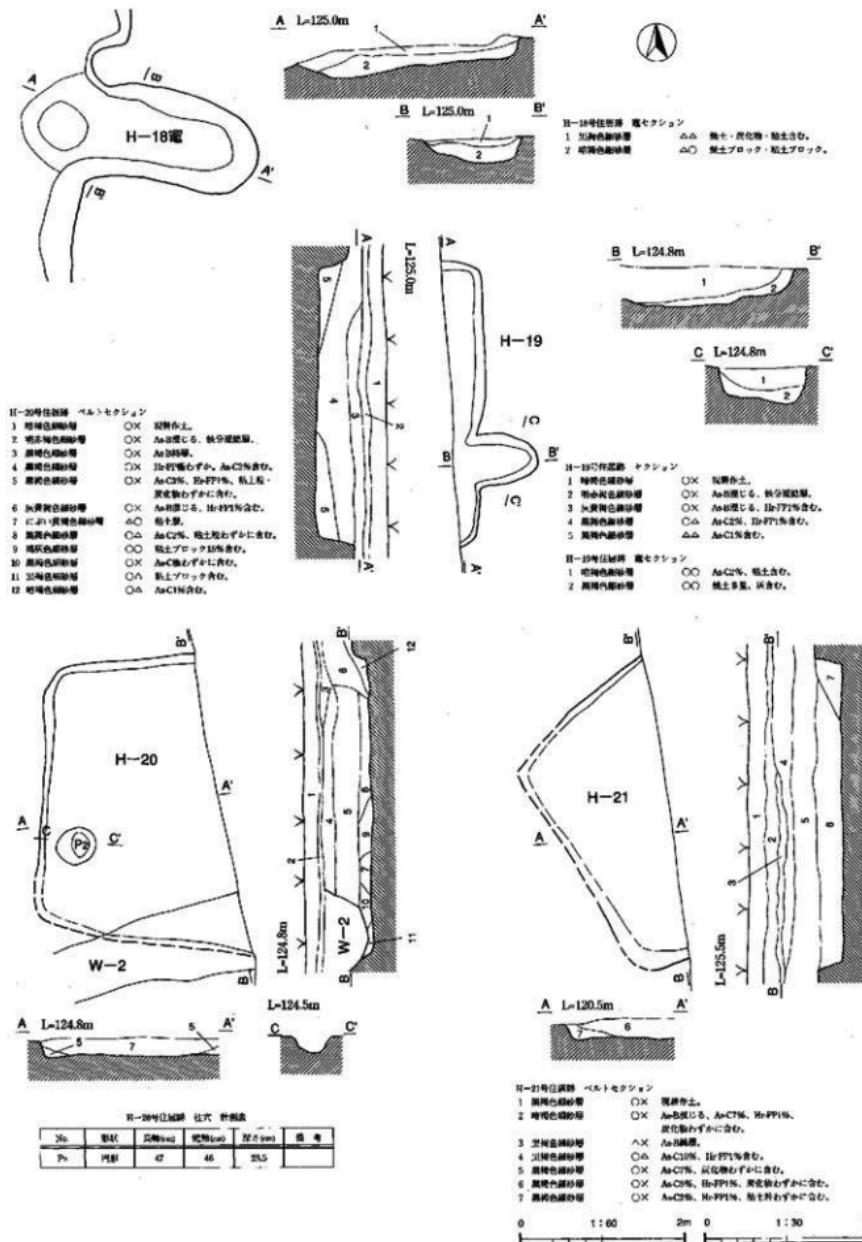


Fig.17 H-18~21号住居跡

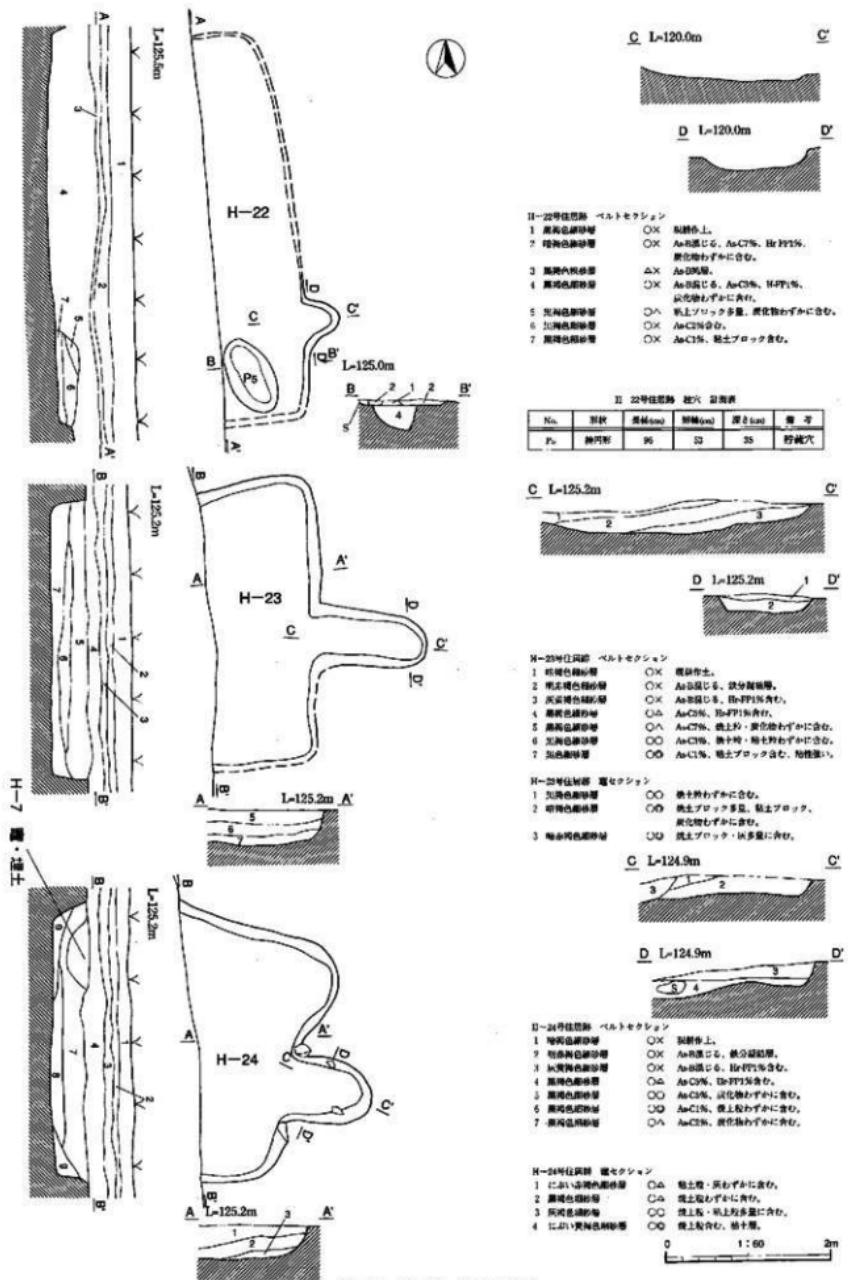


Fig.18 H-22~24号住居跡

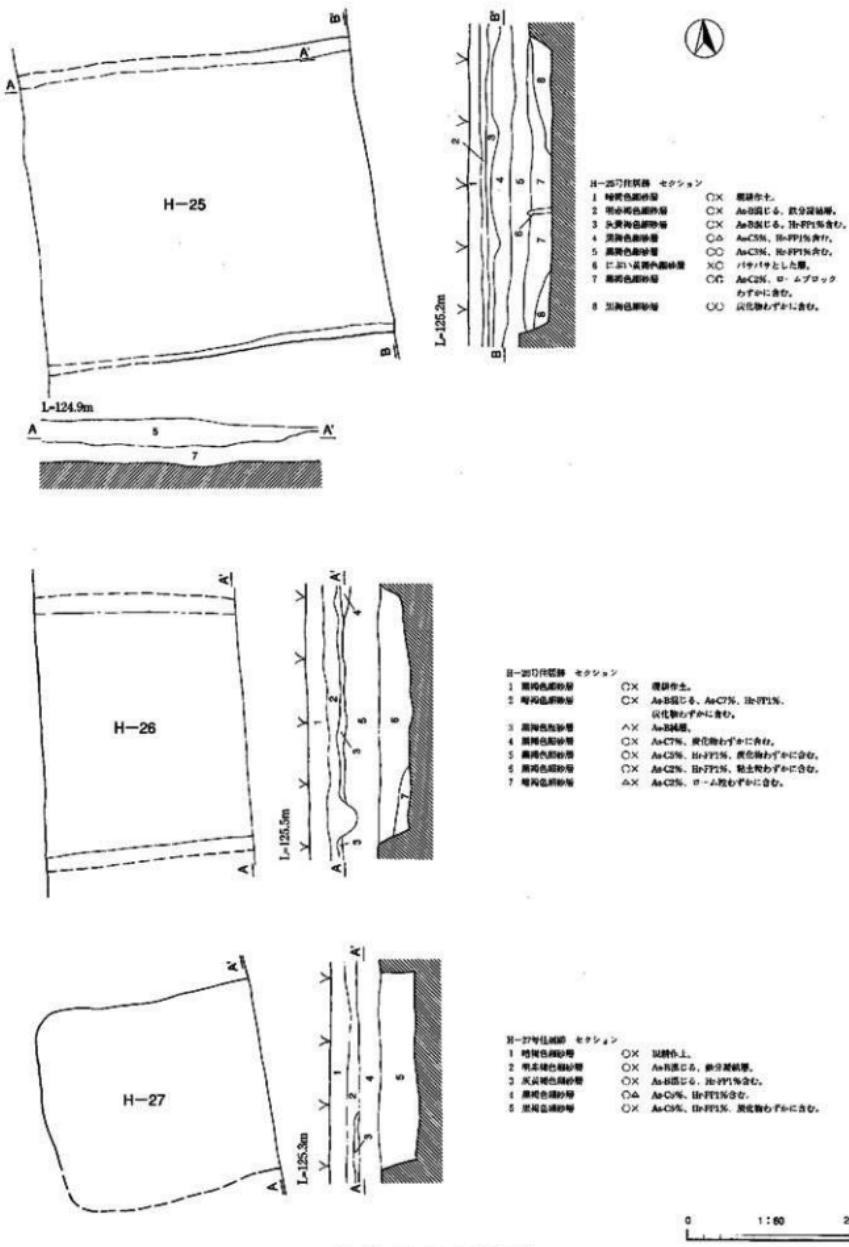
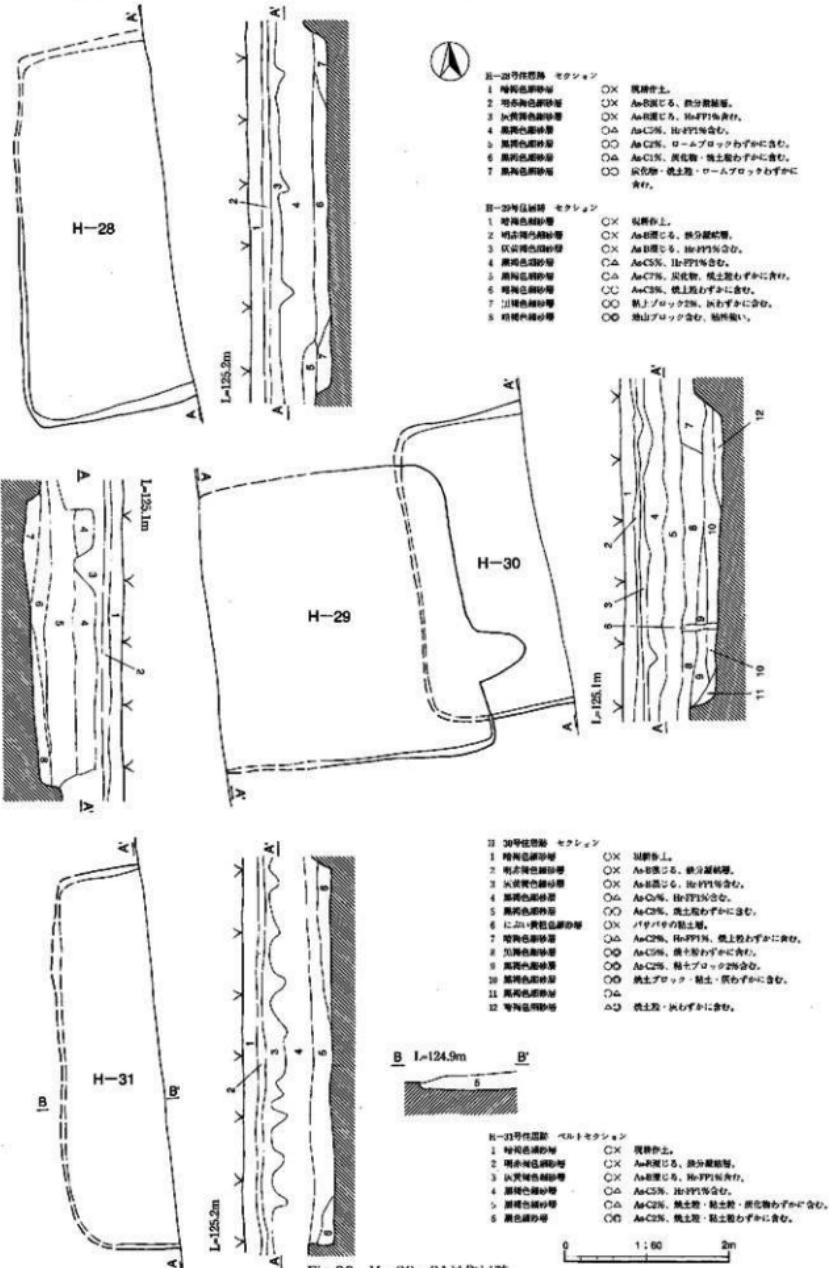


Fig. 19 H-25~27号住居跡



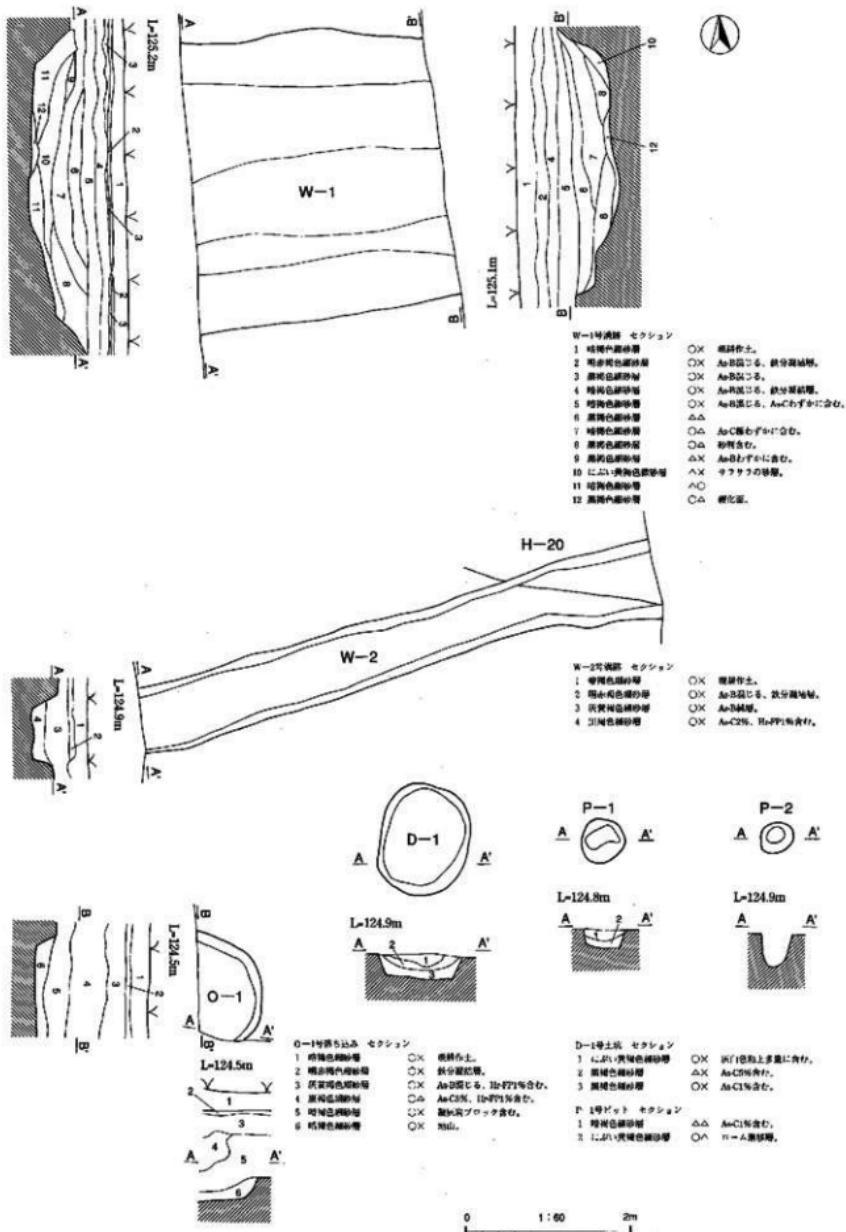


Fig.21 W-1・2号溝跡、O-1号密ち込み、D-1号土坑、P-1・2号ピット

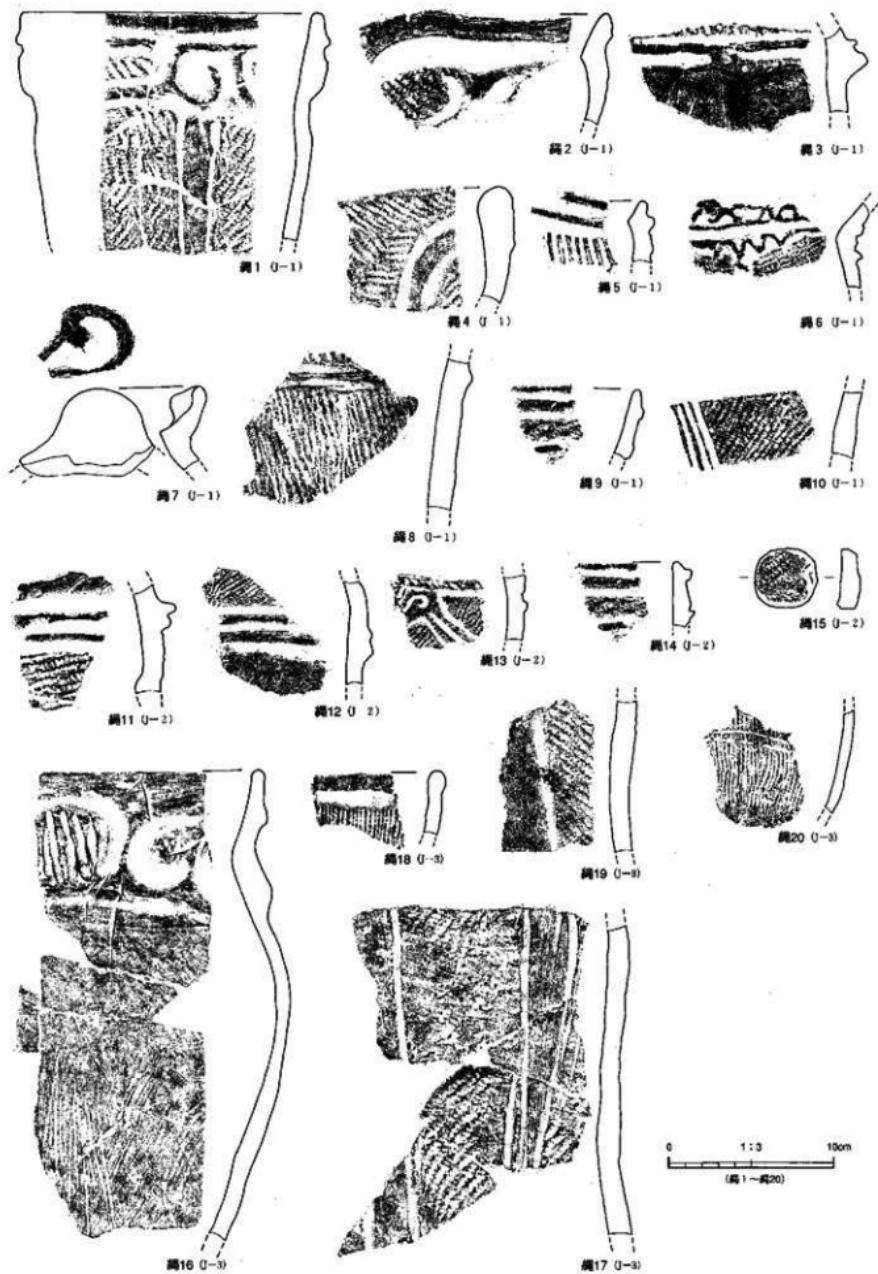
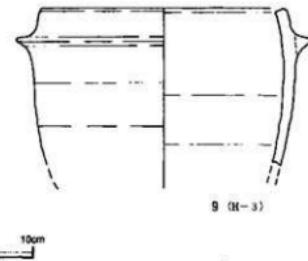
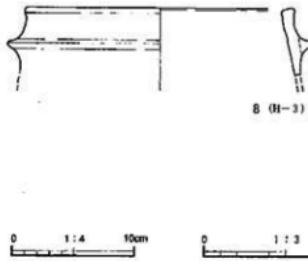
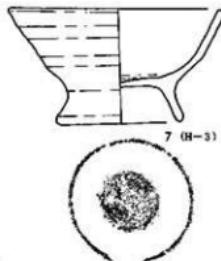
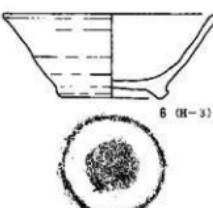
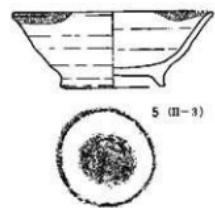
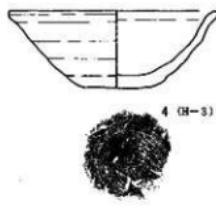
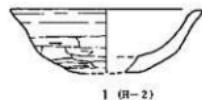
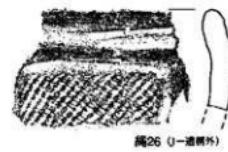
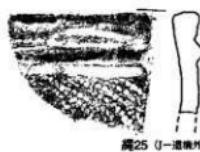
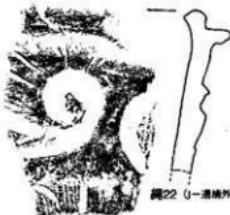


Fig.22 J-1 ~ 3号住居跡出土繩文土器



0 1:4 10cm
(8-9)

0 1:3 10cm
(圖21—圖26、1—7)

Fig.23 遷橋外出土繩文土器、H-2～3号住居跡出土土器

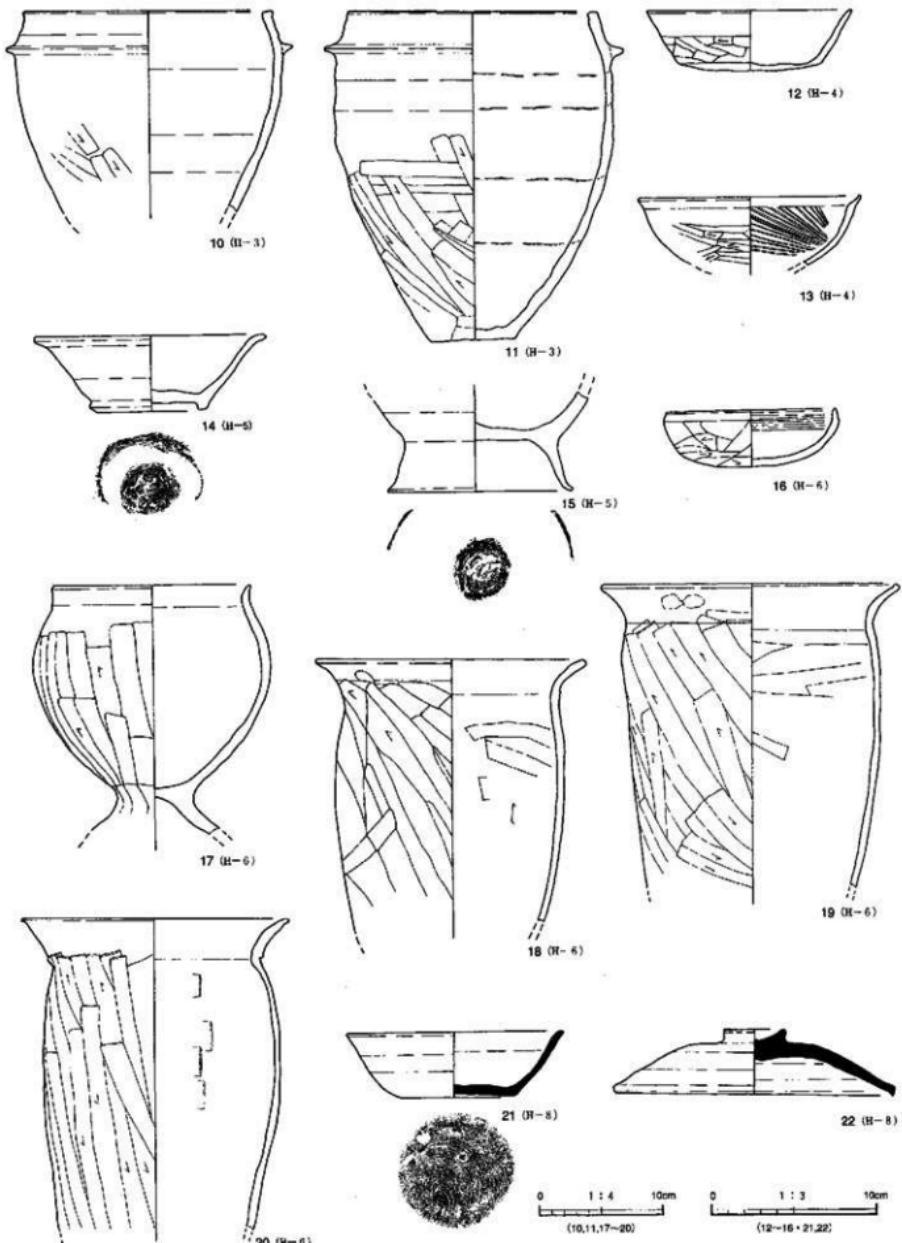


Fig. 24 H-3 ~ 8号性后露出上部

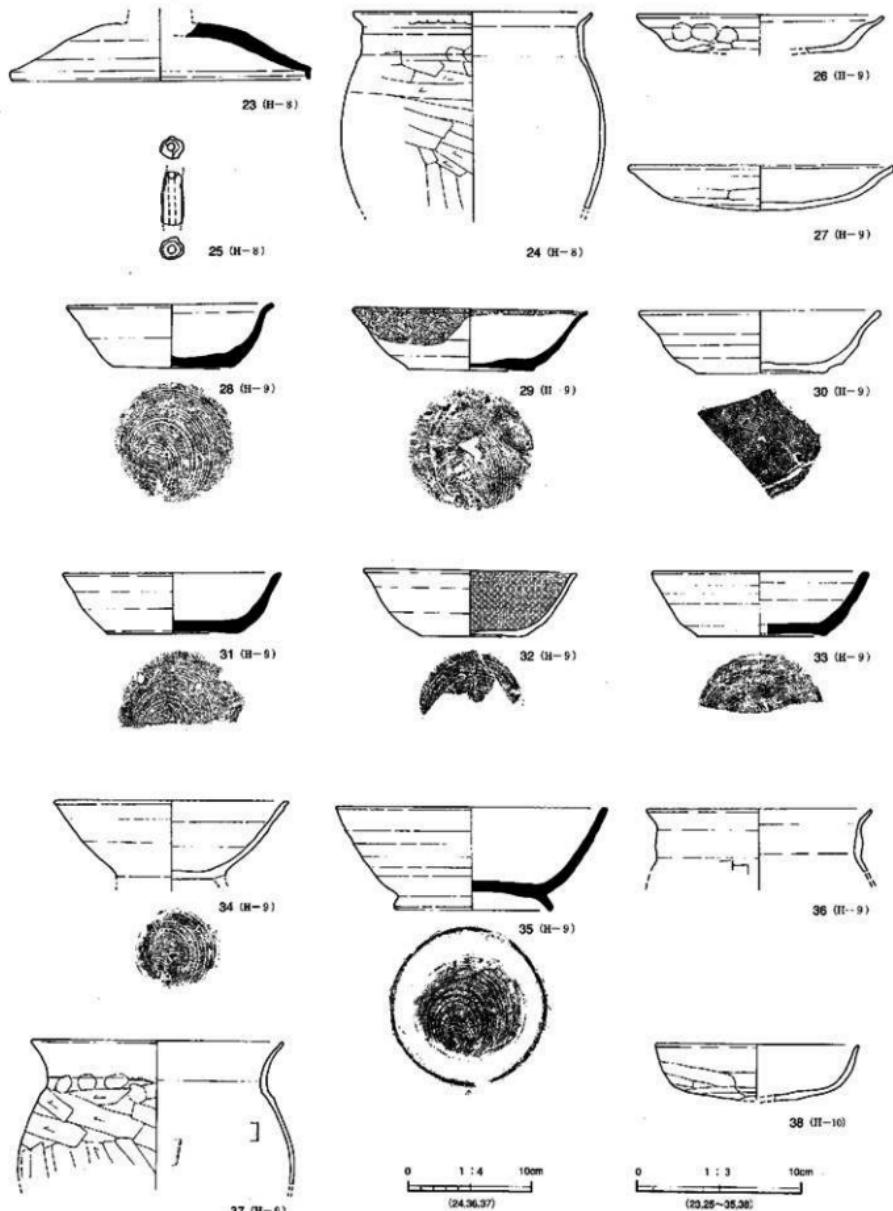


Fig.25 H-8・9号住居跡出土土器、H-8号住居山上土塊

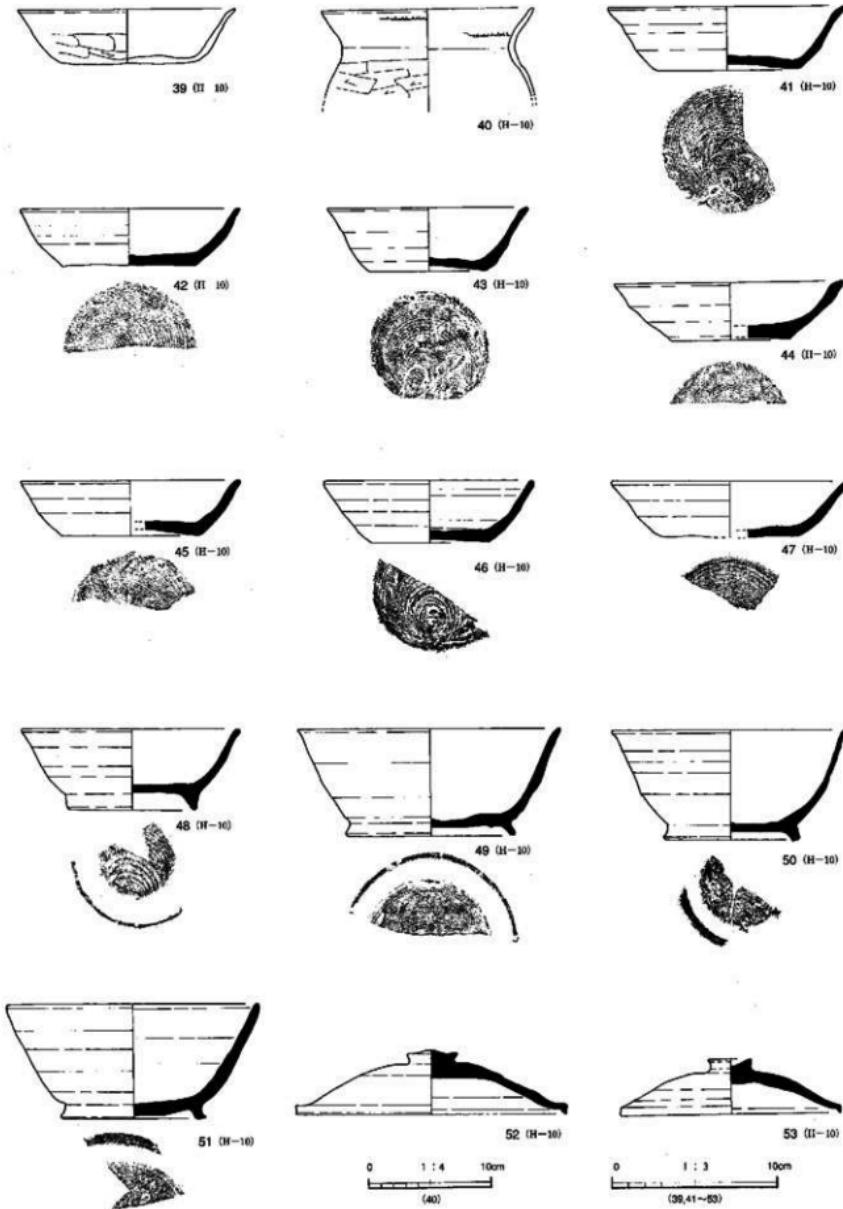


Fig.26 II-10号住居跡出土上器

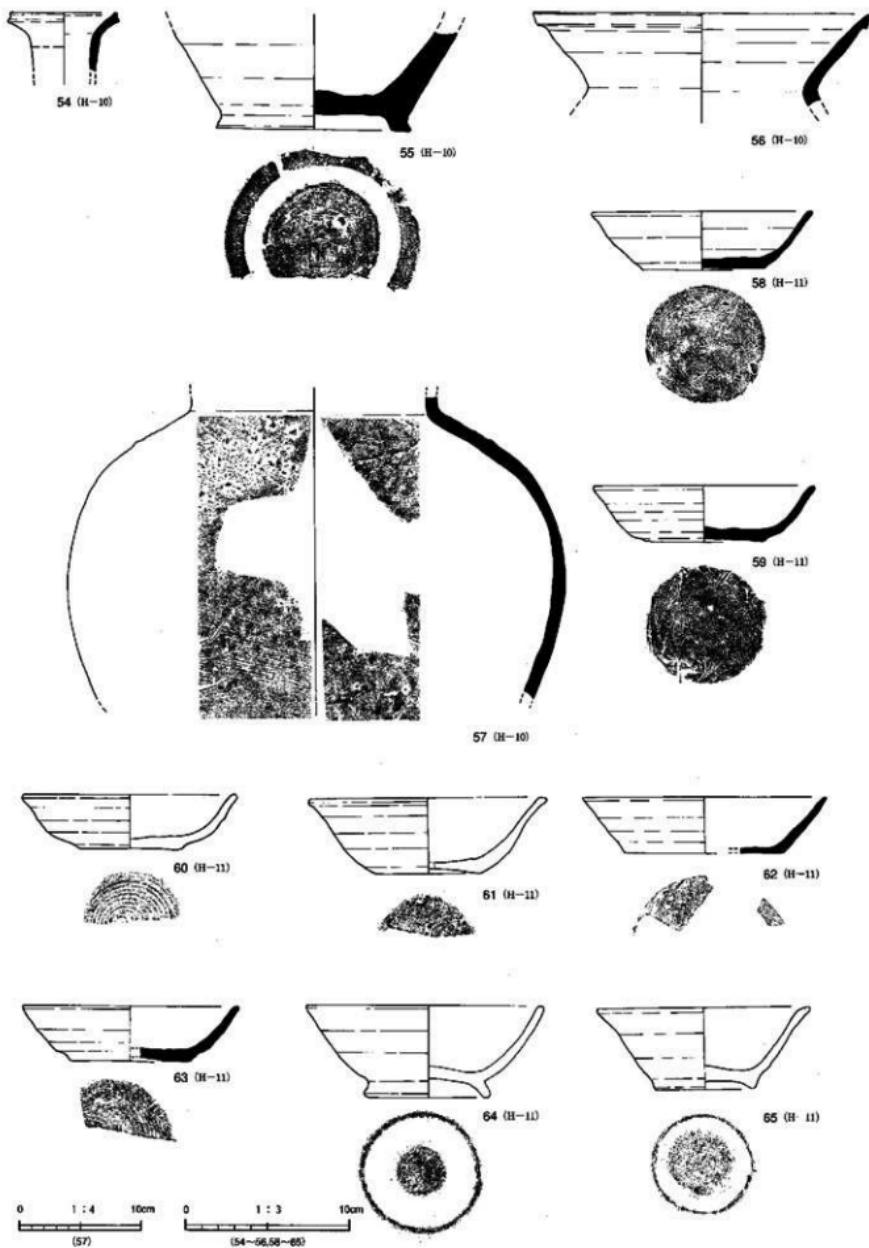
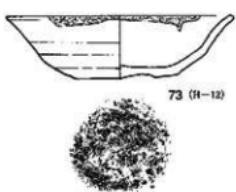
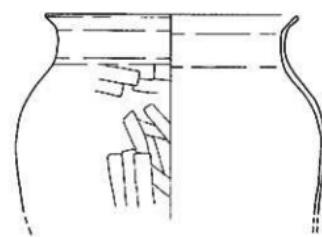
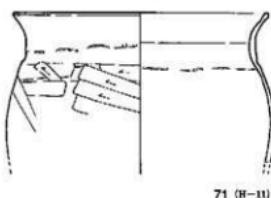
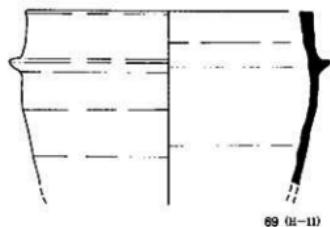
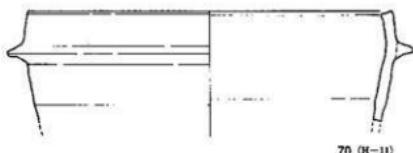
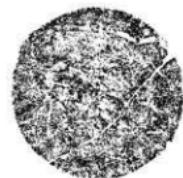
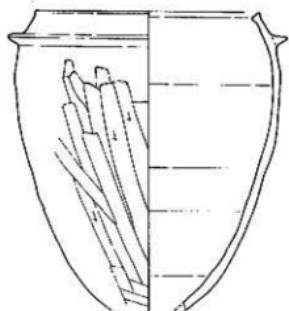
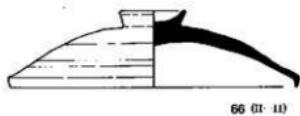


Fig.27 H-10·11号住居跡出土土器



0 1 : 4 10cm
(67-72)

0 1 : 3 10cm
(66,73,74)

Fig.28 H-11・12号住居跡出土土器

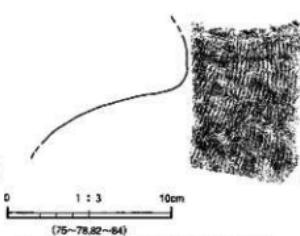
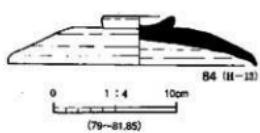
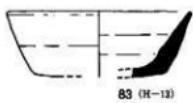
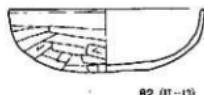
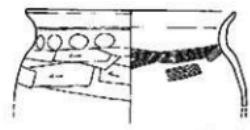
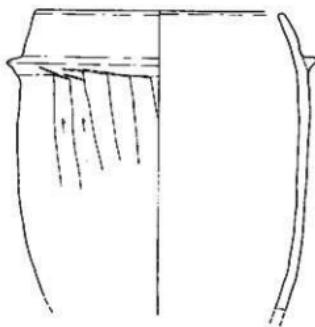
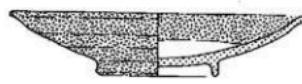
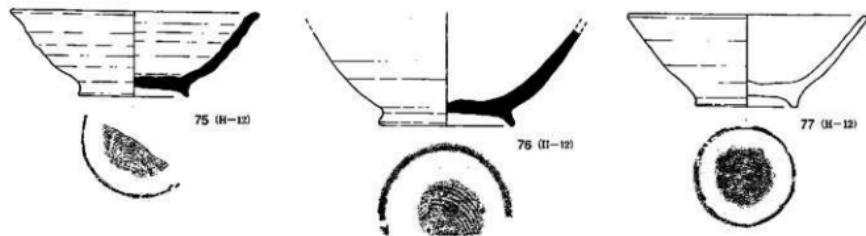


Fig.29 H-12・13号住居跡出土土器

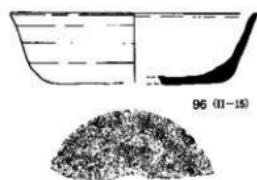
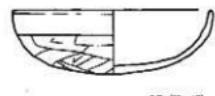
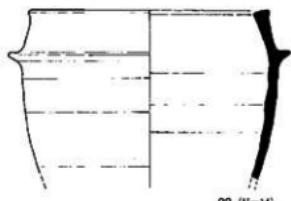
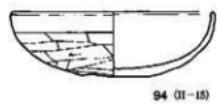
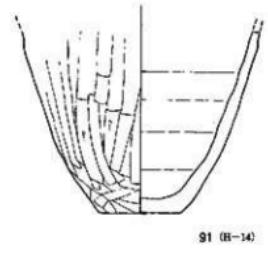
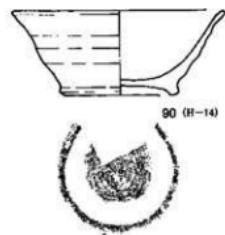
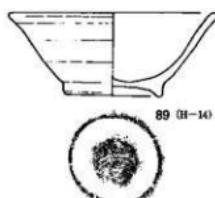
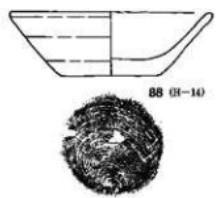
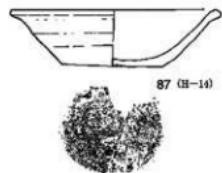
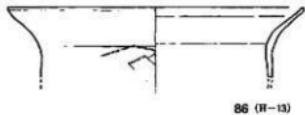
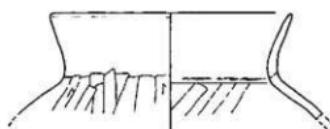
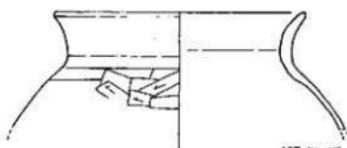
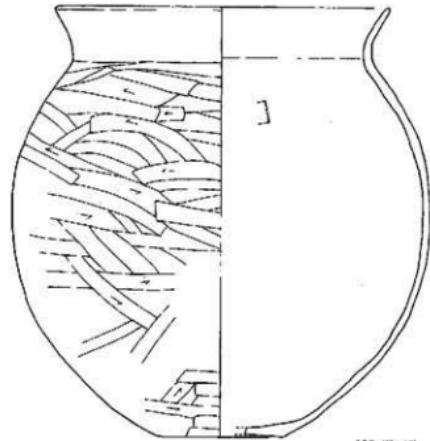
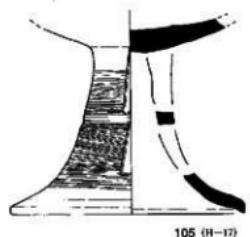
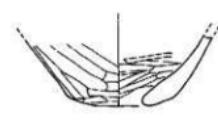
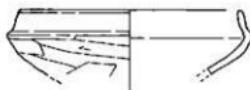
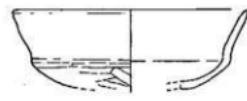
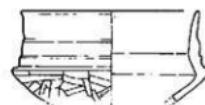
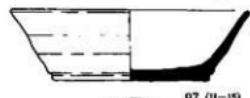


Fig.30 H-13~15号住居跡出土土器

0 1:4 10cm
(86,91~92)

0 1:3 10cm
(87~90,94~96)



0 1 : 4 10cm
(106~108)

0 1 : 3 10cm
(97~105)

Fig. 31 H-15・17号住居跡出土土器

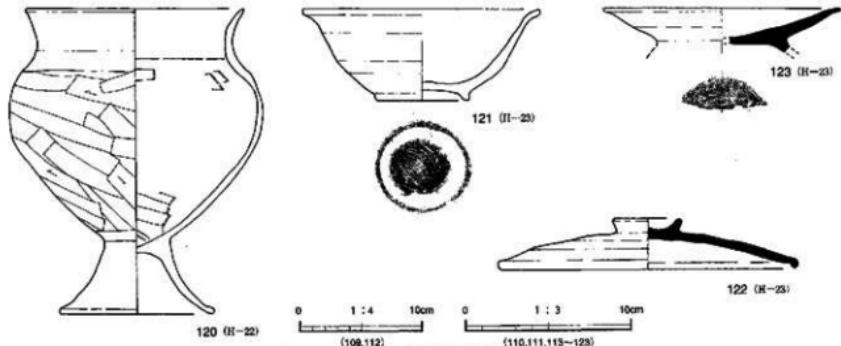
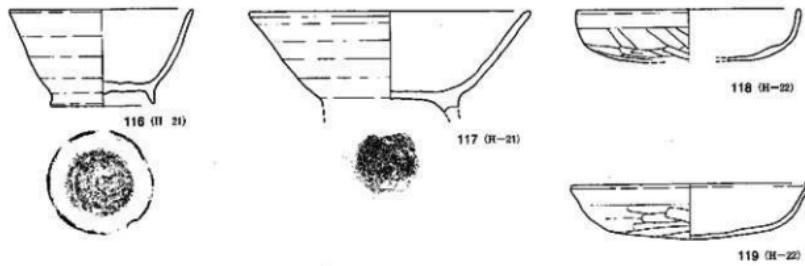
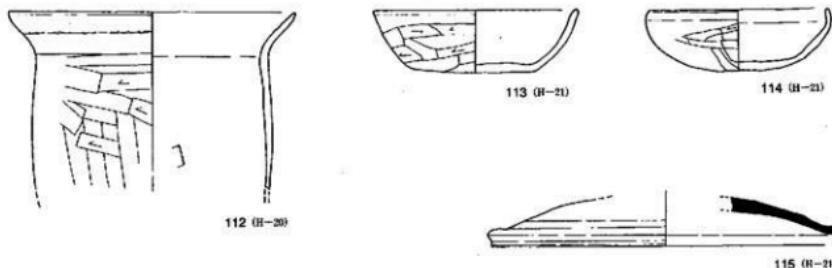
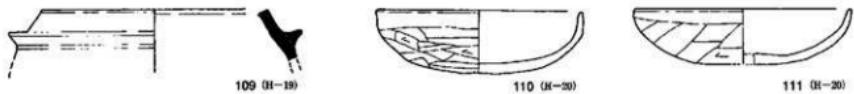


Fig.32 H-19~23号住居跡出土上器

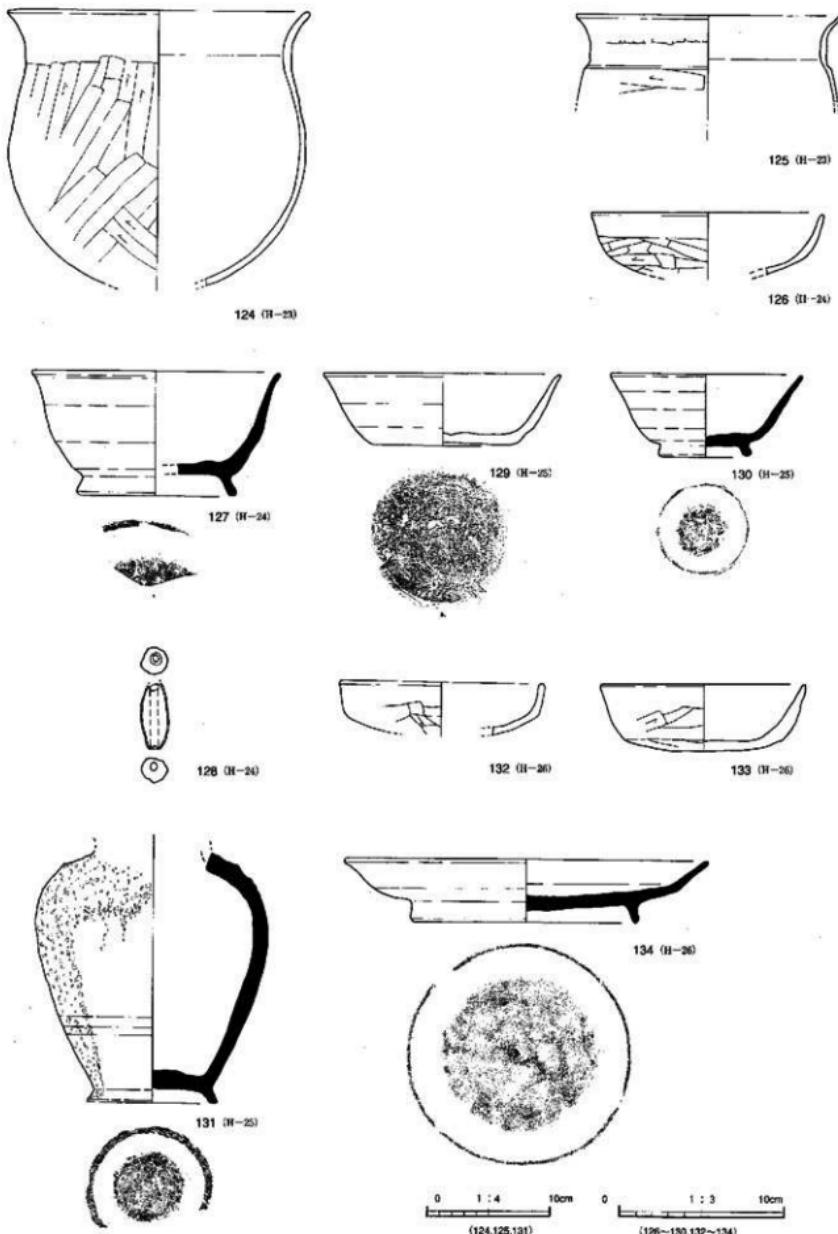


Fig.33 H-23~26号住居跡出土土器、H-24号住居跡出土鍾

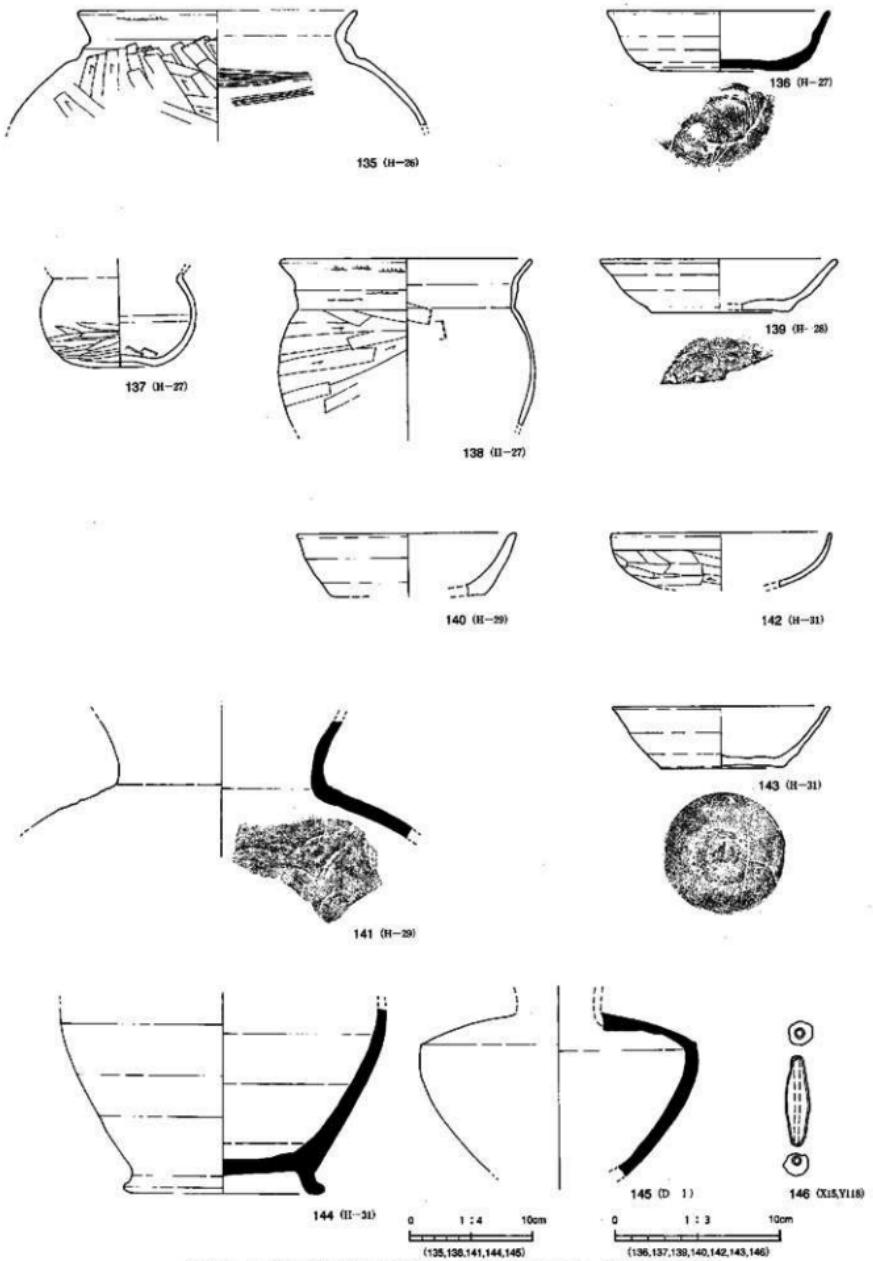


Fig.34 II-26~29・31号住居跡・D-1号土坑出土土器、グリッド出土土器

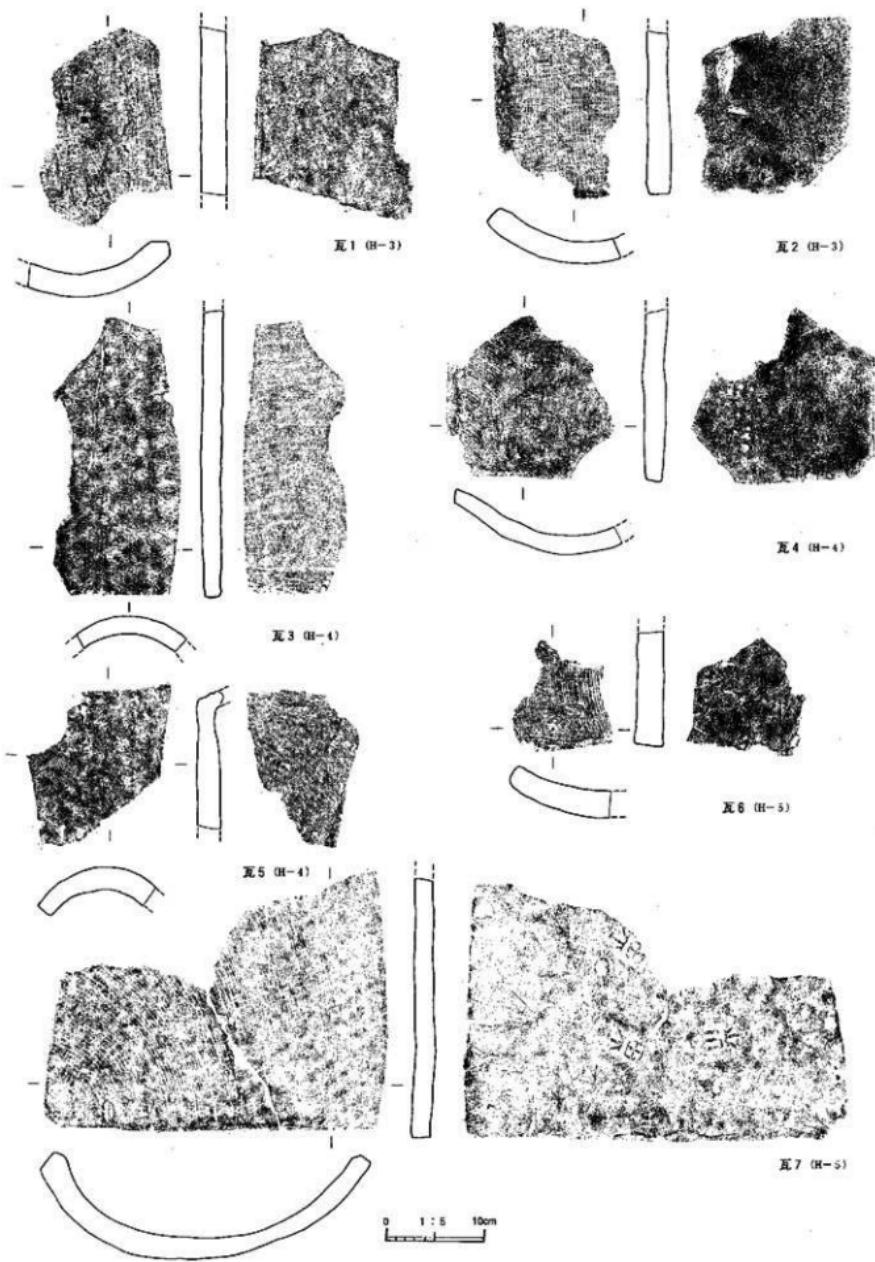
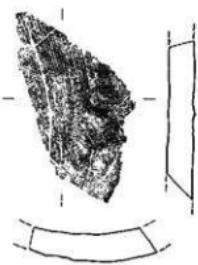
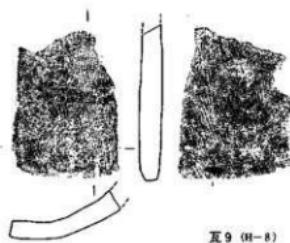


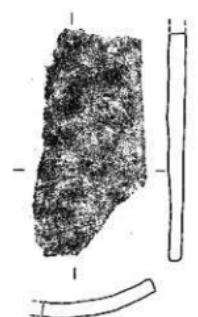
Fig.35 瓦 1 ~ 7



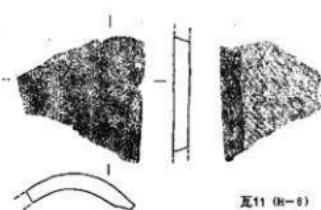
瓦8 (H-8)



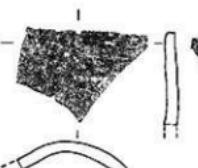
瓦9 (H-8)



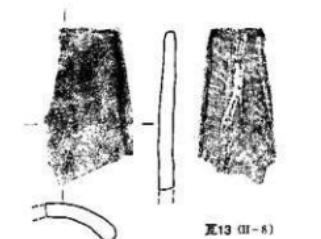
瓦10 (II-8)



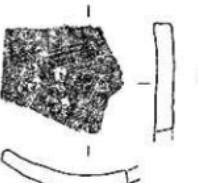
瓦11 (II-8)



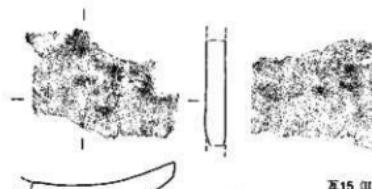
瓦12 (II-8)



瓦13 (II-8)



瓦14 (II-8)



瓦15 (II-8)

0 1 : 5 10cm
Fig.36 瓦8~15

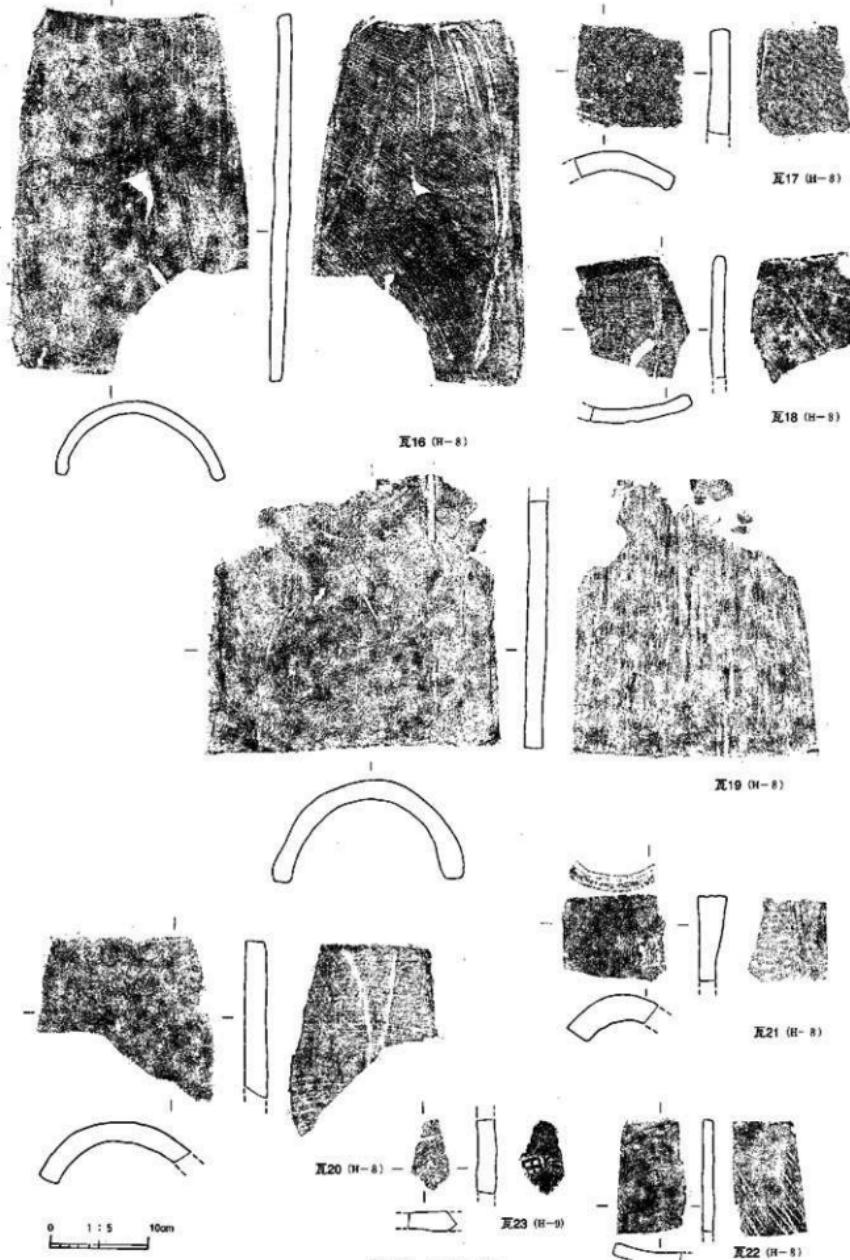


Fig.37 H16~23



图24 (H-9)

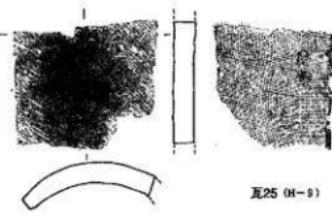


图25 (H-9)

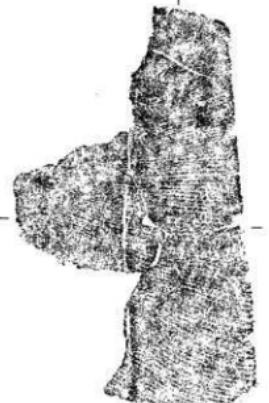


图26 (H-9)

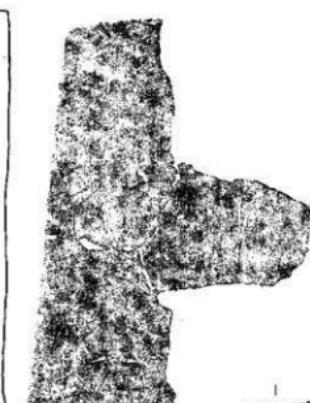


图27 (H-10)

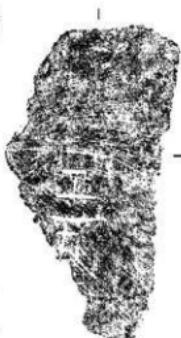


图28 (H-10)

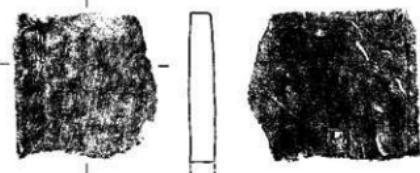


图29 (H-10)



图30 (H-10) 0 1 : 5 10cm

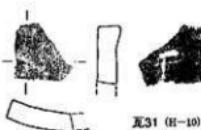


图31 (H-10)

Fig.38 图24~31

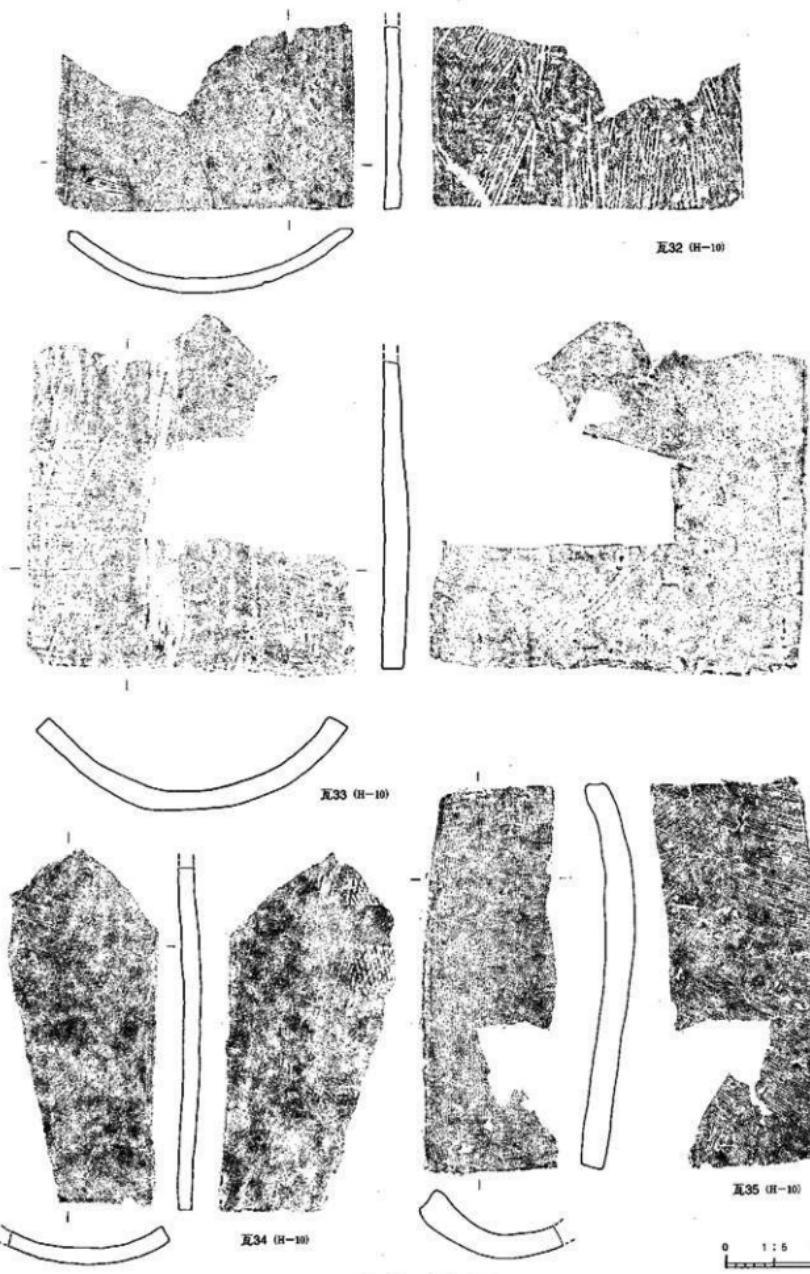


Fig.39 瓦32~35

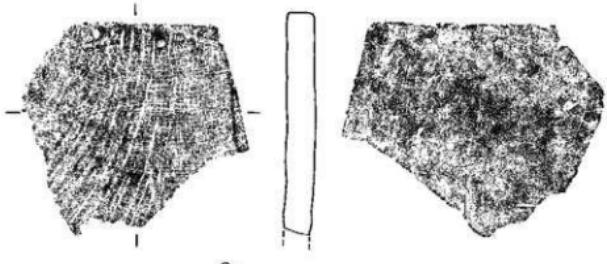


図36 (H-10)

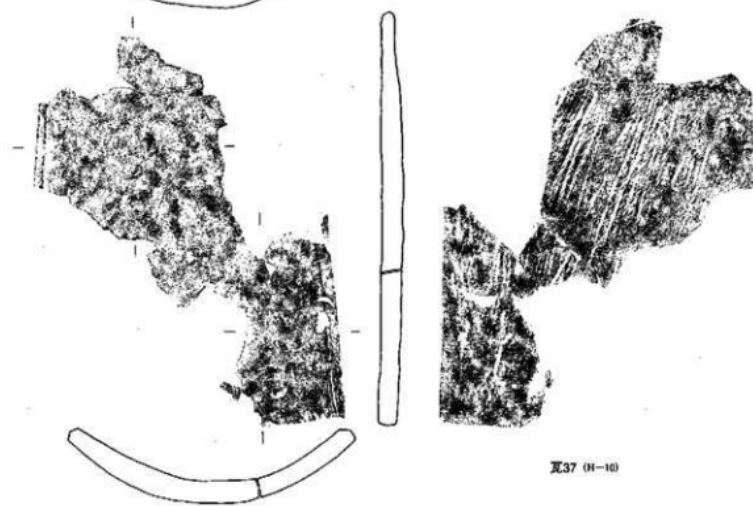


図37 (H-10)

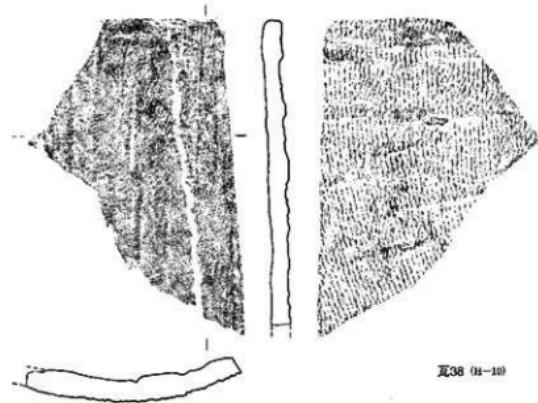
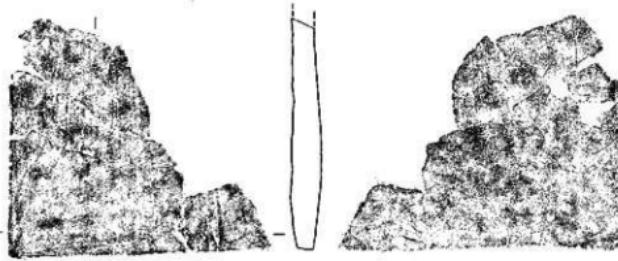


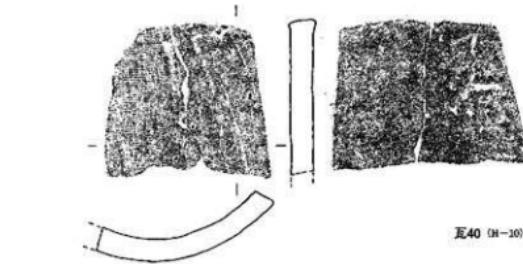
図38 (H-10)

0 1 : 5 10cm

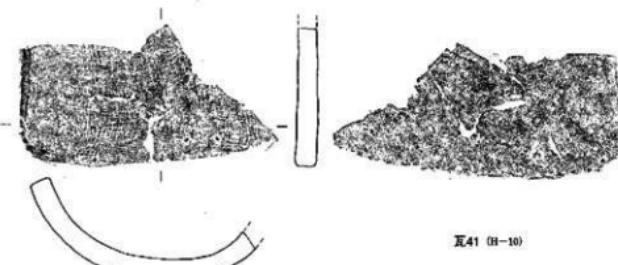
Fig.40 図36~38



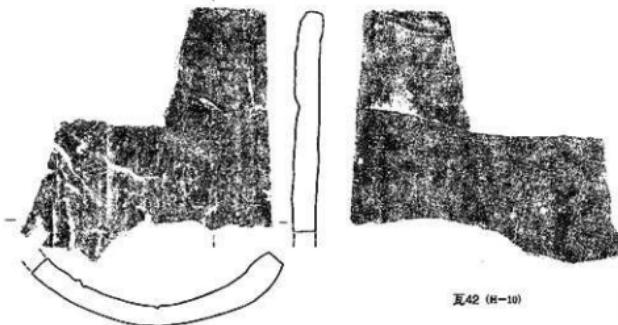
瓦39 (H-10)



瓦40 (H-10)



瓦41 (H-10)



瓦42 (H-10)

0 1 : 5 10cm

Fig.41 瓦39~42

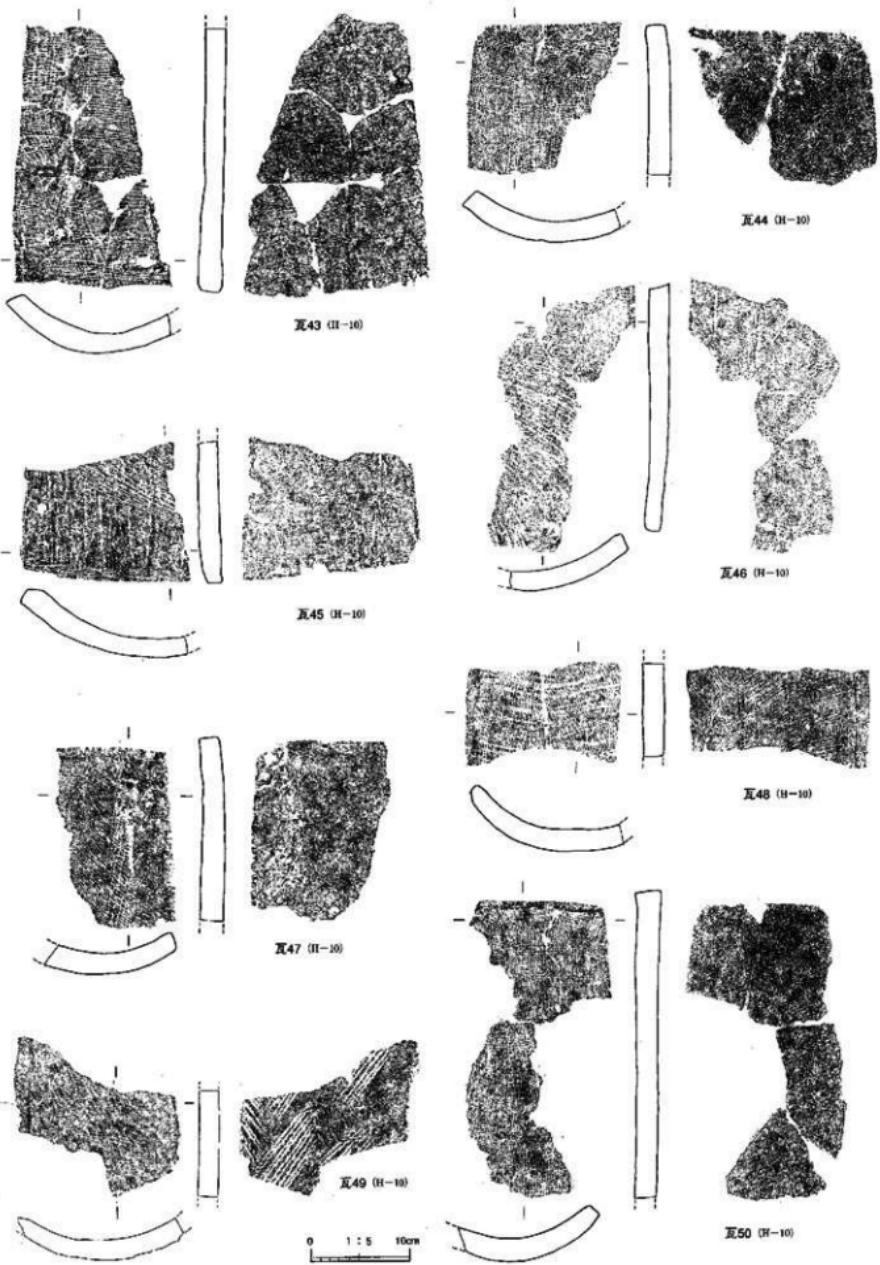


Fig. 42 H43~50

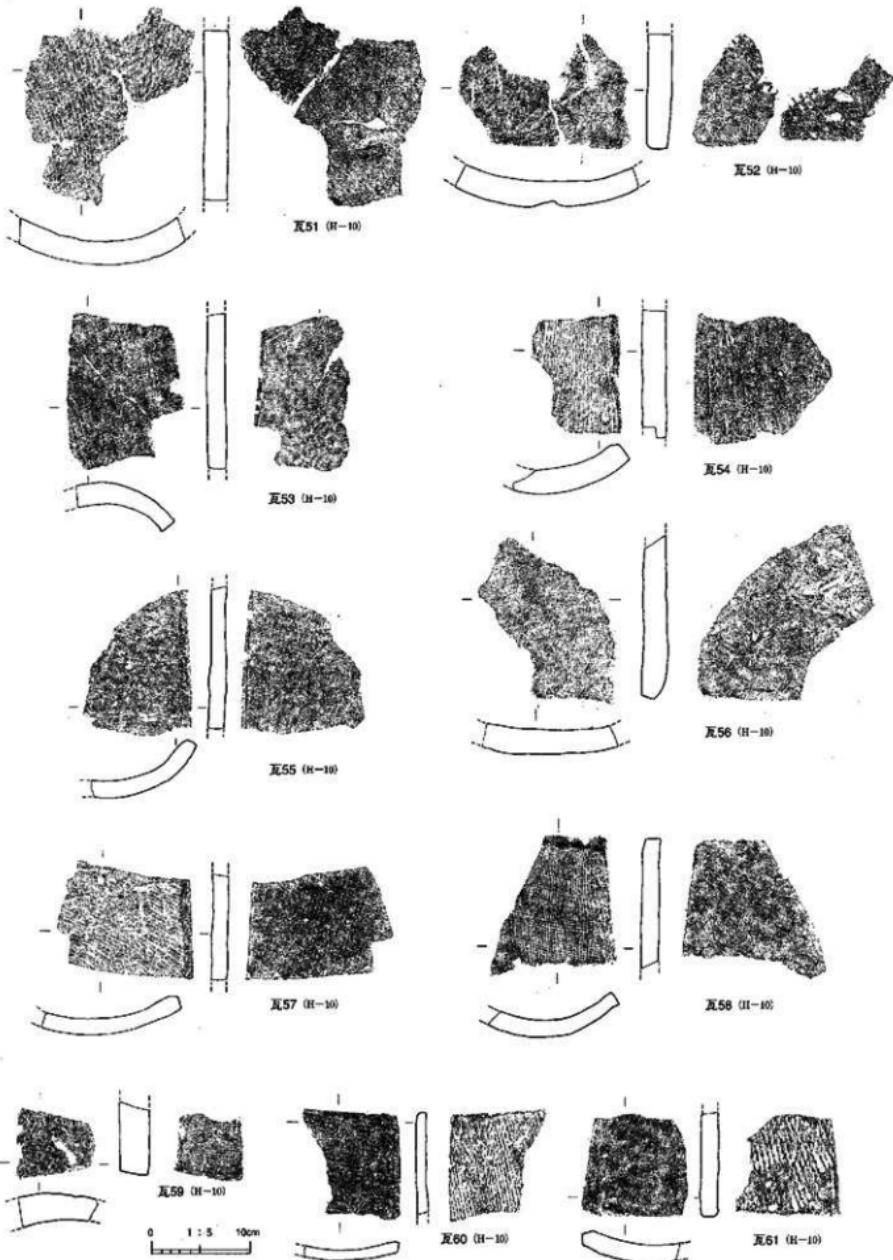


Fig.43 W51~61

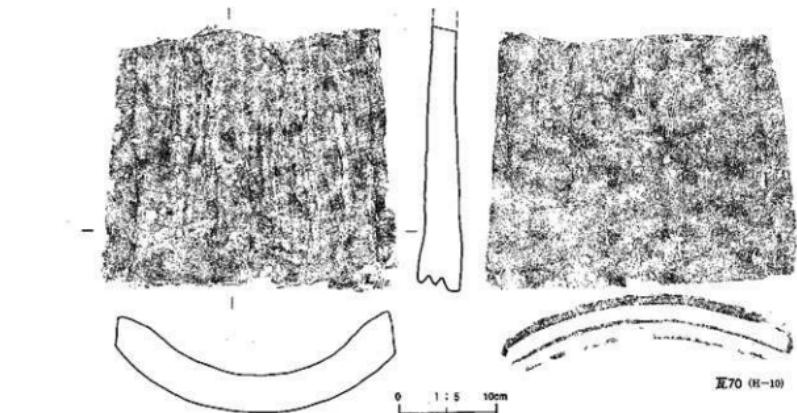
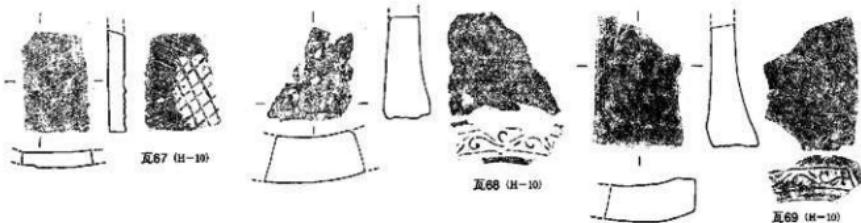
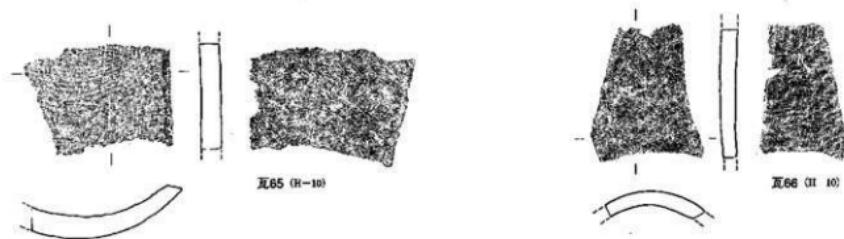
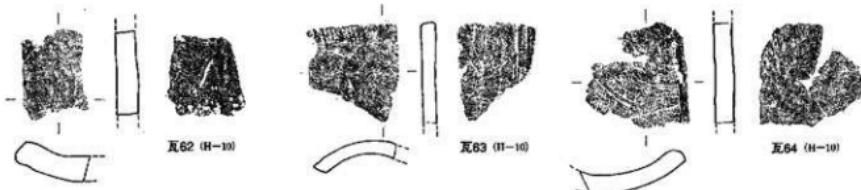


Fig.44 瓦62~70

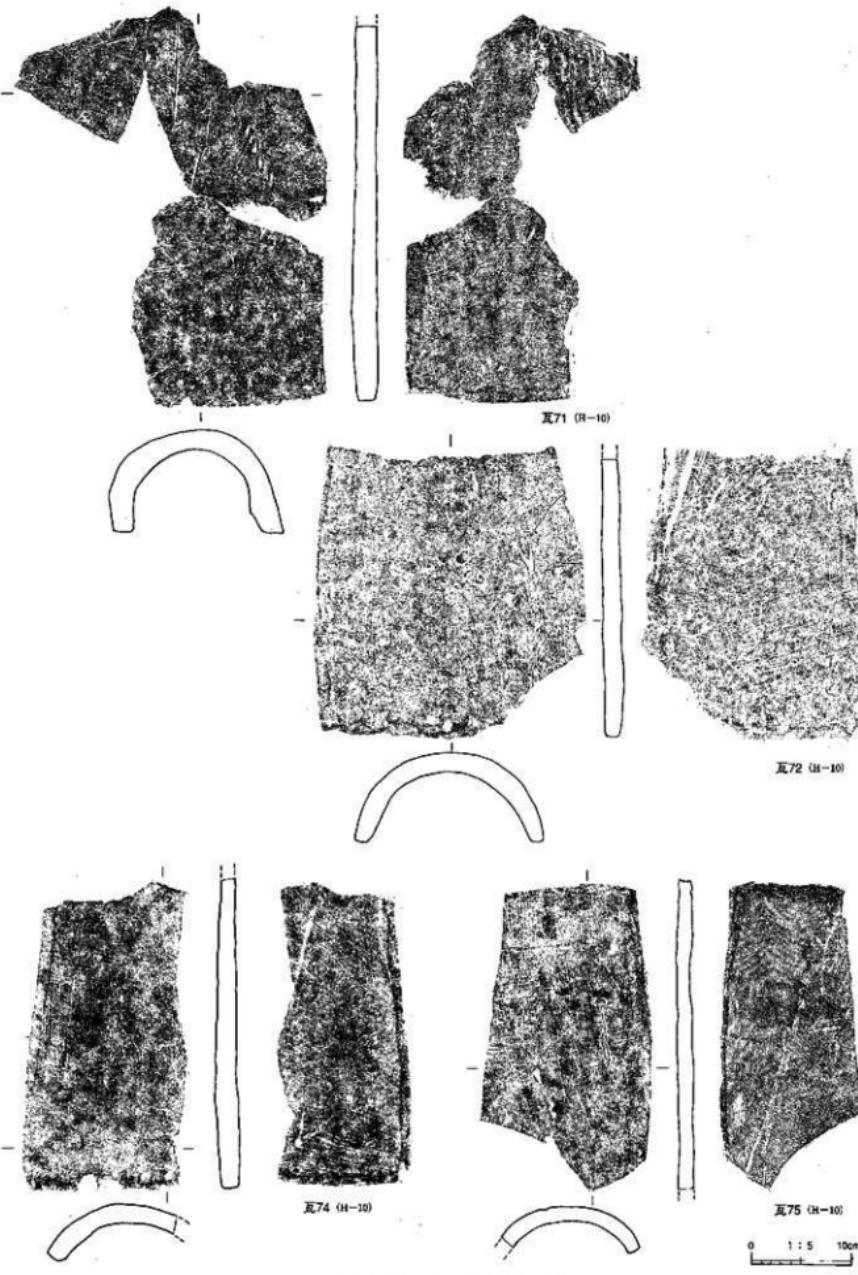
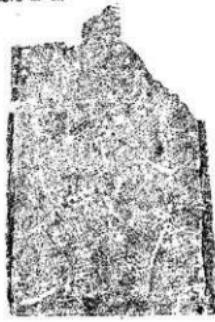
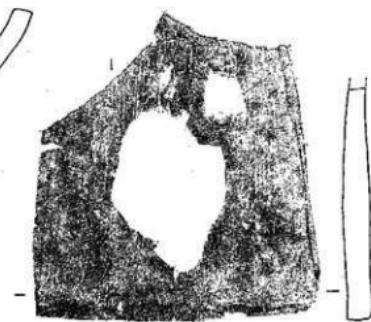


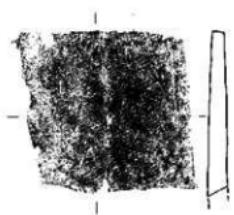
Fig.45 H71·72·74·75



M73 (H-10)



M76 (H-10)



M77 (H-10)



M78 (H-10)

0 1 : 5 10cm

Fig.46 M73 · 76~78

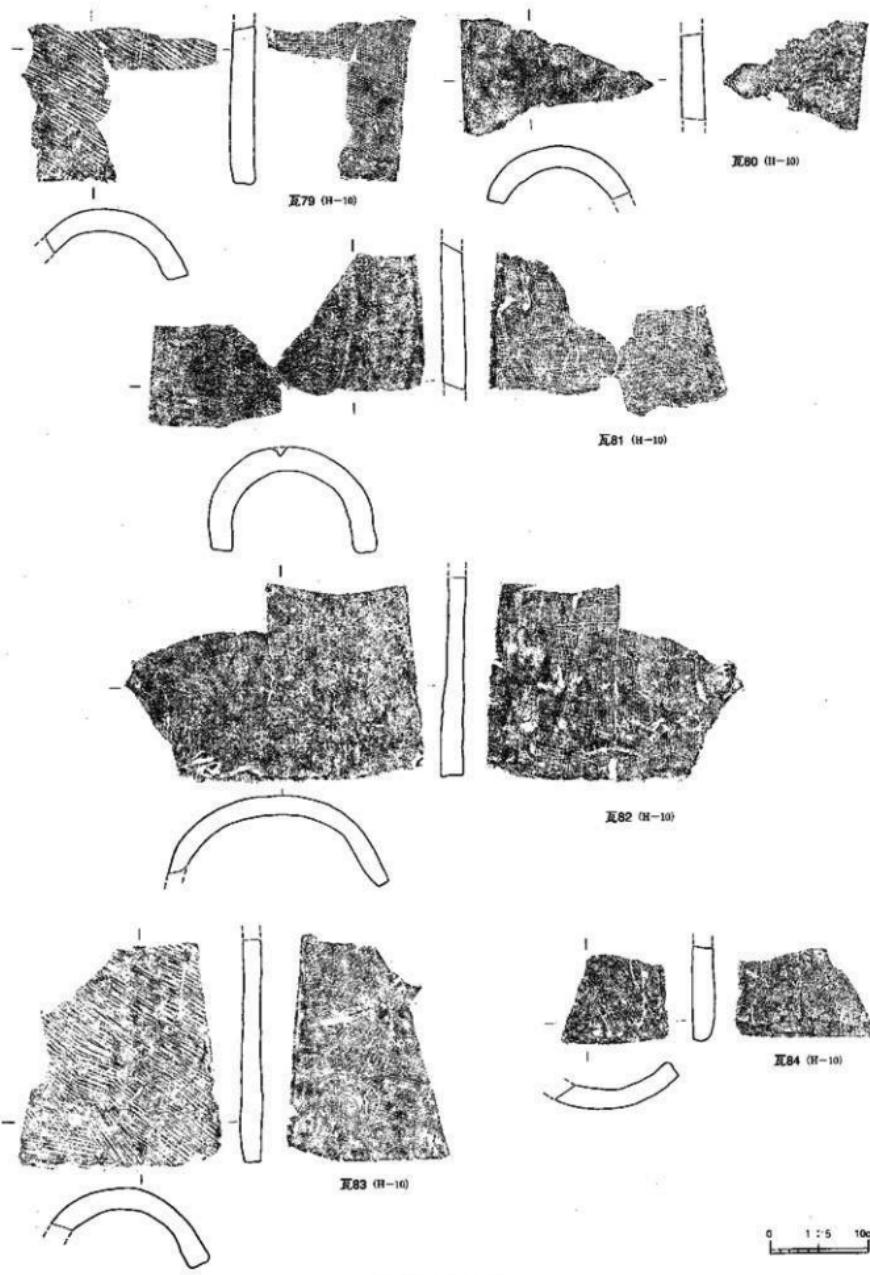


Fig.47 E79~84

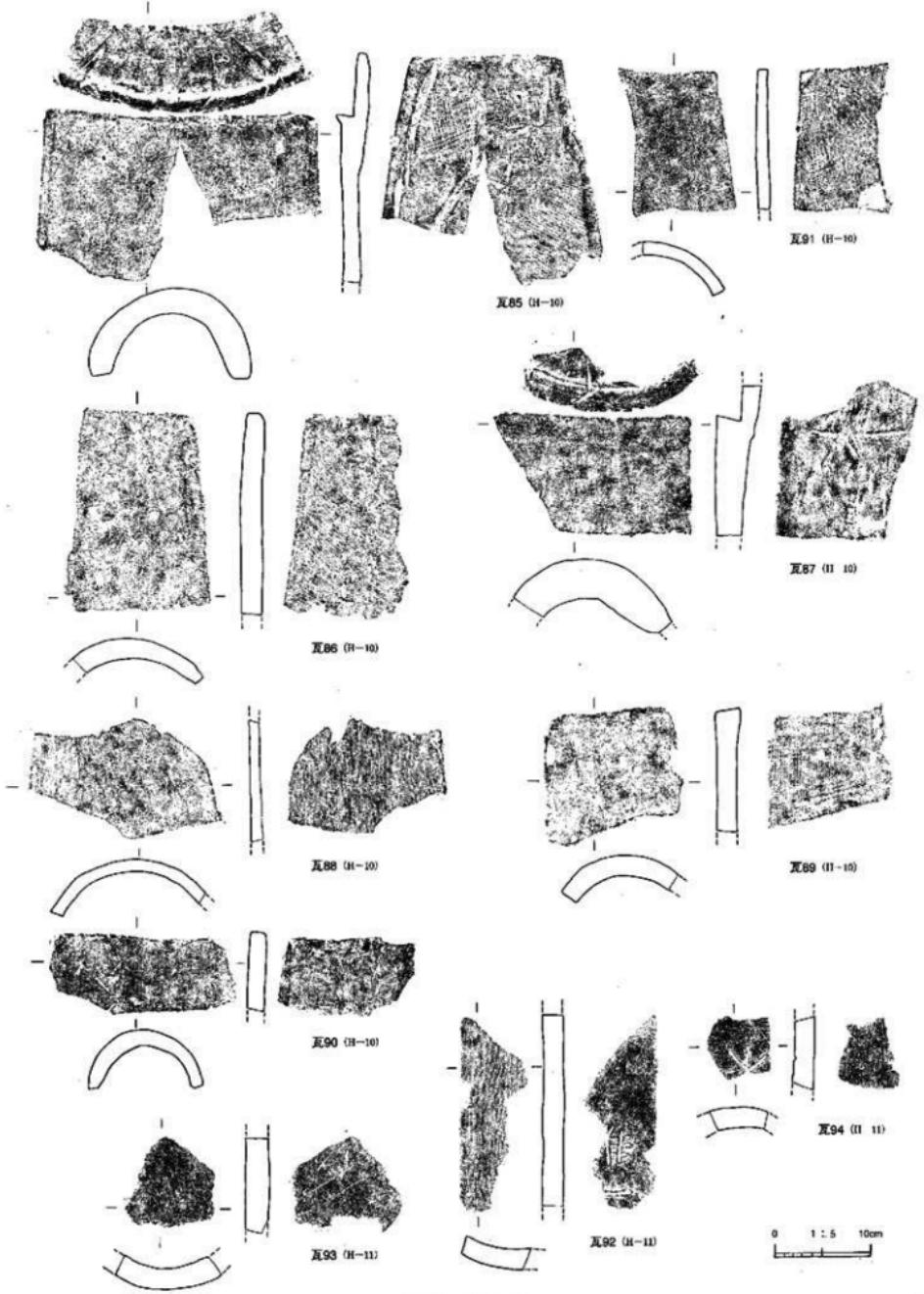


Fig.48 H85~94

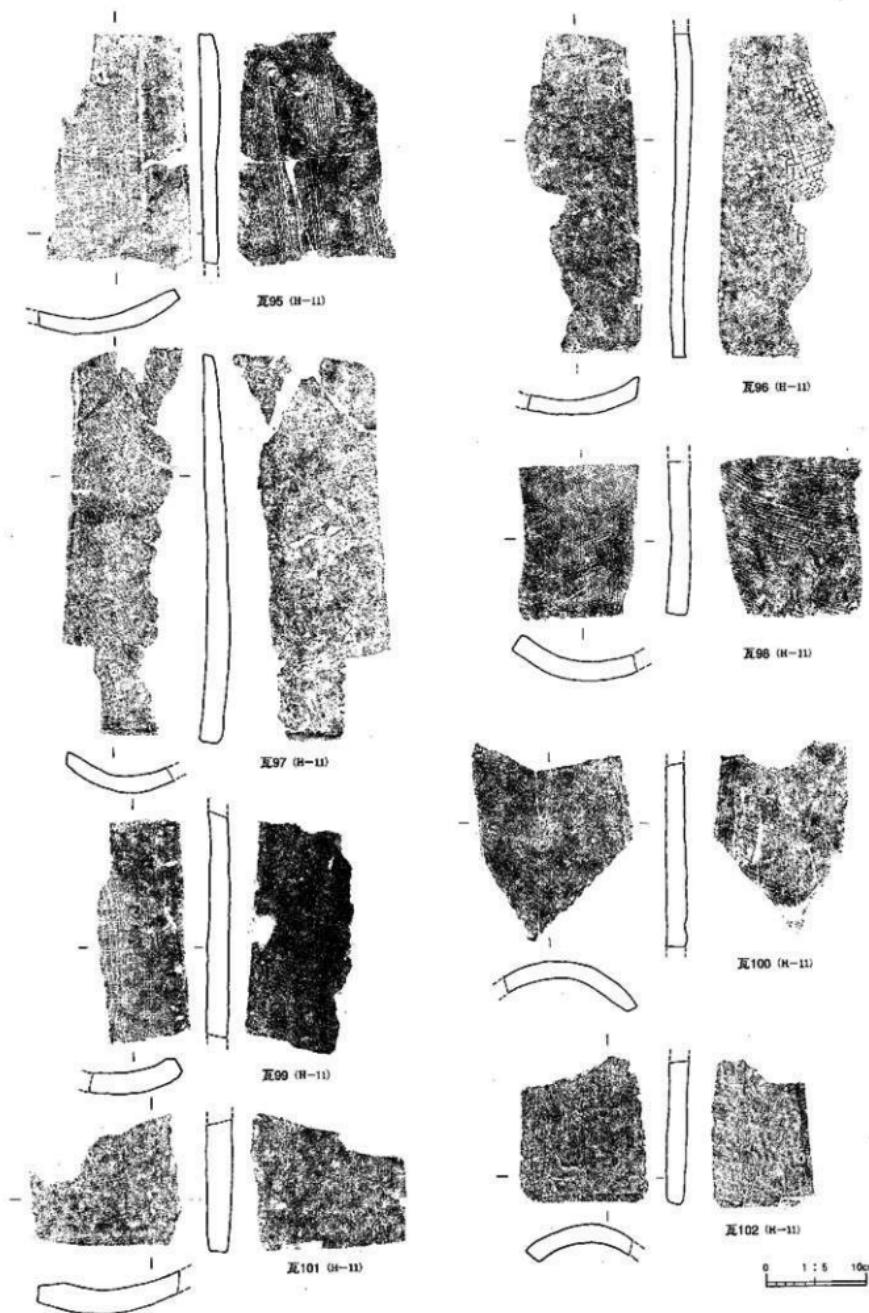


Fig.49 瓦95~102

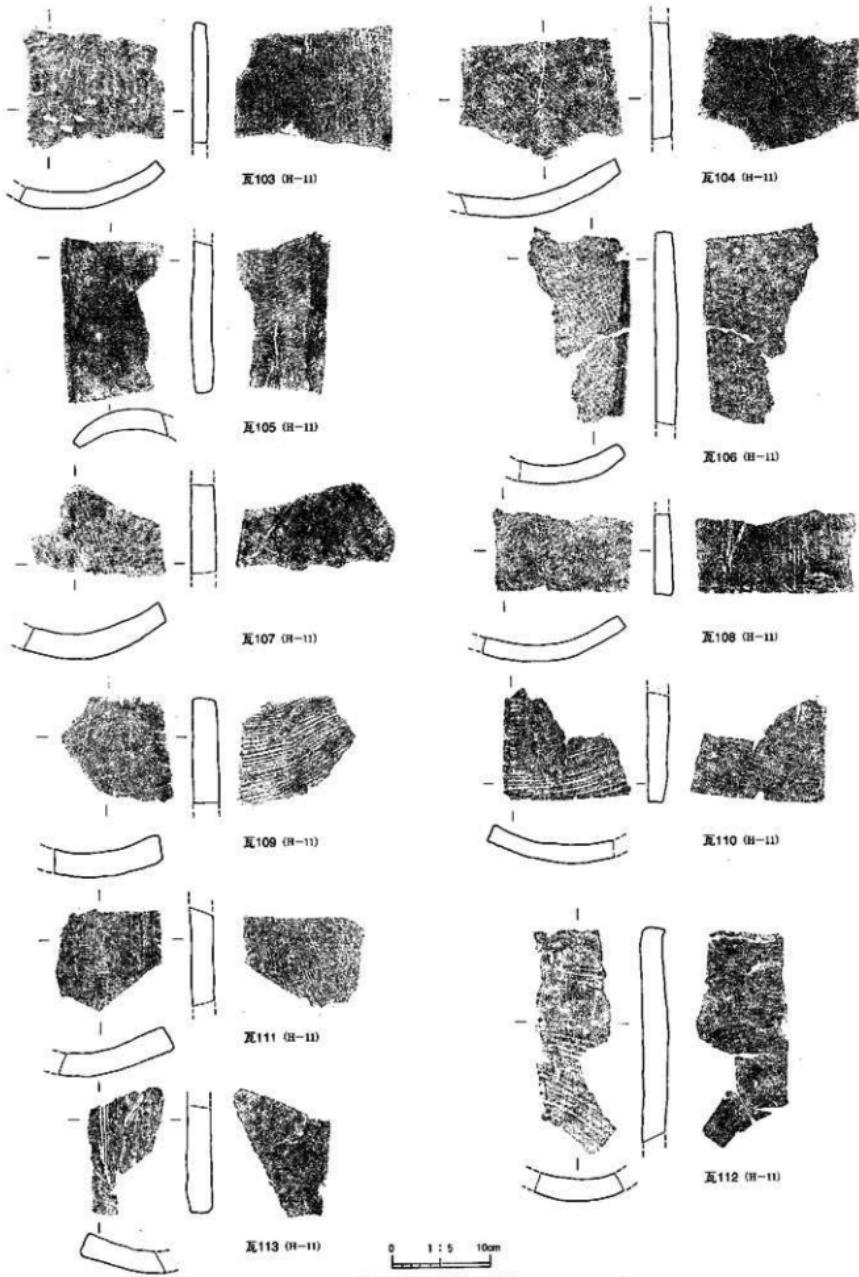


Fig.50 瓦103~113

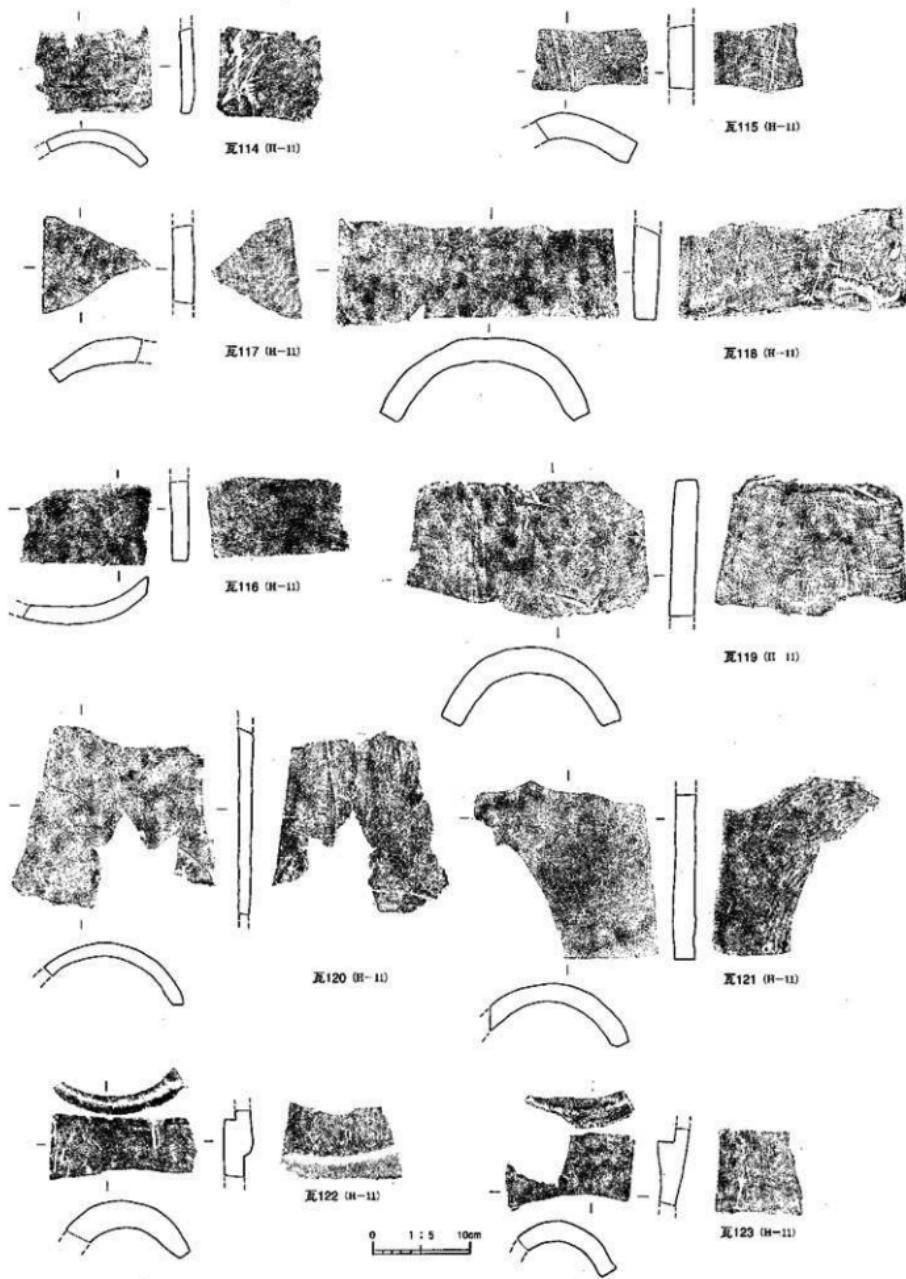


Fig.51 瓦114~123

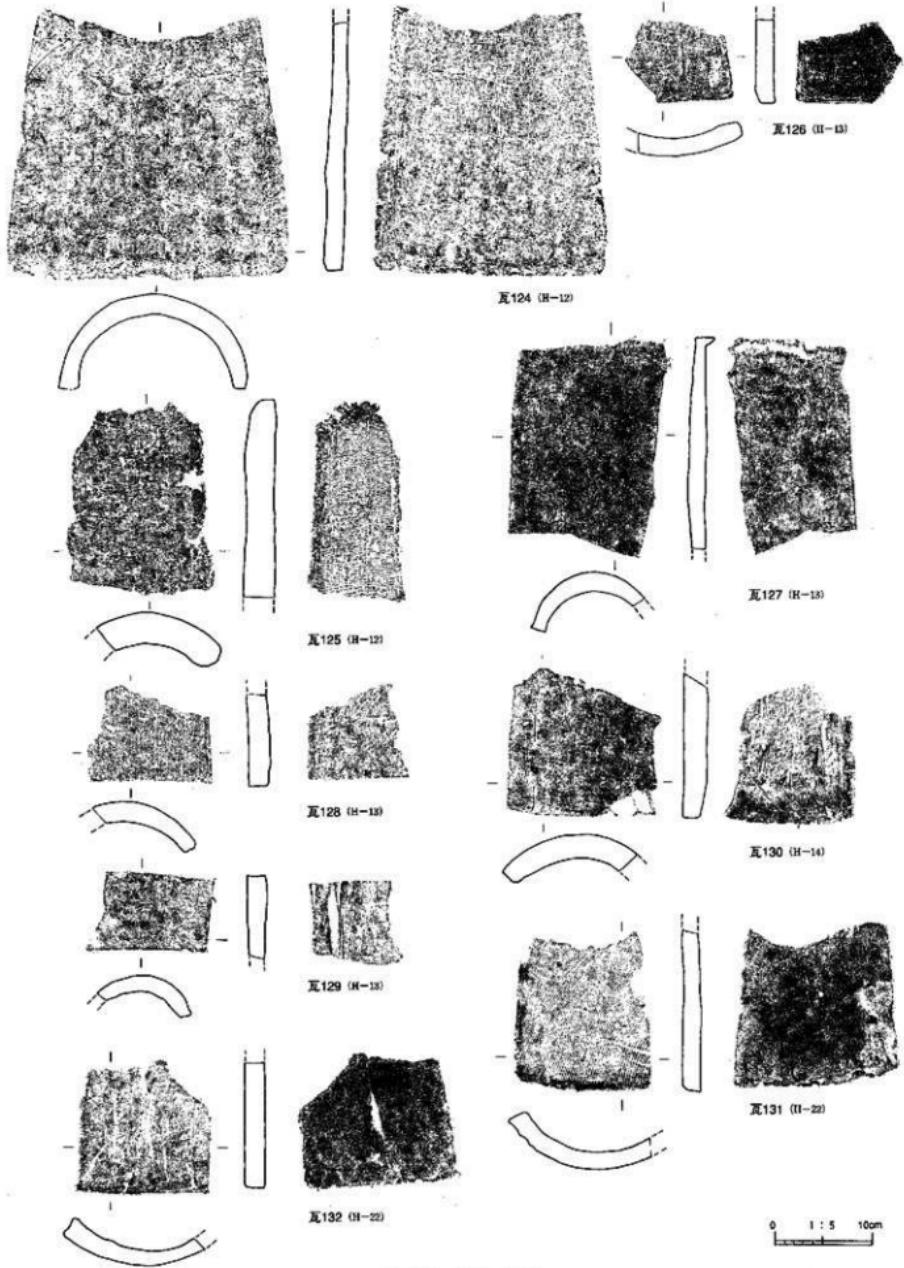


Fig. 52 瓦124~132

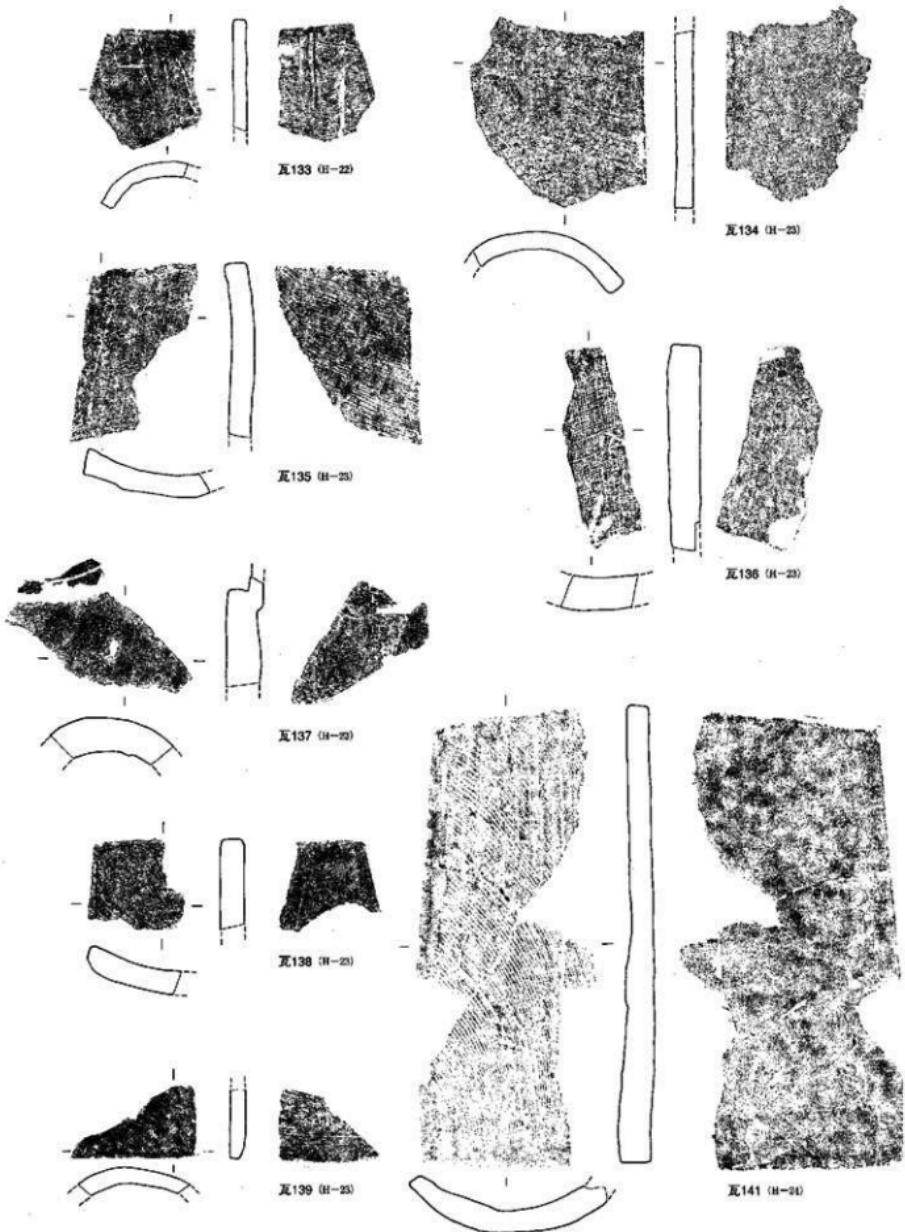


Fig.53 瓦133~139・141

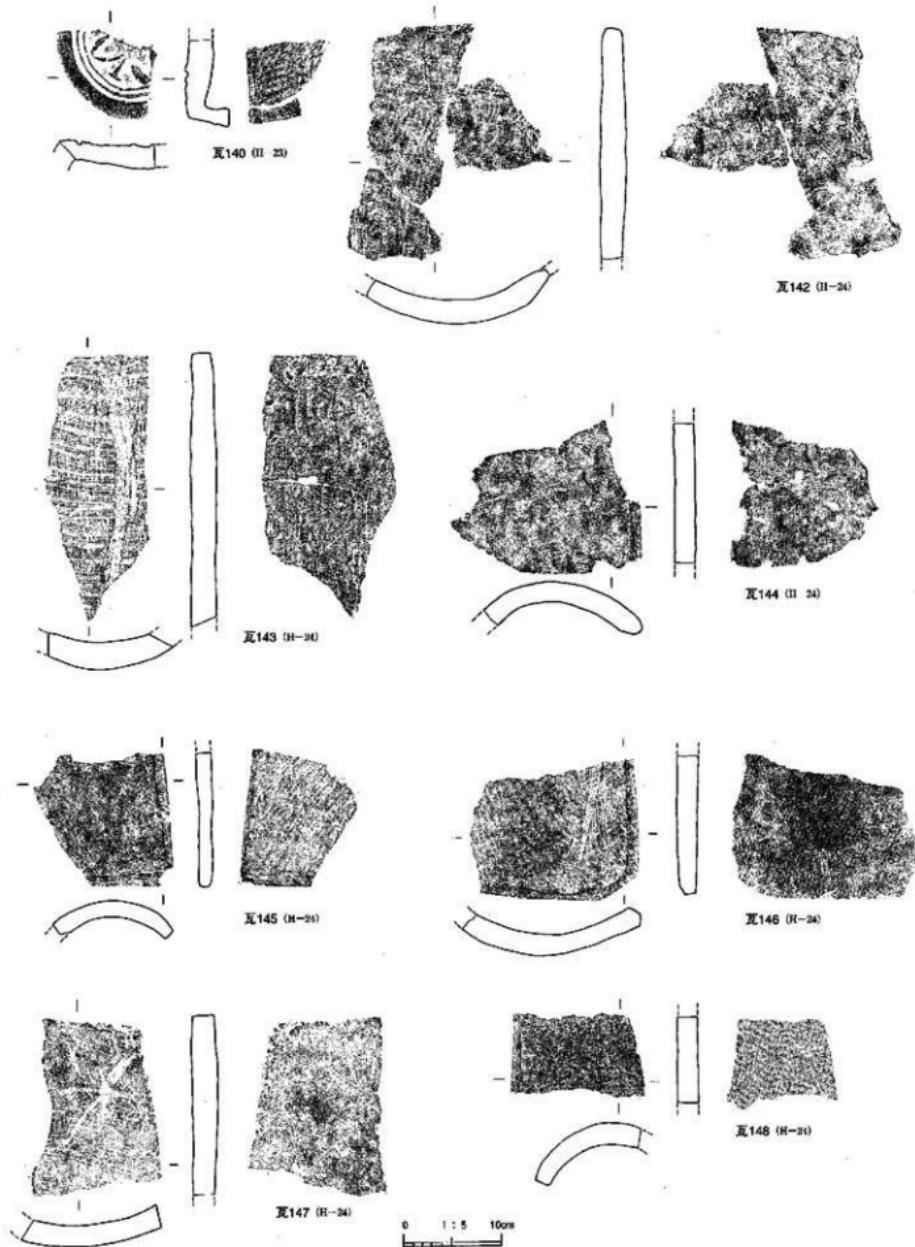
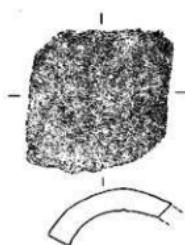
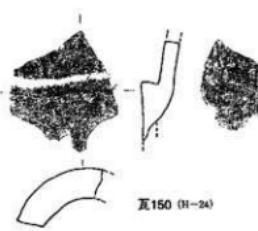


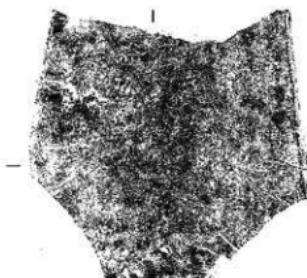
Fig.54 瓦140・142~148



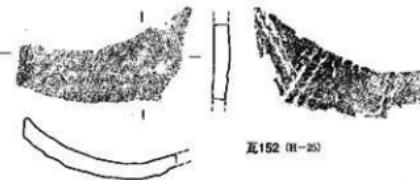
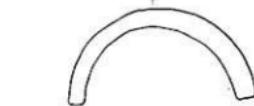
图H149 (H-20)



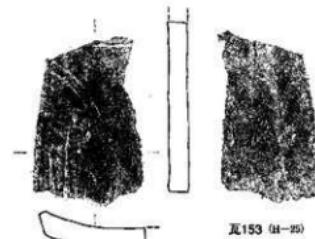
图H150 (H-24)



图H151 (H-24)



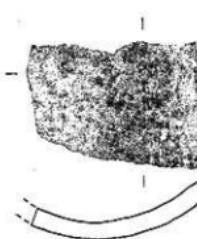
图H152 (H-25)



图H153 (H-25)



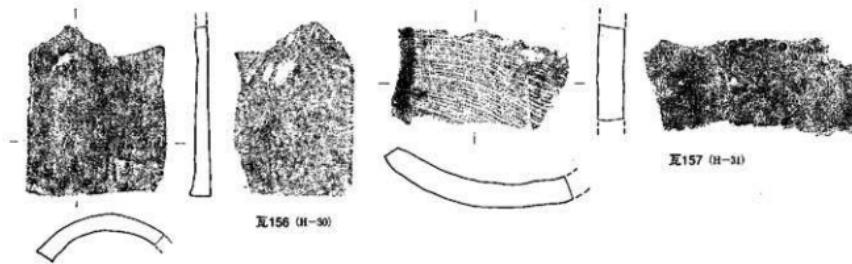
图H154 (H-25)



图H155 (H-28)

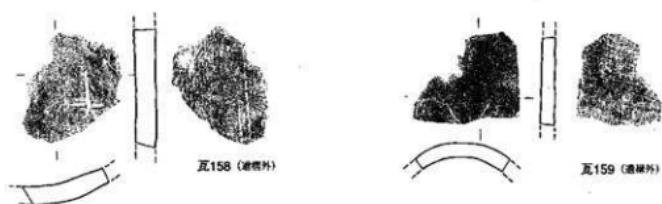
0 1 : 5 10cm

Fig.55 H149~155



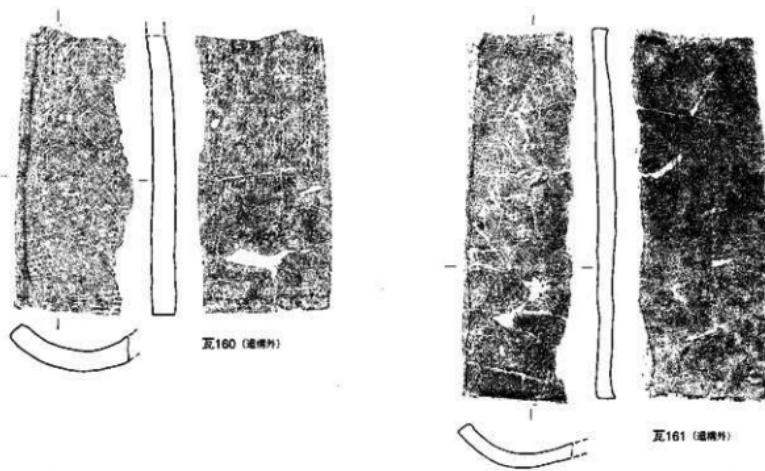
瓦156 (H-30)

瓦157 (H-31)



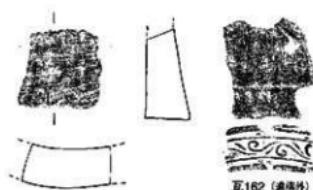
瓦158 (通模外)

瓦159 (通模外)



瓦160 (通模外)

瓦161 (通模外)



瓦162 (通模外)

0 1 : 5 10cm

Fig.56 瓦156~162

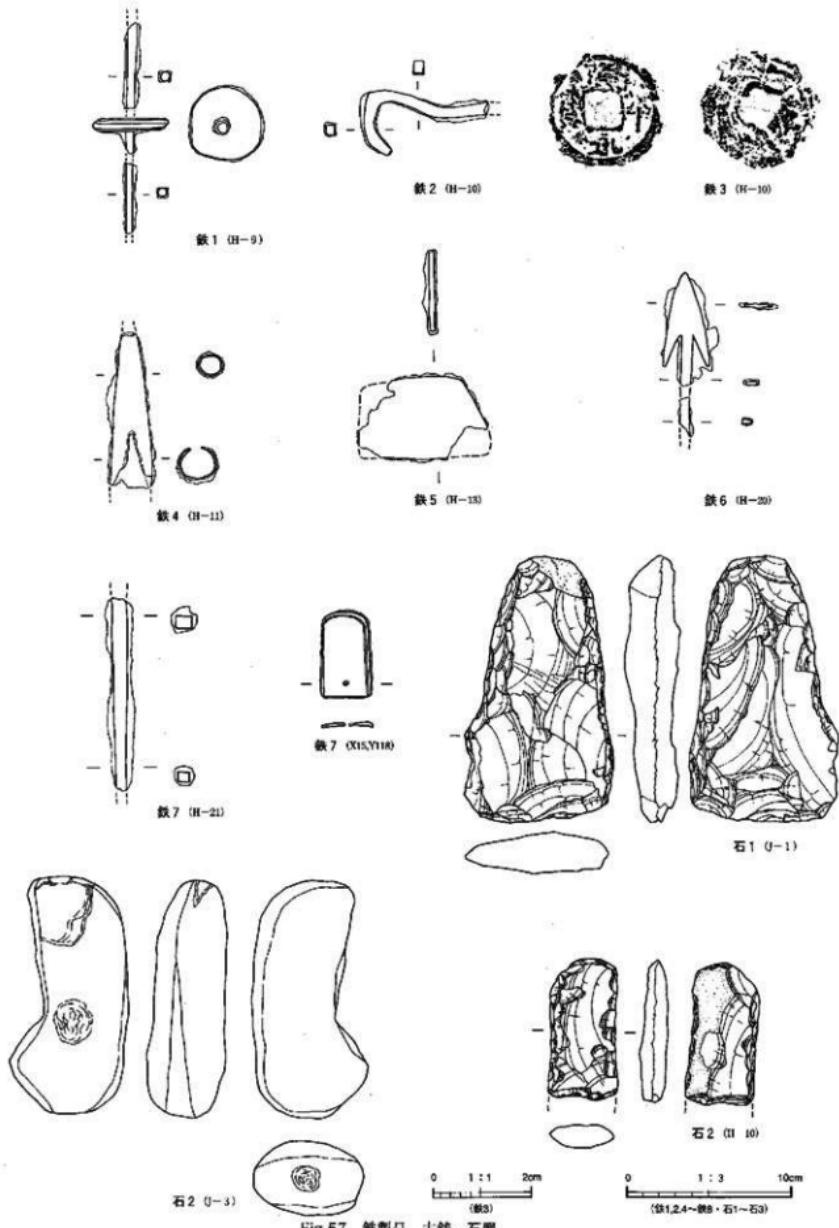
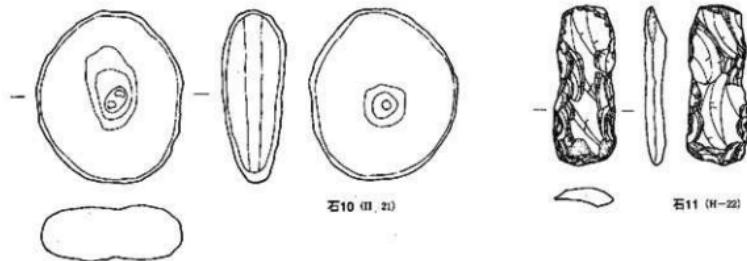
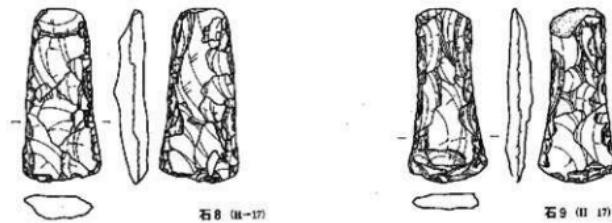
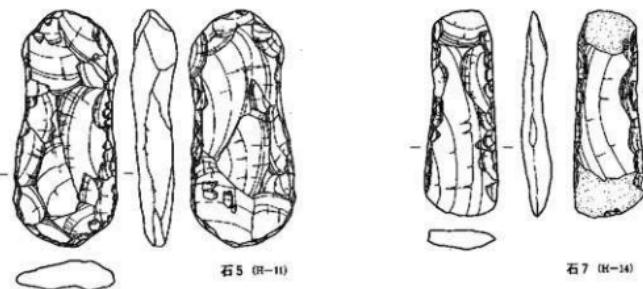


Fig. 57 鐵製品、古銭、石器



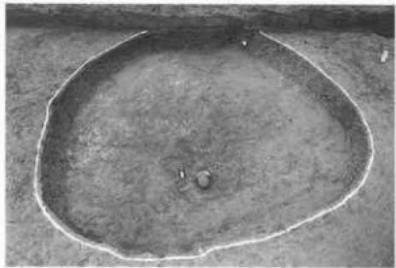
0 1 : 1 2cm
(石4・石6)

0 1 : 3 10cm
(石5・石7～石11)

Fig. 58 石器



調査区中央部全景（南から）



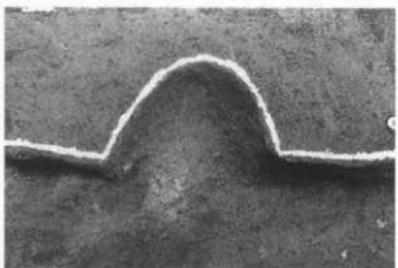
J-1号住居跡全景（東から）



J-2号住居跡全景（西から）



J-3号住居跡全景（東から）



H-2号住居跡全景（西から）



H-3号住居跡全景 (西から)



H-3号住居跡遺物 (西から)



H-3号住居跡遺物出土状況 (西から)



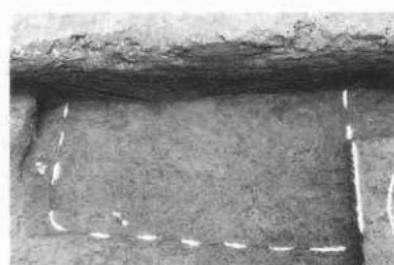
H-3号住居跡遺物出土状況 (西から)



H-4号住居跡全景 (西から)



H-4号住居跡遺物 (西から)



H-5号住居跡全景 (西から)



H-7号住居跡全景 (西から)



H-6号住居跡全景 (西から)



H-6号住居跡縫遺全景 (西から)



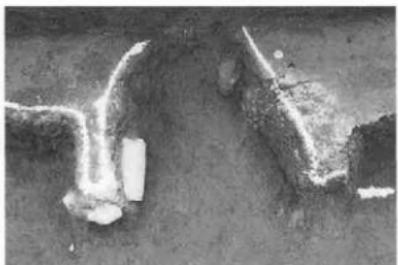
H-6号住居跡遺物出土状況 (西から)



H-9号住居跡遺物出土状況 (西から)



H-8号住居跡全景 (西から)



H-8号住居跡縫遺全景 (西から)



H-9号住居跡全景 (西から)



H-9号住居跡縫遺全景 (西から)



H-10号住居跡全景 (西から)



H-10号住居跡縫全景 (西から)



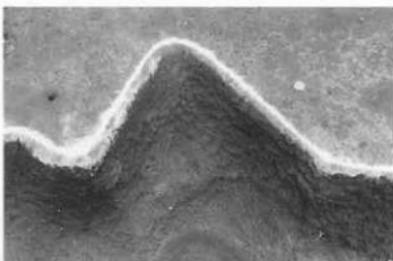
H-10号住居跡遺物出土状況 (西から)



H-11号住居跡遺物出土状況 (西から)



H-11号住居跡全景 (西から)



H-11号住居跡縫全景 (西から)



H-11号住居跡遺物出土状況 (北から)



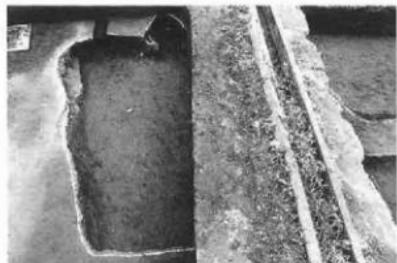
H-15号住居跡全景 (西から)



H-12号住居跡全景(西から)



H-12号住居跡遺全景(西から)



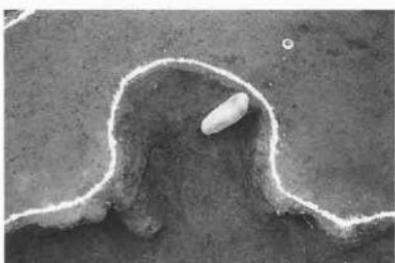
H-13号住居跡全景(西から)



H-13号住居跡遺全景(西から)



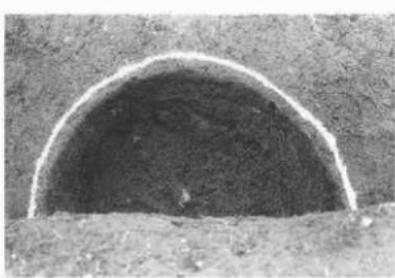
H-14号住居跡全景(西から)



H-14号住居跡遺全景(西から)



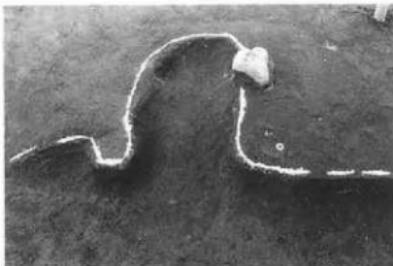
H-14号住居跡遺物出土状況(南から)



H-16号住居跡遺全景(西から)



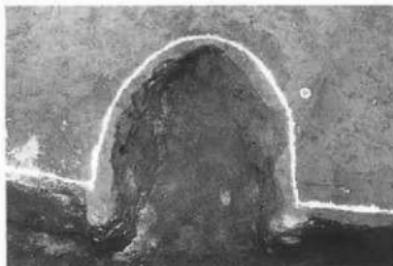
H-17号住居跡全景（西から）



H-18号住居跡全景（西から）



H-19号住居跡全景（西から）



H-19号住居跡全景（西から）



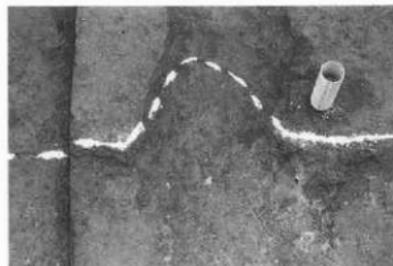
H-20号住居跡全景（西から）



H-21号住居跡全景（西から）



H-22号住居跡全景（西から）



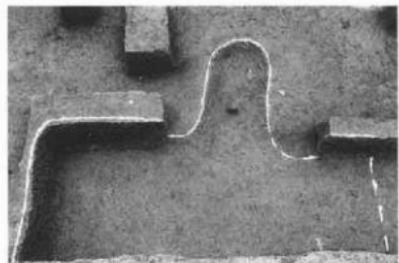
H-22号住居跡全景（西から）



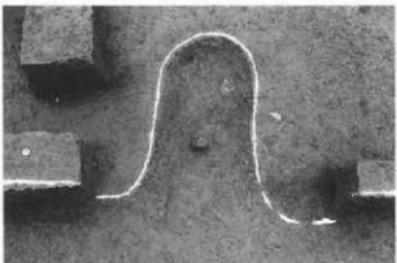
H-22号住居跡遺物出土状況（南から）



H-26号住居跡遺物出土状況（西から）



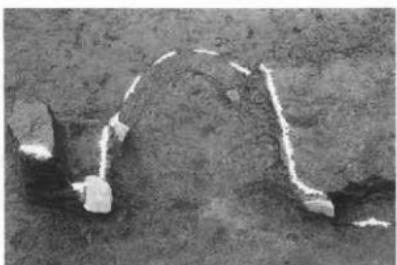
H-23号住居跡全景（西から）



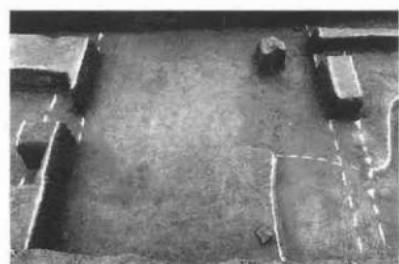
H-23号住居跡全景（西から）



H-24号住居跡全景（西から）



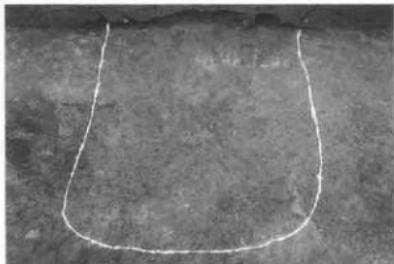
H-24号住居跡全景（西から）



H-25号住居跡全景（西から）



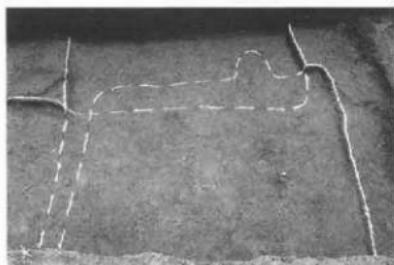
H-26号住居跡全景（西から）



H-27号住居跡全景 (西から)



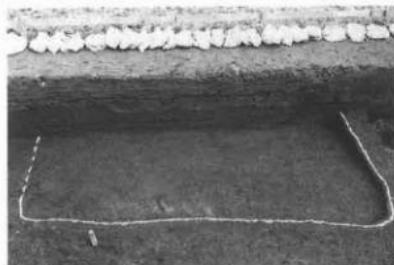
H-28号住居跡全景 (西から)



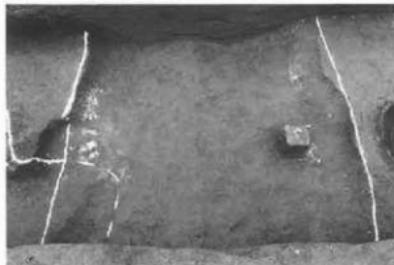
H-29・30号住居跡全景 (西から)



H-29号住居跡遺全景 (西から)



H-31号住居跡全景 (西から)



W-1号溝跡 (西から)



W-2号消跡全景 (東から)



調査を終えて



圖2 (J-1)



圖3 (J-1)



圖4 (J-1)



圖5 (J-1)



圖6 (J-1)



圖7 (J-1)



圖8 (J-1)



圖9 (J-1)



圖10 (J-1)



圖11 (J-2)



圖12 (J-2)



圖13 (J-2)



圖14 (J-2)



圖15 (J-2)



圖16 (J-2)



圖17 (J-3)



圖18 (J-3)



圖19 (J-3)



圖20 (J-3)



圖21 (遺物外)



圖22 (遺物外)



圖23 (遺物外)



圖24 (遺物外)



圖25 (遺物外)

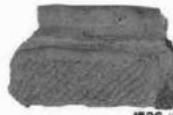


圖26 (遺物外)



1 (H-2)



2 (H-3)



3 (H-3)



4 (H-3)



5 (H-3)



10 (H-3)



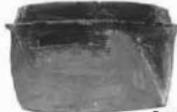
6 (H-3)



7 (H-3)



17 (H-6)



9 (H-3)



12 (H-4)



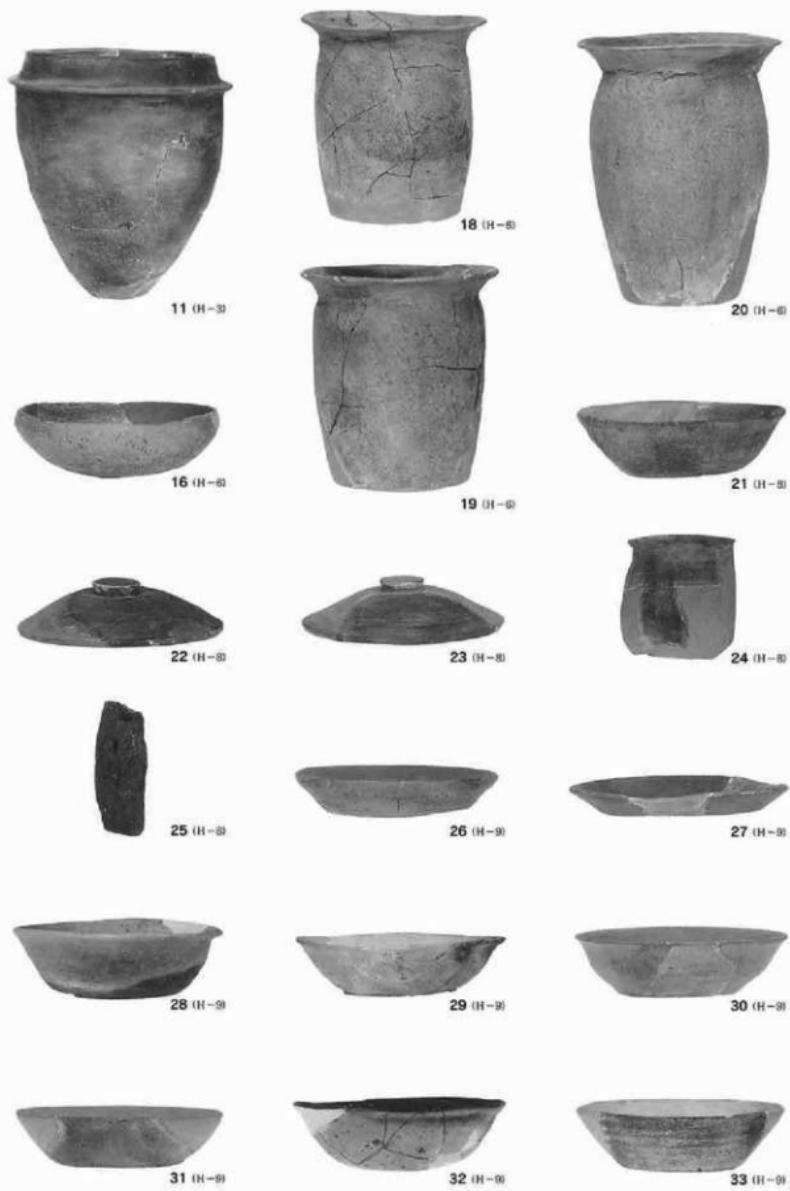
15 (H-5)



13 (H-4)



14 (H-5)



P L . 12



34 (H-9)



35 (H-9)



37 (H-9)



38 (H-10)



39 (H-10)



41 (H-10)



42 (H-10)



43 (H-10)



44 (H-10)



45 (H-10)



46 (H-10)



47 (H-10)



48 (H-10)



49 (H-10)



50 (H-10)



51 (H-10)



52 (H-10)



53 (H-10)



54 (H-10)



55 (H-10)



56 (H-10)



57 (H-10)



58 (H-11)



59 (H-11)



60 (H-11)



61 (H-11)



62 (H-11)



63 (H-11)



64 (H-11)



67 (H-11)



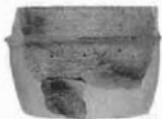
65 (H-11)



66 (H-11)



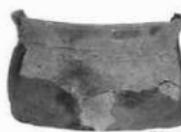
68 (H-11)



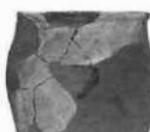
69 (H-11)



70 (H-11)



71 (H-11)



72 (H-11)



73 (H-12)



74 (H-12)



75 (H-12)



79 (H-12)



76 (H-12)



77 (H-12)



78 (H-12)



81 (H-12)



80 (H-12)



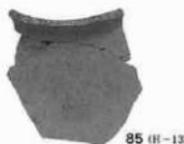
82 (H-13)



83 (H-13)



84 (H-13)



85 (H-13)



86 (H-13)



87 (H-14)



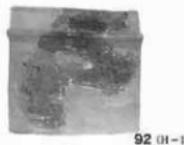
88 (H-14)



89 (H-14)



90 (H-14)



92 (H-14)



94 (H-15)



95 (H-15)



97 (H-15)



98 (H-19)



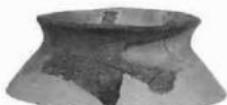
99 (H-17)



100 (H-17)



101 (H-17)



107 (H-17)



103 (H-17)



104 (H-17)

106 (H-17)



110 (H-20)



112 (H-20)



113 (H-21)



114 (H-21)



115 (H-21)



116 (H-21)



117 (H-21)



118 (H-22)



119 (H-22)



121 (H-23)



122 (H-23)



105 (H-17)



123 (H-23)



126 (H-24)



127 (H-24)



131 (H-25)



120 (H-22)



128 (H-24)



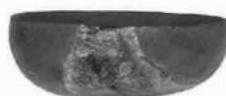
129 (H-25)



130 (H-25)



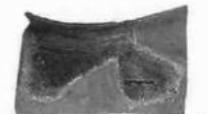
179 (H-31)



133 (H-26)



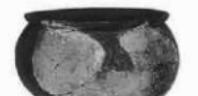
134 (H-26)



135 (H-26)



136 (H-27)



137 (H-27)



138 (H-27)



139 (H-28)



140 (H-29)



142 (H-31)



143 (H-31)



146 (X15Y11B)



H4 (H-4)



H4 (H-4)



H3 (H-4)



H3 (H-4)



H7 (H-8)



H7 (H-8)



H5 (H-4)



H5 (H-4)



H7 (H-8)



H7 (H-8)



H7 (H-8)



H8 (H-8)



H8 (H-8)



H8 (H-8)



图16 (H-8)



图16 (H-8)



图10 (H-8)



图19 (H-8)



图19 (H-8)



图20 (H-8)



图23 (H-9)



图27 (H-10)



图27 (H-10)



图34 (H-10)



图28 (H-10)



图28 (H-10)



图27 (H-10)

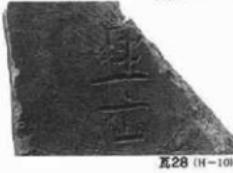
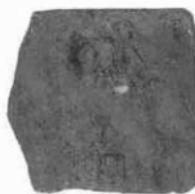


图28 (H-10)



瓦29 (H-10)



瓦29 (H-10)



瓦29 (H-10)



瓦31 (H-10)



瓦32 (H-10)



瓦32 (H-10)



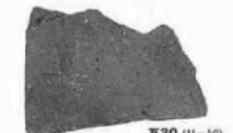
瓦32 (H-10)



瓦33 (H-10)



瓦33 (H-10)



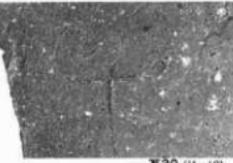
瓦30 (H-10)



瓦36 (H-10)



瓦36 (H-10)



瓦30 (H-10)



瓦48 (H-10)



瓦52 (H-10)



瓦35 (H-10)



图38 (H-10)



图38 (H-10)



图37 (H-10)



图68 (H-10)



图68 (H-10)



图42 (H-10)

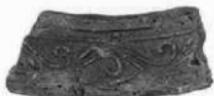


图68 (H-10)



图67 (H-10)



图73 (H-10)



图69 (H-10)



图69 (H-10)



图72 (H-10)



图72 (H-10)



图75 (H-10)



图87 (H-10)



H-10



H-10



H-10



H-10



H-10



H-10



H-10



H-10



H-10



H-10



H-10



H-10



H-11



H-11



H-11



H-11
H-92



H-11
H-92



H-11
H-85



H-11
H-93



H-11
H-92



H-11
H-95



H-11
H-93



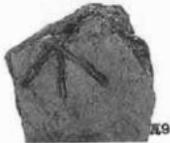
H-11
H-93



H-11
H-94



H-11
H-94



H-11
H-94



H-11
H-119



H-11
H-119



H-11
H-127



H-12
H-124



H-12
H-124



H-12
H-124



瓦131 (H-22)



瓦147 (H-24)



瓦143 (H-24)



瓦140 (H-25)



瓦141 (H-24)



瓦150 (H-24)



瓦140 (H-25)



瓦154 (H-25)



瓦151 (H-24)



瓦154 (H-25)



瓦155 (H-26)



瓦159 (道側外)



瓦162 (道側外)



瓦162 (道側外)



瓦158 (道側外)



瓦162 (道側外)



瓦158 (道側外)



瓦158 (道側外)



鉄1 (H-9)



鉄2 (H-10)



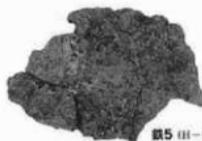
鉄3 (H-10)



鉄6 (H-20)



鉄4 (H-11)



鉄5 (H-13)



鉄7 (H-21)



鉄8 (X15Y118)



石1 (J-1)



石2 (J-8)



石3 (H-10)



石4 (H-11)



石5 (H-11)



石6 (H-12)



石7 (H-14)



石8 (H-17)



石9 (H-17)



石10 (H-21)



石11 (H-22)

フリガナ	モトソウジャオミイセキグン モトソウジャオミヨンイセキ
書名	元總社蒼海遺跡群 元總社小見IV遺跡
副書名	平成15年度 一般県道 足門前橋線バイパス(西毛広域幹線道路 国分寺工区)緊急地方道路整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
卷次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	高橋一彦・高坂麻子
編集機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
編集機関所在地	〒371-0018 群馬県前橋市三俣町二丁目10-2
発行年月日	西暦2004年3月12日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード 市町村 遺跡番号	位置		調査期間	調査面積	調査原因
			北緯	東経			
モトソウジャ 元總社 オミヨンイセキ 小見IV遺跡	マジバシ 前橋市 モトソウジャオミ 元總社町	10201 15A107	36°23'34"	139°01'33"	20030618 ~ 20030801	586.56m ²	一般県道足門前 橋線バイパス(西 毛広域幹線道路) 緊急地方道路整 備事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
元總社 小見IV遺跡	集落跡	縄文時代	竪穴住居跡3軒	縄文土器、石器	なし
		古墳時代	竪穴住居跡1軒	土師器	
		奈良時代	竪穴住居跡1軒	土師器、須恵器	
		平安時代	竪穴住居跡24軒	須恵器、石器、鐵器、瓦	
		中世	溝2条		
		その他	土坑1基 他		

元總社蒼海遺跡群
元總社小見IV遺跡

2004年3月5日 印刷
2004年3月12日 発行

編集発行 前橋市埋蔵文化発掘調査団
前橋市三俣町二丁目10-2
TEL 027-231-9531
印 刷 所 上越印刷工業株式会社

